

黒部古屋敷

—新潟県柏崎市 黒部古屋敷遺跡発掘調査報告書—

2014

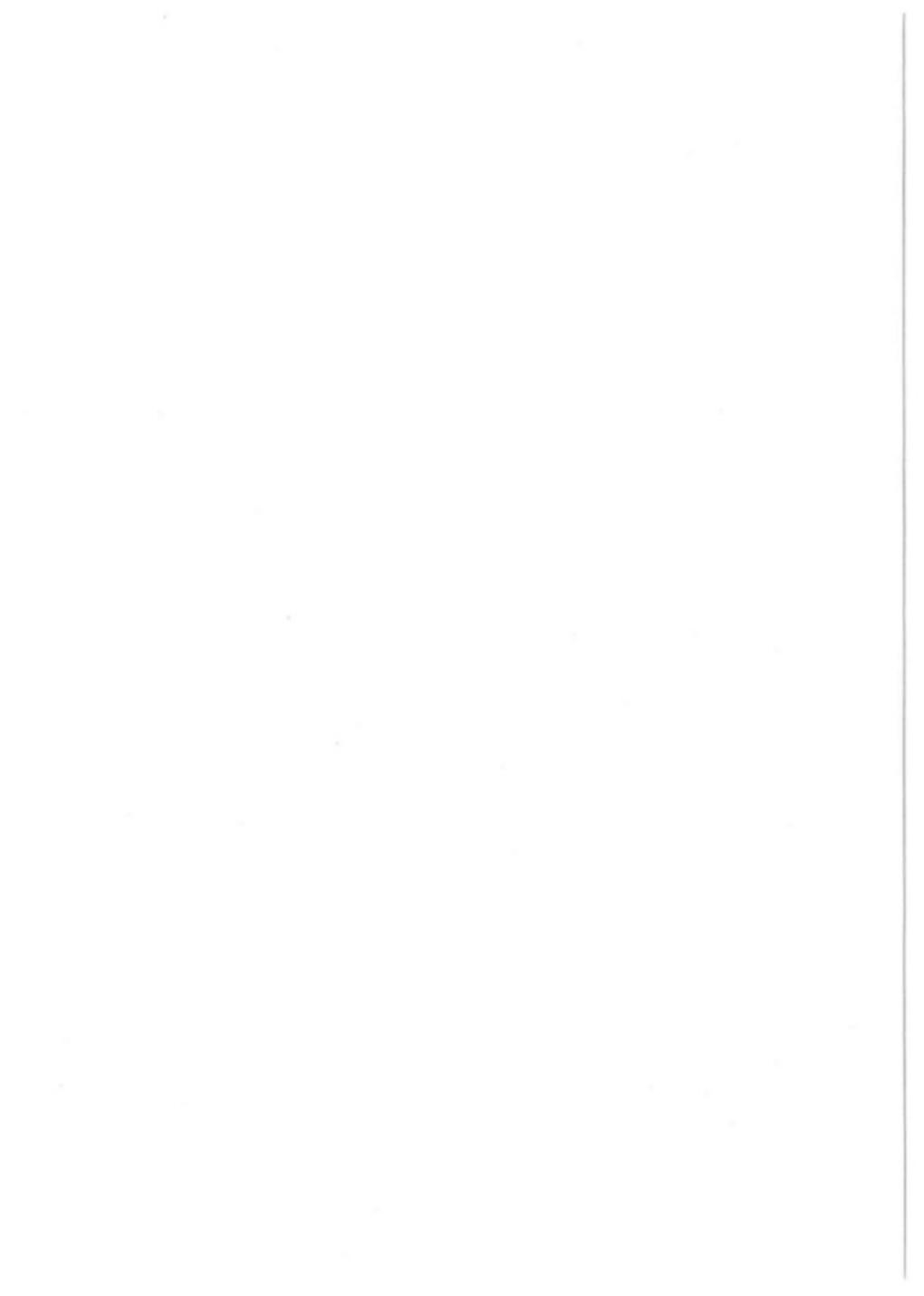
柏崎市教育委員会

黒部古屋敷

— 新潟県柏崎市 黒部古屋敷遺跡発掘調査報告書 —

2014

柏崎市教育委員会



序

柏崎市は42kmにも及ぶ海岸線を有し、美しい海辺は日本の渚100選にも選ばれています。また、この美しい日本海に沈む夕日は圧巻です。一般県道向山西山停車場線長嶺バイパス事業は、観光資源に恵まれた海岸部と北陸自動車西山インターチェンジのアクセスの改良を図るもので、観光交流人口の増大に寄与するものとして大きく期待されるものです。

当該事業の実施に伴いまして、柏崎市教育委員会では長嶺前田遺跡と黒部古屋敷遺跡の発掘調査を実施いたしました。本書で報告する黒部古屋敷遺跡は、別山川のほとりに位置する集落遺跡でありました。平安時代以降、幾度も集落が営まれたことがわかりました。最も新しい時期は、江戸時代の中頃にあたる18世紀前半頃であります。

『西山町誌』には黒部地区について、「もとは別山川の川岸にあったそうだ。今もそこを「ふるやしき」といっている。そこがもとの居住地だという」と記されています。今回の発掘調査の成果は、この記載を裏付ける証拠の一つとなるのではないでしょうか。地域の歴史や文化の解明と理解に、発掘調査が一つの役割を果たすことができたと感じられます。

最後になりましたが、このたびの発掘調査が無事終了できたことは、ひとえに地域の皆様と、事業主体者であります新潟県、また事業を担当されました柏崎地域振興局地域整備部のご理解とご協力の賜であります。また、御指導くださった新潟県教育委員会、発掘調査に参加された公益社団法人柏崎市シルバー人材センターの会員の皆様や関係者各位に対し、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成26年3月

柏崎市教育委員会

教育長 大倉政洋

例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市西山町黒部字古屋敷地内に所在する黒部古屋敷遺跡で行われた発掘調査の記録である。
2. 本調査事業は、新潟県（担当：柏崎地域振興局地域整備部道路課）を事業主体とする一般県道向山西山停車場線長嶺バイパス社会資本整備総合交付事業（道路）に伴う事前調査であり、柏崎市教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施したものである。
3. 発掘調査における現場業務は、平成 24 年 8 月 6 日に着手し、同年 11 月 21 日まで実施した。整理業務については、現場業務終了後から本格的に着手し、平成 26 年 3 月までに報告書を作成した。
4. 現場業務は、柏崎市教育委員会教育総務課埋蔵文化財係の職員等を調査担当・調査員・調査補助員として実施した。整理・報告書作成作業は、調査担当を中心同様のスタッフで行った。
5. 出土した遺物には、遺跡名の略号として「クロ古」と註記し、遺構名・グリッド及び層序等を併記した。
6. 本報告書の執筆及び編集は中島が行った。
7. 本事業で出土した遺物並びに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会（埋蔵文化財事務所）が保管・管理している。
8. 本書掲載の図面類の方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約 7 度である。
9. 次の業務については、関連業者への委託により実施した。

基本測量・遺構測量	株式会社榮技術
空中写真撮影	株式会社オリス
図版作成	株式会社オリス
10. 発掘調査の準備段階から本書作成に至るまで、事業主体者をはじめとする関係者等から様々な御協力と御理解を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。

黒部・鬼王・長嶺町内会・新潟県教育委員会（順不同・敬称略）

目 次

I 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘調査業務の体制と概要	2
II 遺跡をとりまく環境	4
1 黒部古屋敷遺跡の位置と地理的環境	4
2 歴史的環境と周辺の遺跡	5
III 調 査	9
1 調査の目的と調査区の設定	9
2 調査の方法	9
IV 遺跡と遺構	11
1 基本層序と遺構の概要	11
2 遺構名説	12
V 遺 物	19
1 遺物の概要	19
2 土器・陶磁器	19
3 漆器	22
4 木製品	22
5 金属製品	23
6 石製品	23
7 製鉄関連遺物	23
VI 総 括	24
1 古代	24
2 中世～近世	25
3 黒部古屋敷遺跡の変遷	27
〈引用・参考文献〉	
〈附 表〉	
〈報告書抄録〉	卷末

図版目次

- 図版1 黒部古屋敷遺跡 遺構全体図
図版2 黒部古屋敷遺跡 遺構全体分割図1
図版3 黒部古屋敷遺跡 遺構全体分割図2
図版4 黒部古屋敷遺跡 遺構全体分割図3
図版5 黒部古屋敷遺跡 基本土層図
図版6 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図1
図版7 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図2
図版8 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図3
図版9 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図4
図版10 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図5
図版11 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図6
図版12 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図7
図版13 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図8
図版14 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図9
図版15 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図10
図版16 黒部古屋敷遺跡 遺構個別図11
図版17 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図1
図版18 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図2
図版19 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図3
図版20 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図4
図版21 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図5
図版22 黒部古屋敷遺跡 遺物実測図6
図版23 黒部古屋敷遺跡 空中写真1
図版24 黒部古屋敷遺跡 空中写真2
図版25 黒部古屋敷遺跡 調査区完備写真
図版26 黒部古屋敷遺跡 基本土層写真
図版27 黒部古屋敷遺跡 遺構写真1
図版28 黒部古屋敷遺跡 遺構写真2
図版29 黒部古屋敷遺跡 遺構写真3
図版30 黒部古屋敷遺跡 遺構写真4
図版31 黒部古屋敷遺跡 遺構写真5
図版32 黒部古屋敷遺跡 遺構写真6
図版33 黒部古屋敷遺跡 遺構写真7
図版34 黒部古屋敷遺跡 遺構写真8
図版35 黒部古屋敷遺跡 遺構写真9
図版36 黒部古屋敷遺跡 遺構写真10
図版37 黒部古屋敷遺跡 遺構写真11
図版38 黒部古屋敷遺跡 遺構遺物1
図版39 黒部古屋敷遺跡 遺構写真2
図版40 黒部古屋敷遺跡 遺構写真3
図版41 黒部古屋敷遺跡 遺構写真4
図版42 黒部古屋敷遺跡 遺構写真5

挿図目次

- 第1図 黒部古屋敷遺跡と事業範囲図
第2図 黒部古屋敷遺跡の位置と周辺の地形
第3図 黒部古屋敷遺跡と周辺の遺跡
第4図 グリッド設定図
第5図 挖立柱建物・柵模式図
第6図 黒部古屋敷遺跡・至徳寺遺跡・鉄砲町
遺跡の古代土師器
第7図 明治24年調製土地更正図に合致する溝

別表目次

- 別表1 黒部古屋敷遺跡 遺構観察表
別表2 黒部古屋敷遺跡 挖立柱建物・柵一覧表
別表3 黒部古屋敷遺跡 土器・陶磁器・漆器一
覧表
別表4 黒部古屋敷遺跡 木製品一覧表
別表5 黒部古屋敷遺跡 金属製品・石製品・製
鉄関連遺物一覧表
別表6 遺構図版土層注記

I 序 説

1 調査に至る経緯

1) 事業の概要

新潟県柏崎市は日本海に面した新潟県のほぼ中央に位置し、広ぼうは東西27.40km、南北40.20km、面積は442.70km²である。市の北部に位置する西山町地域で、一般県道向山西山停車場線の道路改築工事が計画された。これは、主要地方道柏崎・高浜・堀之内線と一般県道向山西山停車場線をバイパスで接続することで、北陸自動車道西山ICと海岸部の国道352号線を直結して、観光資源が豊富な柏崎市の海岸部へのアクセスを良好にするものである。これにより、首都圏や関西圏からの観光交流人口の増大を見込むとともに、平時及び緊急時の交通の円滑化を図るものである。事業主体者は新潟県（担当：柏崎地域振興局地域整備部）である。

2) 黒部古屋敷遺跡の発見

柏崎市教育委員会（以下、「市教委」）は、当事業の計画を把握したことから、平成19年4月3日に事業予定地における分布調査を行った。当該事業予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在していなかったものの、それまで調査が行われたことがなかった地域であることから行ったものである。この分布調査では、長嶺地区において土師器・須恵器・珠洲等が採集され、新発見の長嶺前田遺跡として新潟県教育委員会教育長へ報告を行った（市教委2008）。しかし、黒部地内の当該地区は雑草や雑木が繁茂していることから表面採集は行えず、埋蔵文化財の有無について確認することはできなかった。その後、事業主体者と長嶺前田遺跡の取り扱いについて協議を行ったが、法線の変更は困難なことから、記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。ただし、この段階では事業採択はなされていなかったことから、事業の進捗状況を見ながら隨時協議を続けることとなった。

平成21年度に事業が正式に採択されることを受けて、長嶺前田遺跡の確認調査について調整を行った。その結果、用地取得の前年にあたる、平成22年度の稲刈り後に調査を実施することとなった。確認調査は平成22年11月16日から18日に実施した。この調査で、遺構と遺物が確認されたが、湿地の痕跡とみられる腐植物層が厚く堆積する部分も確認され、記録保存が必要な範囲を絞り込むことができた（市教委2012）。この調査結果をうけて、長嶺前田遺跡の本発掘調査の実施に向けた協議を行い、平成23年度の稲刈り後から調査を開始することとなった。

この段階では黒部地区については埋蔵文化財の確認ができていなかった。しかし、工事計画の見通しを立てるために早期の確認が必要であった。平成23年度は長嶺前田遺跡の本発掘調査を実施していたが、黒部地区的用地買収が進んだことから当地区の試掘調査を実施することとなった。調査は平成23年11月17日・18日に行った。調査は約1300m²が対象で、ここに9カ所のトレンチを任意に設定した。その結果、遺物は1点のみの出土であったが、4カ所のトレンチで遺構が確認された（市教委2013）。この調査の結果、遺構が確認された範囲を中心に新発見の黒部古屋敷遺跡として新潟県教育長へ報告した。

3) 本発掘調査に至る経緯

長嶺前田遺跡の本発掘調査は平成23年10月から一部で開始しており、ここで想定していなかった下層の遺構面が存在することが確認されていた。さらに黒部古屋敷遺跡が発見されたことから、全体の調査計画を見直すこととなった。平成23年度は着手済みの長嶺前田遺跡の一部の上層遺構面を完了するにとどめ、平成24年度当初に同地区の下層遺構面を調査することとなった。その後、長嶺前田遺跡の調査は中断し、黒部古屋敷遺跡の発掘調査を実施することとなった。なお、長嶺前田遺跡の発掘調査は平成25年度以降も継続して実施している。

事業を担当する新潟県柏崎地域振興局長は、平成24年5月31日付柏振地第126号で黒部古屋敷遺跡について、文化財保護法第94条第1項の通知を新潟県教育長に提出した。これに対し、新潟県教育長は、平成24年6月8日付教文第293号の2で記録保存のための本発掘調査を実施する旨の指示を事業主体者に伝えた。事業主体者と柏崎市は当事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の委託契約を締結した。柏崎市教育長は平成24年7月12日付け教総第560号により、文化財保護法第99条第1項に基づき、黒部古屋敷遺跡の発掘調査に着手する旨の通知を新潟県教育長に行い、発掘調査を開始した。

2. 発掘調査業務の体制と概要

1) 調査体制

平成24年度の現場業務から整理作業を経て、平成25年度の報告書刊行に至るまでの体制は以下の通りである。

調査主体 柏崎市教育委員会 教育長 大倉政洋

(担当: 教育総務課埋蔵文化財係)

総括 猪俣哲夫 (教育総務課長) (平成24年度)

力石宗一 () (平成25年度)

管理 小池繁夫 (教育総務課課長代理兼埋蔵文化財係長)

調査担当 中島義人 (埋蔵文化財係主査)

調査補助員 池田文江 (柏崎市遺跡考古館埋蔵文化財係)

山岸サチ子 ()

整理作業員 柏崎市教育委員会臨時職員 (柏崎市遺跡考古館埋蔵文化財係)

発掘作業スタッフ 公益社団法人柏崎市シルバー人材センター会員

2) 現場作業の経過

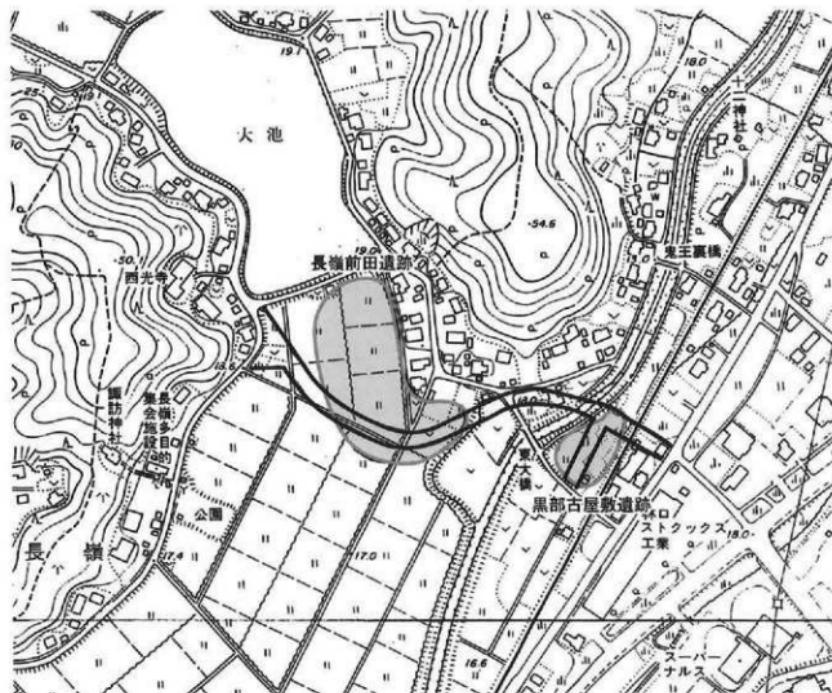
黒部古屋敷遺跡の発掘調査は平成24年8月6日から平成24年11月21日まで、延べ55日間にわたって実施した。調査では、昭和30年代に行われた河川改修前の旧別山川流路が事業地内にかかっていることが確認され、この範囲は調査対象から除外した。このため、実際の調査面積は約750m²となった。掘削土の搬出が困難であったため、調査区を二分割して掘削土置き場を市道法線内に確保しながら調査を実施した。ここでは東側調査区、西側調査区と呼び分ける。調査は東側調査区から着手した。東側調査区の発掘作業及び記録作成を9月10日まで行った。その後に埋め戻しを行い、引き続き西側調査区の調査に着手した。

西側調査区の調査は11月21日まで行い、埋め戻しなどを行って、現場作業を終了した。

3) 整理・報告書作成の経過

基礎整理事業としての出土遺物の洗浄及び注記は、現場作業に並行して行った。出土遺物は少なく、接合が必要な資料もほとんど無かったため、同年度中に遺物実測をほぼ完了させた。また、検出遺構に関する記録類の整理作業も同年度中にほぼ完了させた。

平成25年度は、原稿の執筆、図版の作成などを行った。図面図版と写真図版の版下作成は業務委託により行った。並行して調査担当が原稿の執筆、観察表の作成などを行い、本書を刊行した。



第1図 黒部古屋敷遺跡と事業範囲図（縮尺1:5,000）

II 遺跡をとりまく環境

I 黒部古屋敷遺跡の位置と地理的環境

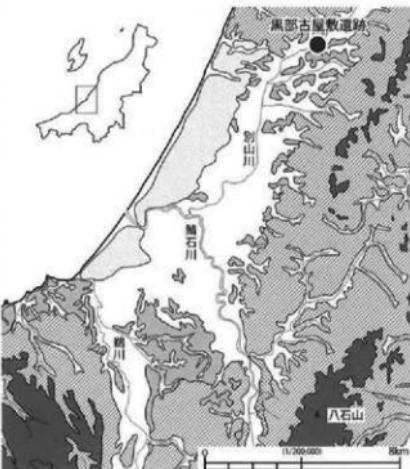
黒部古屋敷遺跡は、新潟県柏崎市西山町黒部・鬼王地内に所在する。柏崎平野の北部にあたり、鯖石川の支流である別山川の左岸に位置する。

柏崎平野 新潟県の中央部は中越地方と呼ばれる。中越は、標高1,500m級以上の連山が続く東側と、河川や海岸に沿って発達した段丘・平野がみられる西側に区分されるが〔小林ほか2008〕、柏崎平野は西側の一部である。柏崎平野は、鯖石川と鶴川を主要河川として形成された臨海沖積平野であり、各河川は個々に独立した水系を持つ。そして、信濃川水系の越後平野や関川水系による頸城平野とは、丘陵や山塊による分水嶺によって隔されており、ひとつの独立した平野を形成する。

柏崎平野を取り巻く丘陵・山塊は、東頸城丘陵の一部である。柏崎平野一帯の丘陵地形は、北流する鶴川・鯖石川によって西部・中央部・北～東部に3分され、それぞれ米山・黒姫山・八石山の刈羽三山を頂点とする。西部は、米山を頂点とした傾斜の強い山塊が海岸にまで達し、沿岸部は低位・中位・高位の各段丘による断崖が顕著で、冲積地や砂浜は少ない。中央部は、黒姫山から北へ緩やかに高度が下がり、沖積地に接する一帯に広い中位段丘が形成され、その北側に湿地性の強い冲積地が広がる。北～東部は、北東方向の背斜軸に沿って、西山丘陵・曾地丘陵・八石山丘陵が北から規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長島川といった鯖石川の支流が南西に流れ出る。

平野の地形は、中・上部更新統～完新統からなる段丘や多くが地下に埋没した上部更新統からなる古(旧期)砂丘、更新統の最上部～完新統からなる河道・旧河道・自然堤防・後背湿地・新砂丘などに区分される〔柏崎平野団体研究グループ1979〕。日本海に面する北西部は海岸に沿って荒浜・柏崎砂丘が横たわり、現在では柏崎の市街地がこれを覆っている。平野部をなす冲積地は砂丘後背地として湿地性が強く、鶴川・鯖石川の蛇行により各所に幾筋もの自然堤防が形成されている。

別山川流域と遺跡周辺の地形 柏崎平野東部を北流する鯖石川は、鶴川とともに柏崎平野の二大河川のひとつである。別山川は、鯖石川の下流域で合流する最大の支流で、延長は約17.4kmである。水源は出雲崎町との境界付近の曾地丘陵にあり、曾地丘陵と西山丘陵との間を向斜軸に沿いながら、おおむね南西に向かって流れる。流域には氾濫原堆植物からなる冲積層が広がり、柏崎平野の北端を形成する。下流の刈羽村域では平野部は大きく開けるが、上流の旧西山町域での平野部は幅が狭くなっていく。現



第2図 黒部古屋敷遺跡の位置と周辺の地形

在の別山川は、河川改修が進んでおり、直線的な流路となっている部分が多いが、以前は随所で蛇行して排水を妨げていたとされる。黒部古屋敷遺跡周辺では、昭和30年代に河川改修が行われて現在の流路となつたが、それ以前は幾度も浸水の被害があったといわれる。

2 歴史的環境と周辺の遺跡

1) 黒部古屋敷遺跡をめぐる歴史的環境

本遺跡では、おもに古代・中世・近世の遺物が出土した。ここでは古代以降の遺跡や関連資料から、周辺地域における歴史的環境について概観する。

a 古代

越後国を含む古代北陸道の諸国は、それまでの越国を分割することにより成立したが、それは持統4年(690)の庚寅年籍作成段階であった可能性が高いとされている〔坂井1983〕。成立当初の越後国は、現在の阿賀野川以北の地であり、現柏崎市域等は、越中国に属していた。現在のような越後国の国域が確定したのは、大宝2年(702)における越中国四郡(蒲原郡・古志郡・魚沼郡・頸城郡)の越後国への分割〔米沢1976〕と、和銅5年(712)に出羽国が分置・独立して以後のことである。

奈良時代の柏崎市・刈羽郡域の大部分は、古志郡に属していた。当時の古志郡は、長岡市(旧三島郡和島村)八幡林遺跡の調査成果から、島崎川流域の八幡林遺跡付近に郡衙等の中枢部が想定でき〔和島村教委1994ほか〕、柏崎平野とは低いながら分水嶺を間に挟み、地理的にはやや隔たりがあった。その後、9世紀前葉に柏崎平野一帯は三嶋郡として分置・独立したとされている〔米沢1980〕。

承平年間(931~938)に成立した『倭名類聚鈔』には、三嶋郡の郷名として「三嶋」・「高家」・「多岐」の3郷が記される。また、延長5年(927)に完成した『延喜式』には、越後國駅馬として「三嶋」と「多太」が記される。これら2史料に記された記載順や地名あるいは式内社などの分布から、別山川流域は多岐郷に比定され、多岐郷内に多太駅があったと想定される。

b 中世

『吾妻鏡』文治2年(1186)3月12日条の「三箇國庄々未進注文」には、柏崎平野に比定される荘園として、「宇河(鶴河)莊」「佐橋(鯖石)莊」「比角莊」の3荘園が記される。これらは、寄進地系荘園として11世紀末~12世紀中葉頃に成立したと考えられる〔荻野1986〕。各荘園の四至は明確でないが、鶴河莊は鶴川河口付近を除く鶴川流域一帯と鯖石川左岸域の一部など、比角莊はおおむね現在の柏崎市街地、佐橋莊は鯖石川中流域と長島川流域付近が荘域と考えられる。しかし、鯖石川最大の支流であり、古代の官道北陸道が通っていた別山川流域については、荘域の拡大や別の荘園が成立した痕跡がみられない。周辺地域に関する史料をみると、「明月記」正治元年(1199)正月廿二日条及び正和2年(1313)の「源光広和与状写」に記載されている「茹羽郷」のほか、保の存在を窺い知ることができる〔村山1990〕。まず、康安2年(1362)の「蘿原為顕寄進状并上杉憲栄安堵状」(善照寺文書)にある「茹羽□(郡)原田□(保)」は、花田に比定されている〔新沢1990〕。文明3年(1471)の「伊弥彦神条式写」(高橋文書)には「曾智吉井保」とあり、曾地・吉井と考えられる。そして、「尊卑分脈」には嵯峨源氏融流で13世紀中葉~14世紀前葉頃に生存したとみられる等・告の注釈に「(越後國)赤田保地頭職」の記載がみられる。なお、別山川流域のほかにも、西山丘陵の沿岸部には「埴生保」・「神田保」が推測されている。前者は、延文2年(1357)の「左衛門尉某打渡状」(覚園寺文書)にあり、宮川に比定されている。後者は、高野山清淨

心院「越後過去名簿」に「貞精 カリワ郡神田保 カイサワ又次良 大永五年二月廿九日」[山本2008]、「毛利安田氏所領注文」(米沢市立図書館所蔵)14)に「神田保」とあり、西山町甲田に比定されている。

この別山川流域は、弥生時代中期以降に開発が進められた先進地であり、北陸道に通じた交通や流通の要地であったことなどが考えられる。そのため、鶴川や鈴石川流域とは異なる歴史的展開があったと推測され、国衙領としての伝統が強く残存した結果、中世前期では荘園が成立しなかったと考えられる。

次に、中世後期における在地の支配関係について、おおまかな勢力分布をみていく。まず、佐橋荘と鶴川荘安田条を本貫地とする毛利氏は、時期によっては別俣郷までを領域としていた可能性があるなど、柏崎・刈羽地域では最大の勢力を誇っていた。毛利氏は、南北朝の動乱期において、安芸の領地へ移った西国毛利氏に対し、越後に在国した主勢力を越後毛利氏と呼ぶ。同氏に対する勢力としては、鶴川荘上条の上条城を館とした上条上杉氏、刈羽の赤井城を根拠地として別山川流域の大半を領する斎藤氏などが配され、北や西から毛利氏を牽制していた。越後毛利氏は、いくつかの庶子を分出するが、戦国末期の御館の乱(1578年)に際し、安田毛利氏・斎藤氏・上条上杉氏は景勝方に与し、北条毛利氏は景虎方の主勢力として活躍した。しかし、北条毛利氏は、本拠地北条城を開城して景勝方に降り、佐橋荘を主とする領地のすべてが上杉景勝方の武将に細分して分け与えられ、在地の勢力図は一変した。

c 近世

天保検地帳による黒部の戸数は4戸で、当時は別山川左岸の「ふるやしき」にあったと伝えられる。しかし、たびたび別山川が氾濫するため、当地から現在の住宅街に移ったのだという。元和2年(1616)以降は幕僚で、貞享2年(1685)から高田城主稻葉正通の支配を受けたとされる。

d 古代以降の遺跡

ここでは、黒部古屋敷遺跡周辺の遺跡ということで、旧西山町地域の古代以降の遺跡について概観する。当期の遺跡では複数の時代が複合するものが多い。

当地域では、飛鳥・奈良時代の遺跡は発見例が少ない。宮ノ前遺跡〔西山町教委2003〕と町口遺跡〔柏崎市教委2010〕で7世紀後半頃とみられる須恵器杯蓋が各1点出土したが、遺構は未確認である。

宮ノ前遺跡は古墳時代から中世の複合遺跡であるが、古代では9世紀後半から10世紀中頃までの集落跡が確認された。遺構には掘立柱建物や溝、井戸、土坑がある。最大の掘立柱建物は梁間4間、桁行7間のもので、平面積は120m²を超える大型のものである。同一カ所で3回以上の建て替えが確認できる。遺物には須恵器や土師器の他に、多量の灰釉陶器があり、新田開発を主導した開発領主層の存在が想定される。

坂田地区は、当地域で最も遺跡が密集する地域である。中でも坂田遺跡では、9世紀前半頃に在地で須恵器生産を行っていた可能性が指摘されている〔柏崎市教委2009〕。9世紀前半の溝から、当期の小泊窯産と須恵器とともに、胎土や形態が特徴的な須恵器がまとまって出土した。両者には同様の墨書きがなされており、一括廃棄されていることから同時期のものとみられる。周辺の遺跡では確認されない特徴的なものであることから、この遺跡が須恵器の生産に関わっていることが想定された。

海岸部に立地する井ノ町遺跡では、8世紀代と9世紀前半から中頃までの遺物が多く出土した〔西山町教委2001〕。8世紀代の遺構は不明瞭であるが、9世紀代には、大型の柱穴に直径30cm前後の柱を建てた掘立柱建物などが見つかった。遺跡は日本海に直接流れ込む仁位殿川の旧流路沿いに立地する。9世紀代の須恵器が多量に出土している。遺構の量に比べて遺物、特に須恵器無台杯の量が多いことから、一般集落とは異なる性格を想定している。この他にも、別山川流域では伊毛大新田遺跡、内田遺跡、尾野内遺跡〔新潟県教育委員会1982〕が、海岸部では大津遺跡が当期の遺跡であり、今後さらに発見されることが想

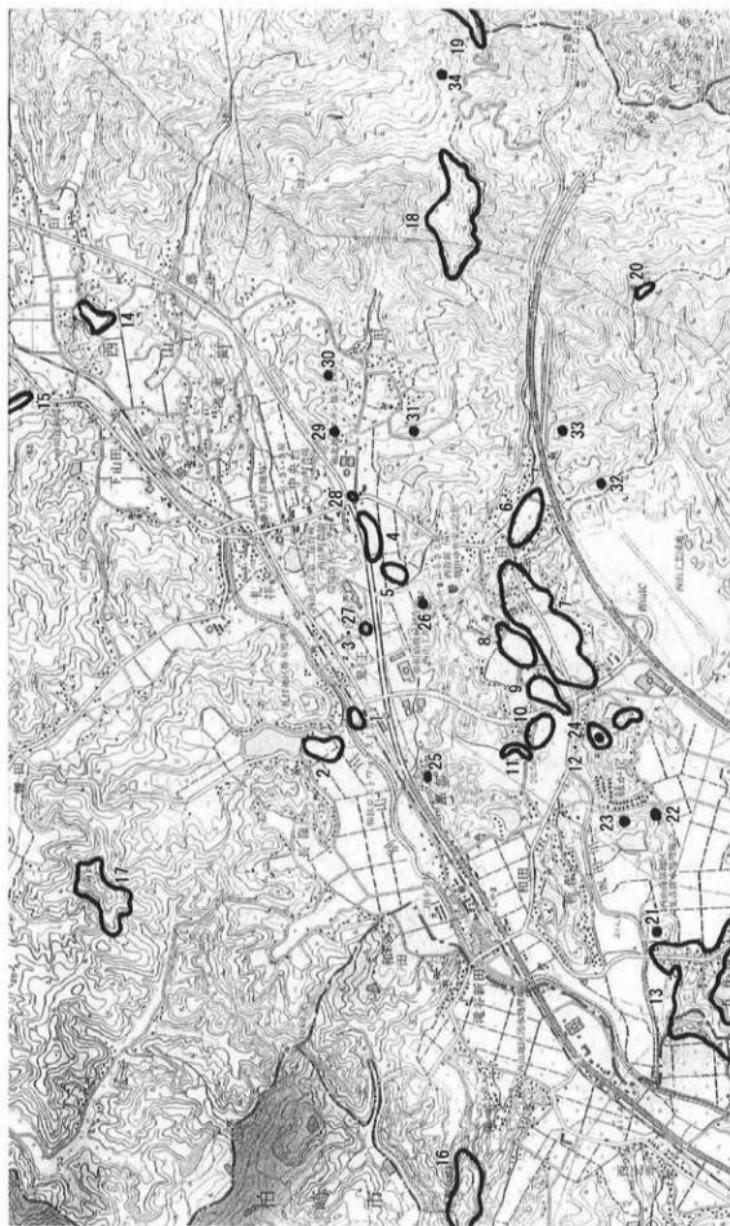
定される。

中世になると、集落跡の他に山城や製鉄関連遺跡などが出発し、館の存在も想定される。集落跡では坂田地区の坂田遺跡と町口遺跡、上沢田遺跡、北野地区の宮ノ前遺跡で発掘調査が行われた。坂田地区的遺跡では12世紀後半頃から16世紀代の遺物と遺構が確認されている。特に町口遺跡では14世紀代と15世紀後半から16世紀前半の堀とみられる大型の溝が検出された。14世紀代の溝は幅2.5m、深さ0.6mの箱堀とみられる。15世紀後半からのものは方形に巡る堀の一部とみられ、深い部分では1.4mの深さを確認した。遺物には白磁四耳壺や青白磁の梅瓶や小壺、瓦器、茶臼等があり、一般集落とは異なる様相が確認できる。また、坂田遺跡では地籍図や地形の検討から館の存在が指摘されている〔鳴海1992〕。宮ノ前遺跡では13世紀後半から16世紀代までの遺構、遺物が出土しており、当期の漆器なども出土した。

中世になると、西山・曾地丘陵で活発に鉄生産が行われるようになる。宝童寺遺跡群は別山川最上流部の小支流が流れ出る沢に位置する。ここでは、11世紀から13世紀にかけての木炭窯が多量に見つかり、これに伴う半地下式竪型炉や排滓場も検出された〔柏崎市教委2008〕。木炭窯は丘陵斜面に折り重なるように築造されており、繰り返し製炭を行ったことがわかる。13世紀代の木炭窯等から外面に簾状圧痕が着く大型の羽口が出土しており、製錬のための半地下式竪型炉に使用されたとみられる。同様の羽口は内越遺跡でも出土しており、この羽口の小型品が坂田地区的集落跡でも出土している。小型のものは同時期の鍛冶に用いられたと考えられる。

中世には多くの山城も築かれ、曾地丘陵上には二田城・高内城、西山丘陵上には鎌田城・大崎城といつたやや規模の大きい山城があり、その周辺に小規模な山城や砦が点在する。甲田城は大崎城の北東部に位置する小規模な山城で、ほぼ全域で発掘調査が行われた。東西140m、南北80mの範囲に31カ所の平坦面と4基の空堀が検出され、土師器・株洲・越前・瀬戸美濃・青花・粉挽臼や鉄製品等の他に、炭化種実が多量に出土した〔西山町教委1991〕。これには、イネ・アワ・キビ・ヒエ・オオムギ・コムギ・ダイズなどがある。放射性炭素年代測定では、一部の試料で16世紀前半から17世紀後半の暦年代範囲が示された〔市教委2013c〕。

中世から近世にかけて、時期は不明瞭であるが、多くの塚が築かれている。黒部地内では孤山塚群で調査が行われ、2基の塚と1基の掘り込み状遺構が検出され、宝篋印塔や五輪塔の一部などが出土した。



1. 黒部古道遺跡 2. 長崎前田遺跡 3. ホノド遺跡 4. 二田沖遺跡 5. 前田遺跡 6. 上庄田遺跡 7. 板田沖遺跡 8. 斎口遺跡 9. 板田仲井遺跡 10. マイグリ遺跡 11. 外仙回遊跡 12. 沢之内遊跡
 13. 鶴田遺跡 14. 西山遺跡 15. 佐野遺跡 16. 前山遺跡 17. 錦山遺跡 18. 亀町遺跡 19. 一田城 20. 金山城 21. 小値の塚群 22. 新保向山の塚群 23. 素田の塚群 24. 牛之内塚群 25. 亂山塚群
 26. 亂山の塚群 27. 丸井の塚群 28. 鶴岡の塚群 29. 六百戸の塚群 30. 西ヶ久の塚群 31. 甲田ヶ谷の塚群 32. 石中の塚群 33. 香山の塚群 34. 甲田ヶ谷の塚群

第3図 黒部古道遺跡と周辺の遺跡

III 調査

1 調査の目的と調査区の設定

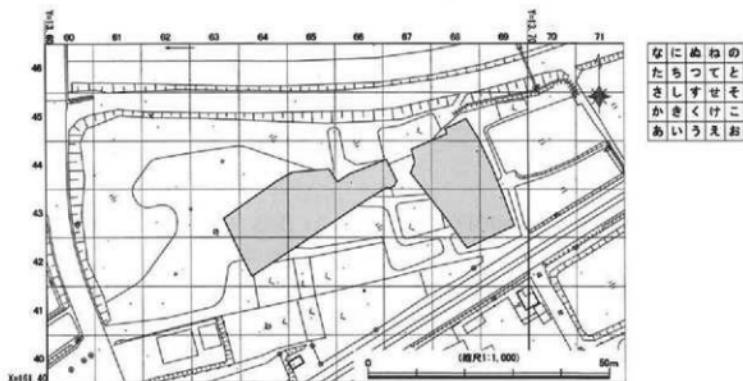
黒部古屋敷遺跡は、原因事業に伴って実施した一連の試掘・確認調査の第3次で発見した。当地区の試掘調査は、別山川とJR越後線を結ぶ県道部分と、これにはほぼ直交して取り付く市道黒部西山線の新設部分を合わせた「T」字形の範囲を対象として行った。この試掘調査で出土した遺物は1点だけであったが、溝やピット、土坑等の遺構を検出した【柏崎市教委2013】。この結果を受け、新発見の黒部古屋敷遺跡として新潟県教育長へ報告を行った。ただし、県道部分の北部では河川改修前の別山川の河道跡を検出したため、遺跡範囲から除外した。また、対象地の中でも西寄りのトレンチでは遺構・遺物とともに検出されず、湿地性の堆積を確認したため、このトレンチより西側も遺跡範囲から除外した。調査の原因事業が道路建設のため、遺跡範囲内の法線部分は全て記録保存の対象となった。

調査対象地の地目は畠が大部分であったが、現状は雑木が生い茂る荒蕪地に近い状態である。地表面は概ね平坦で、所々に畠の区画がある。

2 調査の方法

1) グリッドの設定

グリッドは、当事業に伴う発掘調査区全範囲を網羅することを目的に、国家座標を用いて設定した。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッド名称は10mごとに国家座標の値の百位と十位を用いた2桁の整数で表した。この10m四方の方眼を大グリッドとし、これをさらに2m四方の25区画に細分したもの



第4図 グリッド設定図

いて座標値に変化が生じているが、震災前に作成された各種の地形図と整合させるため、今回の調査は震災前の座標値を用いている。

2) 表土掘削と遺構検出

調査対象地の地目は畠地であったが、広範囲で雑木が繁茂していた。調査前にこれらを伐採し、その後に法面パケットを装着したバックホウにより表土掘削を行った。試掘調査においてほとんど遺物が出土しておらず、明確な遺物包含層も確認されなかつたため、遺物の出土状況を見ながら重機により遺構検出面直上まで掘削を行った。最終的には、後述するように遺物包含層は一部で残存していたものの、ほとんど遺物は出土しなかつたため、ほぼ全域で重機により遺構検出面の上位付近まで掘り下げた。その後、人力により遺構検出面まで掘り下げを行い、鋤簾などを用いて遺構検出を行った。検出した遺構は、スプレー等を用いてマーキングし、遺構概略図を作成した。検出した遺構は、種別を問わず連番を付し、遺構台帳を作成しながら調査を行った。

3) 遺構発掘

遺構の掘削は、大型の遺構以外は半截し、概ねの形態、規模、覆土などを観察して遺構台帳に記載した。大型の土坑等は土層観察用の畦を残して掘り下げて、遺構台帳を作成した。その後、必要な記録を作成して完掘した。出土遺物は、遺構外のものは出土した小グリッドを記録して取り上げ、遺構内のものは出土層位を記録し、一部は出土状況の写真を撮影し、出土地点をトータルステーションで記録してから取り上げた。遺構完掘状況の平面図は、業務委託による電子平板測量で作成した。他の遺構の調査などで事前に破壊する必要がある遺構は、調査員がトータルステーションにより観測し、後に業務委託によるデータと合成した。

4) 記録作成

遺構個別や遺物出土状況の写真撮影は、調査担当が行った。使用したフィルムは35mmリバーサルと35mmモノクロネガである。フィルムの感度はISO100を基本としたが、10月以降はISO400を使用した。また、1200万画素一眼レフデジタルカメラ、コンパクトタイプのデジタルカメラも記録用に随時用いた。

全体完掘後にR Cヘリコプターによる空中写真の撮影を業務委託により実施した。この撮影では、35mmカラーリバーサルフィルム、67判カラーネガとカラーリバーサル、2100万画素一眼レフデジタルカメラを使用した。

5) 整理・報告書作成作業

発掘調査に並行して出土遺物の洗浄と注記作業を行った。注記にあたっては遺跡名の略号として「クロ古」を用い、他に出土構造やグリッド、層位等を併記した。遺物量は少なく、接合作業も発掘調査に並行して完了させた。遺物実測は、発掘作業終了後に開始した。器種や部位が把握できるものを主に選択した。合わせて、発掘作業で作成した記録類の整理を行った。

基礎整理作業に引き続いて発掘調査報告書の作成を開始した。図面および写真図版の作成は、業務委託によるデジタル編集で行った。原稿の執筆は全て調査担当が行った。

IV 遺跡と遺構

1 基本層序と遺構の概要

1) 基本層序 (図版5)

黒部古屋敷遺跡の本発掘調査で確認した基本層序についてまとめる。基本層序の確認は調査区の壁面で行った。しかし、調査区の北側は改修前の別山川流路跡が大部分を占めており、調査区壁の大部分もこれにかかっていることから、記録の作成は省略した。

確認した基本層序は、第0層から第V層までの6層に大別した。第I層は現況の表土層であり、この上位の盛土や攪乱を第0層とした。第I層の堆積は、厚さが20cm前後と全域で一定で、上面の標高は17.0mから17.2mで推移する。各所に畑の区画などに伴う盛土や溝、攪乱がある。

第II層は表土層の下位の灰黄褐色粘質土層と旧別山川の埋めたて土をまとめ、前者を第IIa層、後者を第IIb層とした。第IIa層は調査区全域で確認でき、若干の凹凸はあるが上面は概ね平坦である。炭化物や焼土粒が円形の掘り込み内に堆積している部分が数ヶ所あった。第IIb層は、調査区北東部で検出した河川改修前の別山川流路を埋めるもので、さらに細分できる。灰黄褐色や灰黄色などの粘質土が主体で、概ね水平に堆積する。第IIa層は第IIb層を覆っていることから、第IIb層が河川改修の際に旧河道の埋めたて土で、河川改修後に整地などを行った際の盛り土が第IIa層であると考えた。また、第IIa層に含まれた炭化物や焼土粒は、現代の炭焼きに伴うものと判断したため、調査の対象とはしなかった。

第III層は灰黄褐色粘土層、第IV層は褐灰色粘土層である。両層とも炭化物をやや多く含んでおり、遺構検出面の上位に堆積していることから遺物包含層であると判断した。第III・IV層ともに堆積は非常に薄く、消失している部分が大半である。調査区壁面にかかる遺構の断面を見ると、第III層上からの掘り込み、第IV層上からの掘り込み、第IV層下位の掘り込みがあることを確認できる。このことから、遺構の形成時期は少なくとも3時期に分けられるが、平面で明確に分類することはできなかった。これらの層の遺存状況が悪いことは、河川改修工事やその後の整地などに伴い削平されたためと考えられる。このような状況であったため、包含層出土の遺物が非常に少なく、どちらの層に帰属するものであるか判別することはできなかっただため、各層の形成時期は不明である。第V層は遺構検出面である地山層で、にぶい灰褐色や灰黄色の粘質土層である。

2) 遺構の概要

本発掘調査で検出した遺構はピット・井戸・土坑・溝がある。遺構の総数は608基で、9棟の掘立柱建物と5本の柵列を想定した。

調査区の北縁部の旧別山川縁辺付近は南側より一段低くなっている。この低い部分では特殊な土坑とみられるもの以外の遺構は稀薄となっており、特に井戸などは見られない。SD158とSD281がこの境界となっている。これより南側ではほぼ全域で遺構が検出されているが、東側調査区に比べて西側調査区の方がやや濃密に遺構が分布する。ピットは特に西側調査区で多く検出された。西側調査区では井戸も密集して見つかっている。これに対して東側調査区では遺構の分布がやや散漫で、遺構の空白地がやや目立って

いる。ただし、西側調査区西端部でもやや稀薄となっており、この西側で湿地性堆積が検出されていることからも、集落の縁辺であったと考えられる。

2 遺構各説

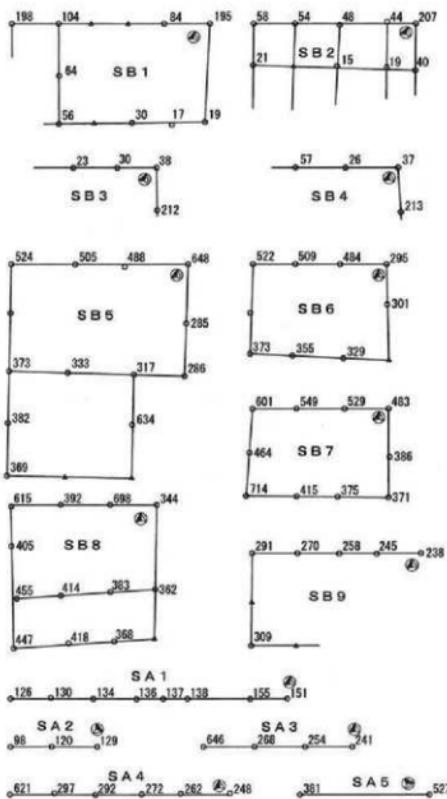
1) 挖立柱建物・柵

柱穴の配置の組み合わせから9棟の建物と5列の柵を想定した。掘立柱建物は調査区の南側に多くあり、調査区外に広がるもののが大部分である。現場の調査段階で柱列の確認作業は随時行っていたが、調査段階で把握できたものはSB 4とSA 5のみであった。その他は全て、整理作業時における図上での検討により柱列を抽出し、掘立柱建物や柵を復元したものである。

SB 1 (図版6) 東側調査区の南西部に位置する。梁行2間桁行4間の身舎の西側に庇を持つ側柱建物を想定した。建物の一部は調査区の西側へ広がる。主軸は東へ81°傾く。柱間寸法は一定ではなく、梁側で2mを超える。桁側は1.3mから1.9mとばらつきが大きい。柱穴の平面形はおむね円形で、深度は0.3mから0.5mである。北側の柱列でSE 87と切り合いを持つ。遺構検出時にSE 87上面で柱穴は検出されなかったことから、これに先行する建物である。また、SB 2・SB 3・SB 4と交差している。SP 19をSB 2と、SP 30をSB 3と共有し、前後関係は不明である。

SB 2 (図版6) 東側調査区の南西部に位置する。桁行3間で、東側に庇を持つ総柱建物で、調査区の南側へさらに広がるものと想定した。主軸は東へ72°傾く。身舎の柱間寸法は1.8m前後である。柱穴は、平面形が直径0.3mまでと小規模の円形で、深度は0.4m以下で浅いものが多い。建物内にSE 2が存在しているが、これとの前後関係は不明である。

SB 3 (図版7) 東側調査区の南西部に位置する。大部分は調査区の南と西へ広がるもので、北側2間と東側1間を確認した。主軸は東へ70°傾く柱間寸法は1.6mから1.8mである。柱穴の平面形は0.3m前後の円形である。



第5図 挖立柱建物・柵模式図 (縮尺1:200)

S B 4 (図版7) 東側調査区の南西部に位置する。S B 3同様に、調査区の南側と西側に広がるもので、北側2間と東側1間が確認できた。主軸は東へ83°傾く。柱穴は、平面形が直径0.3m前後の円形で深度は0.3m以下である。S B 2・S B 3・S B 4はほぼ同一カ所に位置するが、主軸方向や配置に違いがあることから一連の建て替えによるものかは明らかではない。また、建物内部にS E 2が存在するが、これとの前後関係も明らかにできなかった。

S B 5 (図版7) 西側調査区のほぼ中央に位置する。梁行2間桁行3間の身舎の南側に2間×2間の張り出し部分を想定した。身舎の主軸は東へ84°傾く。柱間寸法は2.0mから2.7mまでとばらつきが大きく、間隔も広い。柱穴は南側の張り出し部も含めて、平面形が0.4mを超える大きめの円形で、深度も0.5m以上の深いものが多い。しかし、いずれの柱穴でも柱痕は確認できず、覆土は水平やレンズ状の堆積のものである。

S B 6 (図版8) 西側調査区のほぼ中央に位置する。梁行2間桁行3間の側柱建物である。主軸は東へ95°傾く。柱間寸法は1.8m前後が多く、最大のものは2.1mである。柱穴の平面形は直径0.3m前後の小規模な円形で、深度は0.2mから0.5mのものが多い。南東角の柱穴はS E 313に重複するが、遺構上面で柱穴を確認できなかった。S E 313に先行するものである。

S B 7 (図版8) 西側調査区の中央やや西寄りに位置する。梁行2間桁行3間の側柱建物である。主軸は東へ86°傾く。柱間寸法は1.8m前後が多く、最大で2.1mである。柱穴の平面形は0.3m前後の円形である。柱穴底部の標高は16.4m前後でおおむね一定である。南東角のS P 371はS E 376より新しく、この西側のS P 375はS E 376より新しいS P 374に切られているが、S E 371より新しいことを否定するものではない。S B 7がS E 371より新しいものである。

S B 8 (図版9) 西側調査区の西部に位置する。梁行2間桁行3間の身舎の南側に庇を想定した。S E 406の上面で柱穴1基を確認していたが、掘方を明確にできなかったものがある。これとS P 372を用いることができれば、3間3間の純柱建物である可能性がある。S P 405がS E 406を切っており、S B 8が新しいことは確認された。柱間寸法は2m前後が多い。柱穴は平面形が0.3mの円形で、底部の標高は16.4m前後が多い。南西角のS P 447から珠洲甕の体部破片(36)が出土した。

S B 9 (図版9) 西側調査区の東部に位置する。南東部の大部分は調査区外に広がるもので、西側梁行2間、北側桁行4間を確認した。主軸は東へ90°傾く。柱間寸法は1.8m前後が多い。柱穴は、平面形が円形で0.3m前後、底部の標高は16.6m前後とほぼ一定である。西側梁の中央の柱穴はS K 296により消滅しており、これに先行するものである。

S A 1 (図版10) 東側調査区中央に位置する。主軸は東へ82°傾く。柱間寸法は1.0mから2.6mまでと差が大きいが、柱筋はおおむね通っている。主軸はS B 1、S B 158におおむね揃う。北側を通るS D 158にはほぼ平行することから一連の柵であると想定した。

S A 2 (図版10) 東側調査区西壁沿いに位置する。柱穴3基からなる2間の柱穴列である。柱間寸法は1.8mと一定であるため、一連の柱穴列とした。調査区西側に広がる建物の一部と想定している。

S A 3 (図版10) 西側調査区中央よりやや東寄りに位置する東西方向の柱穴列である。柱間寸法は1.8mから2.0mである。柱穴の規模は0.3m前後と小規模である。

S A 4 (図版10) 西側調査区東側に位置する。柱穴6基からなる東西方向の柱穴列である。柱間寸法は1.6mから2.0mまで差が大きい。柱穴掘方が比較的大きく埋土が類似しており、上面で柱痕が検出されたため、調査段階で一連の柱穴列として認識できたものである。掘方の平面形は円形、隅丸方形、長梢円形

など一定ではない。また、長楕円形のものでも、南北方向に長いものと東西方向に長いものが混在する。柱穴の掘方に規則性はなかったのである。埋土の上位は褐灰色土が主体である。柱痕は検出面で明瞭に確認でき、直径が16cm前後の円形であった。柱痕を横切るように半截すると、柱根部は底面にいたらないもの、おおむね底面に達するもの、底面を大きく突き抜けるものなどさまざまであった。また、S P262・S P292の柱根は断面で大きく湾曲している。細く、屈曲している材を用いたものであることがわかる。柱痕部分の覆土はにぶい黄褐色土や灰黄褐色土である。S P262の掘方から肥前陶器丸皿の小片(50)が、S P621から青花(45)が出土した。この柱穴列に伴うと考えられる遺状遺構や建物は確認できなかった。

S A 5 (図版10) 西側調査区中央よりやや西に位置する。柱穴2基からなる。いずれもやや大型の柱穴に、断面が方形の柱を持つものである。S P381は、半截時には緩い粘土層の柱痕部分しか確認できなかつたのだが、完掘する際に断面方形の柱根(72)が出土した。S P527でも、半截時には同様の粘土質の柱痕が検出された。完掘を行う際に柱痕が出土したが(73)、大部分が腐食した小さなものであった。周囲を精査すると、緩い粘土層は平面が正方形を呈していることがわかった(図版28)。2基の柱は、面と面が向かい合っており、これが対になる柱穴であることが確認できた。柱根の中心部分の間隔は約5.3mであり、およそ3間に相当するものであった。このため、両柱穴間やその延長線上、これに直行する部分にさらに組み合う柱穴があるものと考えて幾度も精査を行った。しかし、これに組み合う柱穴を確認することはできなかつた。S P381はS B 5の柱穴であるS P382を切っているほかは、他の遺構との前後関係は確認できなかつた。

2) 井戸

当調査で検出した井戸では、いずれも井戸側や水溜などの木製遺物は検出されなかつた。そのため、大型の土坑との区分が困難である。ここでは一定程度の水量を蓄えられると想定できる規模のものを一括して井戸とした。当調査区で検出した井戸は15基で、調査区のほぼ全域に分布している。

S E 279 (図版11) 西側調査区中央やや東に位置する。平面形はやや隅丸方形に近く、直径1.0m程度である。壁面はおおむね垂直で、深度1.4mで平坦な底部に至る。覆土は下位に黄灰色粘土が厚く堆積し、上位には地山上に由来するブロック土が多く混じる。第3層の黄灰色粘土層の上半から珠洲(33・38)、砾、漆器(56~58)、木製品(59)が出土した。これらは、一ヵ所にまとまるものではなく、出土深度にもばらつきがある。珠洲は小破片で、第3層の上位から出土しており、漆器や木製品は第3層の中位付近から出土した。3点出土した漆器のうちの皿2点はほぼ完形品で、1点は碗の底部のみが残る。木製品は蓋で、一部が欠損するが遺存状況は比較的良好である。これに対して、珠洲は小破片のもので、前者と遺存状況が明瞭に異なる。また、木製品のやや上位で、大型の砾2点も出土した。1点は火を受けており、一部に強く煤が付着する。

S E 313 (図版11) 西側調査区中央南壁付近に位置する。平面形は長軸1.1m、短軸0.9mの楕円形である。壁面はわずかに狭まりながら深度1.1mで平坦な底部に至る。覆土は5層に分かれ、最下層にしまりが弱い黄褐色粘土層が厚く堆積し、この上面に細かく碎けた炭化物からなる層が厚さ4cmほど堆積する。土師器小片が少量出土した。

S E 278 (図版11) 西側調査区中央の南壁沿いに位置し、南半分が調査区外に出る。平面形は直径1.2m前後の円形になるとみられる。断面は底部がやや丸みを帯びる逆三角形を呈し、深度は1.0mまでを確認した。覆土はおおむね水平に堆積し、最下層は黒褐色の粘質土が堆積し、しまりが強いものである。壁面

沿いに地山の崩落土とみられる層が薄く堆積するが、掘方に大きな崩落の痕跡は認められない。覆土の上半にも地山に由来するとみられる浅黄色シルトのブロックが多量に混じる。

S E 334 (図版11) 西側調査区のほぼ中央に位置する。平面形は直径1.2mの円形である。深さ0.7mで平坦面を設け、そのほぼ中央の直径0.6mが一段深くなり、深さ0.3mの水溜のようになる。覆土はおおむね水平に堆積し、5層に分かれる。最下部にはしまりがやや弱い暗灰色粘土が溜まり、その上位ににぶい黄色土ブロックが混じる黄褐色土などが堆積する。最上層は、灰色が強い灰黄褐色土が堆積する。珠洲片口鉢片、天目片(43)などが出土した。

S E 467 (図版11) 西側調査区西部に位置する。当調査区内で最も深い井戸である。平面形は長径1.0m、短径0.8mの楕円形である。壁面はおおむね垂直に掘りこまれる。確認面から約1.5mの深さまで半截したが、床面を検出することができなかったため、全景写真の撮影が完了したのちに全体を断ち割って完掘した。最終的に2.0mの深さで底面を確認した。底面は中央が深くなる丸底である。覆土は第5層までを確認しており、上位は褐色土やにぶい黄褐色土からなる。確認面から0.6mの深さから腐植物を多量に含むしまりの弱い黒色粘土層となる。この黒色粘土層中の、検出面から1.0m前後の深さのところから粉挽臼の上臼(80)と石鉢(82)が出土した。ほぼ同位置から瀬戸美濃丸皿(41・42)も出土した。粉挽臼は完形品であり、瀬戸美濃の1点も遺存状況が良好なものである。下位の断ち割りに際しては土層の観察はできなかったが、黒色粘土層が続いており、腐植物や一部が炭化した木材が多量に出土した。これらに明瞭な加工痕は認められなかった。井戸の廃棄にあたって、先に多量の炭化材等を投棄したものと想定される。

S E 534 (図版11) 西側調査区の中央やや西寄りに位置する。平面形は長径1.3m、短径1.0mの楕円形で、壁面はおおむね垂直に下がり、深度1.4mで平坦な底部に至る。覆土は上位に褐灰色土や黄褐色土、中位に薄く炭化物層、下位に灰黄褐色粘土層が堆積する。覆土の堆積状況はS E 313に類似するものである。下層の粘土層から珠洲甌の底部破片が出土した。また、中位の壁面に木質遺物が張り付いていたが、腐植が著しく軟質であったため、記録の作成や取り上げが行えなかった。

S E 79 (図版12) 東側調査区の東壁沿いに位置し、一部が調査区外に広がる。平面形は直径1.4mの円形を呈するが、上位に深さ0.5mで断面碗型の土坑が掘りこまれているため、実際には直径1.0m前後とみられる。壁面の上半は垂直気味で、下半はやや狭まりながら平坦な底部に至る。深度は1.3mである。覆土には地山土に由来するとみられるブロック状の浅黄色土が混じり、最下層に薄く暗灰色粘土層が堆積する。他の井戸にみられる炭化物層や腐植物を多く含む黒色粘土層は確認できない。覆土中から土師器の小破片と鐵治滓が少量出土した。

S E 197 (図版12) S E 79の南に隣接する。平面形は直径0.7mの円形である。壁面は垂直気味で深さ0.9mで平坦な底部に至る。覆土は底部まで大型ブロック状の浅黄色シルトが多量に混じる褐色土で、しまりが強いものである。ブロック状のシルトは下位で特に多くなる。隣接するS E 79と同様に炭化物層や黒色粘土層は認められず、掘削土で一時に埋め戻したような堆積状況を示している。遺物は出土していない。

S E 2 (図版12) 東側調査区南壁近くに位置する。上面でS P 1を検出したが、掘方を確認することはできず、断面図として記録した。S E 2の平面形は、長径1.6m、短径1.2mの楕円形で、壁面はやや狭まりながら丸底の底面に至る。深度は1.0mである。覆土は7層に分けられ、レンズ状に堆積する。上位は灰黄褐色土が主体で、下位は灰黄褐色の粘質土が主体となる。黒色粘土層や腐植物層は見られない。土師

器壺の底部片、須恵器有台杯底部片（4）、肥前陶器が出土したが、いずれも小破片である。

S E 87 (図版12) 東側調査区の中央に位置する。S E 90を切る。S E 87の平面形は直径1.6mの円形で、壁面は狭まりながら尖底気味の底面に至る。深度は1.4mである。覆土の大部分は褐色土が主体となり、底部付近に腐植物が主体の黒色粘土が少量堆積する。検出面と覆土上層から越前播鉢（39）が出土し、他に中世土師器の小皿の小破片と鍛冶滓が出土した。

S E 90 (図版12) S E 87の西側に位置し、S E 87に切られる。平面形は、直径1.1mの円形で、壁面は垂直に下がり、広く平坦な底部に至る。深さは0.9mである。覆土は7層に分けられ、1～5層は褐灰色土が主体となる。第6層は黄灰色粘土の周囲を黒色粘土が囲み、中央には多量の焼土塊が混じる。しまりはごく弱い。最下層にはしまりが強く精良な灰黄色粘土が薄く堆積する。井戸以外の用途が想定できるが、性格は不明である。また、遺物は出土していないため、時期も明確にできない。

S E 145 (図版12) 東側調査区の中央東寄りに位置する。上位をS K 76が掘りこむ。平面形は直径1.3mの円形で、壁面は垂直に下がり丸底の底部に至る。深度は1.3mである。覆土は上半に地山土に由来するとみられるブロック土を含む灰黄褐色土が堆積し、下半は粘土層が堆積する。下層の粘土層から珠洲片口鉢（32・34）が出土した。32は、最下層の黄灰色粘土層のほぼ上面で2点の破片が近接して出土した。ほぼ全形が残るが、口縁部から底部にかけての幅3cm程が欠損する。もう1点はこの上位のにぶい黄色土層から出土した体部破片である。

S E 406 (図版13) 西側調査区の西部に位置する。平面形は直径2.2mの円形で、壁面は垂直気味に下がって深度1.1mで広く平坦な底部に至る。S P 404・S P 405・S P 407などと切り合いを持ち、これらに先行することを確認した。これ以外にも上面でピット1基をしたが、平面の記録は作成できず、東西層位団の第1・2層に記録した。覆土は細かく分類したが、大きくは3種に分けられる。最上層は灰黄褐色土やにぶい黄色土ブロックといった上位の地山層に由来するものが主体となる。中層は黒褐色土が主体で、堆積は薄い。下層は、全体的に灰色に近い色調の砂質シルトや粘土が主体となるが、下位にはやや濁った青灰色が主体の粘土層があり、地山層との判別が困難なものであった。平面規模に対して深度が浅く、水溜などの施設を設けないことから、井戸以外の用途も想定されるが性格は不明である。また、遺物も出土しなかったため時期も特定することができなかった。

S E 376 (図版13) 西側調査区の西部、S E 406の南東に位置する。形態はS E 406に似るが、直径は1.6m、深度1.0mとやや小型である。覆土は3層に大別できる。最上層はしまりが強い灰黄褐色土が全体の半分程度まで堆積する。その下位に浅黄色粘土が主体の層があり、最下層は黄灰色等の灰色を強く帯びる粘土層が堆積する。また、黒褐色の粘土層が薄く点在するように堆積する。出土遺物には砥石（79）が1点あるだけで、時期を特定することはできなかった。周囲の柱穴と切り合いをもち、S P 374に壊され、S B 8の柱穴であるS P 383を壊している。

S E 365 (図版14) 西側調査区の西部、南壁沿いに位置し、一部が調査区外へ続く。S E 406・S E 376に形態が似るが、前者に比べると深度が浅く、扁平な形態である。平面形は、直径2mの円形で、垂直気味の壁面が深度0.6mで広く平坦な底部に至る。東側は搅乱とS K 367に切られ、西側でS B 8の柱穴であるS P 368を切る。覆土は大きく2層に分けられる。上層はにぶい黄褐色土が主体で、下層は大きめの灰黄色土ブロックが多く混じる黄褐色土が主体である。前の2基と異なり黒褐色土層は確認できない。覆土中から珠洲片口鉢、中世土師器皿（40）、須恵器無台杯（10）などが出土したが、小破片や摩耗が著しいものである。

3) 土坑

S K 235 (図版14) 西側調査区の東部に位置する。南は調査区外へ続き、北は旧別山川の河道に没する。東西の最大幅は2.8m、南北方向は3.5mを確認した。東西方向の断面形態は浅い皿状で、壁面は緩やかな弧を描いて立ち上がる。深さは0.3mである。土層図中の上位層は後世の造構の覆土であり、S K 235の覆土は3層に分けられ、レンズ状に堆積する。しかし、土質に大きな違いは認められず、全体的に黄褐色土が主体となる。覆土中の炭化物は少量である。底面の平坦面は広く、底面でピットも検出された。豊穴状遺構といった性格も想定された。しかし、ピットは西側の壁面沿いに限られたこと、覆土に炭化物がほとんど見られなかった。ここでは、土坑としたが、南北方向の溝の可能性がある。

S K 165 (図版15) 東側調査区の中央やや北側に位置する。平面形態は東西5.2m、南北3.7mの長方形で、北側は旧別山川の河道に接している。南側の壁面は直線的に急角度で0.8m立ち上がる。東側はやや広い平坦面を階段状に3段設けられる。西側の掘方は不明瞭であったが、おおむね東側と同様に平坦面を持つ段を設けながら立ち上がっている。最深部の床面は、平面形態は一辺3.5mのおおむね正方形となる。床面に柱穴や土坑は確認されなかった。覆土はにぶい黄褐色土や暗灰黄色土からなる北側は旧別山川により削られているため、壁面の立ち上がりが存在したかは不明である。覆土中からは肥前磁器の小片や土器片が少量出土したのみである。性格は不明であるが、旧別山川の流路に接しており、この遺構の周囲では井戸等が検出されないことから、居住に関わる遺構とは想定しにくい。河道と何らかの関わりをもった性格を想定する。

S K 119 (図版15) 東側調査区中央のやや西に位置する。直径1.5m前後のおおむね円形の黒褐色土が検出され、井戸を想定して調査を開始したが、深さ0.2mで底面に達した。断面形態は浅い皿状で、底面には細かい凹凸が点在する。覆土は黒褐色土が主体の単層で、地山土の小ブロックが少量混じる。珠洲壺の体部破片が出土した。S P 146は、S K 119の検出時には確認できなかつたもので、S K 119に先行する。

S K 644・S K 645 (図版15) 西側調査区中央のやや東に位置する。S K 644の平面形は長軸0.8m、短軸0.6mの南北にやや長い隅丸方形である。壁面はやや狭まりながら深さ0.7mで平坦な底部に至る。覆土は2層に分かれ、上層は暗灰黄色、下層は灰色の粘質土である。炭化物はほとんど見られない。S K 645の平面形は長軸1.3m、短軸0.7mの東西に長い隅丸方形である。壁面は緩い弧を描き、深さ0.2mで広く平坦な底部に至る。覆土は褐色土に明黄褐色土ブロックが少量混じり、炭化物が含まれる。S K 645埋没後にS K 644が掘られる。

S P 345・S K 641 (図版15) 西側調査区のほぼ中央に位置する。S K 641のほぼ中央をS P 345が掘りこんでいる。S P 345の平面形は一辺0.5mの隅丸方形である。壁面はおおむね垂直で、深さ0.4mで平坦な底部に至り、西側壁面沿いに径0.3m、深さ0.1mの小ピットを持つ。覆土はおおむね水平に堆積し、中層に灰黄色土ブロック主体層が形成され、小ピットにはしまりの弱い黄灰色粘土が堆積する。S K 641はS P 345に先行するもので、長軸0.9m、短軸0.6mの東西に長い楕円形を呈する。西側の壁面は垂直に下がり、深さは0.4mとなる。東側の壁面は弧を描く。覆土は黄褐色土とにぶい黄色土がまだらに混じる。S P 345は柱穴の可能性が高いと想定して類似する柱穴の検出に努めたが、同様のものを確認することはできなかつた。

S K 67・S K 68 (図版16) 東側調査区の中央やや南に位置し、S K 67がS K 68より新しい。S K 67の平面形は長軸0.7m、短軸0.6mの楕円形で、深さは0.3mである。S K 68の平面形は長軸0.8m、短軸0.6m

の楕円形で、深さは0.4mである。両者とも下層に薄く粘質土が堆積する。

4) ピット

ピットは全体で541基を検出した。そのうち、掘立柱建物や柵の復元ができたものは97基であり、その他のものは建物などの構成や性格が不明のものである。一部は根跡の搅乱もあると思われる。

ピットは形態や規模の特徴から大きく三種に分けられる。一種目は直径0.2m～0.3m程度の小規模なもので、ピットのおよそ半数を占める。深さは0.1m～0.3mのものが大半で、覆土は褐灰色土や灰褐色土、暗褐色土などがある。

二種目は、直径0.5m前後、深度0.5m前後のやや大型のものである。S P 95・96・132・296・304・316(図版16)などがある。覆土は水平に堆積しているものが多く、地山土に似るブロックが多い量に混じるものが多い。柱痕を確認できたものは少ない。

三種目は、平面形が直径0.7m前後の円形か楕円形で、深さが0.4m前後のものである。底部は丸みを持つ。S P 263・400・410(図版16)では柱痕を確認した。底部の中央に幅15cm前後の柱痕を認められる。上部を掘りこんだ痕跡があることから、柱の抜き取り痕と想定する。S P 400は、大部分がS P 399に壊されるが、細い柱痕が検出面から底面に至っている。S P 263では肥前系陶器の小片が出土した。

5) 溝

溝は全体で14基を検出した。溝には明治時代の土地更正図の区割りや道に一致するものがある。覆土は灰色を基調とした砂混じりのシルトが主体である。これらの溝の年代を特定できる遺物は出土していないが、他の井戸や土坑、ピット等を切っている。また、復元された掘立柱建物や柵もこれを横切っており、同時に存在したとは考えられない。明治期に残る区割りであることから、当遺跡の集落の最終段階が廃絶した後に作られたものと想定する。

これに対し、S D 493は上面に多数のピット等が掘られ、全体の中でも古い時期の遺構であることがわかる。この溝は西側調査区のほぼ中央に位置し、西南西から東北東におおむね直線に通るものである。覆土は地山土との識別が困難な部分が多いが、一部では赤褐色の粗砂が主体となる部分もある。粗砂以外の部分では掘方が不明瞭であった。全体的には、壁面や底面に凹凸が多く、深さも一定ではない。東側では最大幅0.9m、深さ0.2m前後となるが、西側では幅0.2m、深さは数cm程度となる。また、途中で溝が極端に浅くなり途切れる部分もあった。東端も徐々に浅くなつて消失しており、溝の両端部は不明瞭である。これらを一連の溝とした場合、確認できた全長は21.9mとなる。全体的に覆土中に炭化物はほとんど認められない。覆土中から土師器、鍛冶滓がまとまって出土した。西半部では溝が浅くなっていることも影響しているであろうが、遺物の大部分は溝の東半部で出土した。特に東端部付近ではまとまって出土している。

V 遺 物

1 遺物の概要

本遺跡から出土した遺物には、土器・陶磁器類をはじめ、漆器、木製遺物、金属製品、石製品、製鉄関連遺物がある。包含層がほとんど消失しているため、大部分は遺構覆土から出土したものである。遺物の時代は古墳時代から近世まで確認できる。

時代毎の出土量では、古墳時代は少なく、古代から近世のものがやや多い。しかし全体的に出土量は少ない。古墳時代のものは、小破片で摩耗が激しいものばかりである。古代のものには須恵器と土師器があり、その多くは SD493から出土した。他の遺構から出土したものも含め、小破片となったものが多い。中世から近世のものには、土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、肥前系陶磁器、青花がある。井戸から出土したものが多いが、柱穴や土坑からも若干出土している。近世の陶磁器は、旧別山川の埋め立て土からも出土した。

漆器は3点あり、全て SE279から出土した。木製遺物には桶、蓋、用途不明の部材、柱根がある。柱根以外はいずれも井戸から出土したものである。石製品は砥石、粉挽臼、石鉢がある。鉄製品は用途不明な金属片の他に鋸身が1点ある。製鉄関連遺物はいずれも鍛冶滓で、多くは SD493から出土したものである。

2 土器・陶磁器

1) 古墳時代

いずれも土師器で、小破片である。3点を図示した。1・3は SK165から、2は SE365から出土した。1は有段口縁の壺の口縁部とみられる。口縁端部は欠損しており、器面も劣化が著しい。2・3は甕の口縁部破片である。口縁部が緩やかに外反し、端部は丸く収まる。これらも表面や破損部の摩耗が著しい。いずれも後世の遺物を含む遺構から出土した。当期の遺物が少ないと考課すると、この時期の集落が今回の調査区の近傍にあったことが想定される。地理的には若干離れるものの、別山川左岸には多くの古墳時代の遺跡が分布している。黒部古屋敷遺跡周辺でも未知の集落跡が存在することが想定される。

2) 古代

須恵器と土師器がある。須恵器では有台杯・無台杯・甕を、土師器は有台皿と柱状高台皿の他に無高台の底部がある。皿か碗かは判然としないものであるが、ここでは無台皿とする。古墳時代と同様に、破片となったものが多く、全形をうかがい知れるものは少ない。SD493からは土師器がまとまって出土しており、他に須恵器も数点出土した。その他のものは後世の遺構に混入したとみられるものが大部分である。

a. 須恵器 (4~14)

有台杯2点、無台杯5点、甕4点を図示した。有台杯はいずれも底部の破片である。4はやや幅が広く内屈する高台を持つ。5の高台は細く垂下する。外底面に回転糸切りとみられる痕跡が認められるが、小

破片で摩耗しているため判然としない。6は無台杯の口縁部の小片で、口径12cm前後に復元できる。7～10は無台杯の底部破片である。7は焼成が良好で、暗青灰色を呈し、胎土に微小な白色粒子を多く含むものである。佐渡小泊窯跡群産とみられる。8は焼成がやや軟質なうえ、二次焼成により器表が劣化している。胎土に長石と石英を含む。9は底部から体部下半の小破片で、灰白色を呈する。胎土に少量の小礫を含む。焼成は良好である。10も灰白色を呈するが、胎土に多量の小礫を含むもので、破損部の摩耗が著しい。11～14は甕の体部破片である。13の叩き具痕は幅が広い平行文で、打ち込みが深い。当て具痕は放射状である。胎土はやや粗く、小礫の他に長石や海綿骨針を含む。焼成は硬質であるが、内面の還元が不十分でにぶい褐色を呈する。他の3点の叩き具痕は擬格子で、当て具痕は同心円である。胎土は緻密で白色粒子を多く含むなど共通した特徴を有する。

b. 土師器 (15～30)

有台皿5点、無台皿6点、柱状高台皿5点を図示した。15は口縁部の小片で、口径の復元が困難なものである。胎土に砂を多く含み、褐色土粒や雲母も多く混ざる。明褐色を呈する。高台を持つ底部の16に特徴が似ていることから、同一個体である可能性が高い。有台皿はいずれも底部が厚く、高台は大きく広がる。無台皿は、全形がわかるもの1点の他は、いずれも底部の破片である。25は口縁部が内湾し、口縁部中位に段を有する。底部破片は、底部径が5cm以下の小型のものと、6cm台の大型のものに分けられる。27～30は柱状高台皿である。29を除き、高台はあまり発達せず、低めのものである。27・28は内底面中央に窪みを有する。29は高台の下端がつぶれたように外側に広がり、体部は内湾気味に大きく広がる。30は他に比べて高台径が大きい。体部は外反して大きく開く。焼成は軟質なものが多く、破断面も摩耗しているものが多数である。胎土に砂や礫などの混入物が多い。また、成形や調整は粗雑なものが多い。

3) 中世・近世

時期が確認できたものは、おおむね18世紀前半頃までのものである。珠洲・越前・土師器・瀬戸美濃・肥前系陶磁器・青花がある。肥前系の陶磁器が最も多く、珠洲がこれに次ぐ。井戸から出土したものが多いが、小破片のものはピットや土坑からも出土している。遺物の分布状況を見ると、東側調査区に比べて西側調査区の方が多いが、西地区では小破片となったものが多い。これに対し、東側調査区では、SE 87とSE 145では比較的残存状況が良好なものが出土した。以下、種類ごとに概観する。

a. 珠洲 (31～38)

片口鉢・壺・甕がある。片口鉢は5点を図示した。口縁部が残るのは31と32である。いずれも口縁端部が内傾する。31は小片のため、口径は不明確だが、25cm前後に復元した。32はSE 145の床面付近から出土したもので、口縁部から底部にかけて幅3cm程度を欠損するほかは全形が残る。口径21.7cm、底径10.8cm、器高8.2cmである。底部中央に直徑4cmほどの穴が開いている。内面は摩耗が著しく、御目の大部がすり減って消えている。底部の穴は意図的にあけられたものではなく、使用により底部が劣化して破損したものとみられる。口縁部の形態から、2点とも珠洲編年〔吉岡1994〕のV期とみる。33～35も内面が著しく摩耗している。胎土が粗く、5mm前後の小礫を多く含む。口縁部を欠くため時期を明確にしがたいが、V期以降のものとみる。壺・甕は、体部か底部の破片で、口縁部を残すものは出土していない。37の叩き目は細密な平行文だが、打ち込みは浅い。36・38の叩き目は幅の広い平行文である。これらもV期のものと想定する。

b. 越前 (39)

S E87から鉢部が出土した。接合しない破片もあるが、全て同一の個体とみられる。底部は縁辺がわずかに残り、体部は全体の6分の1程度が残る。口径34cm、底径12.8cm、器高12cmに復元した。口縁部内面下位に段ができる。卸目は幅3cmに10目のものを放射状に16条施す。外面は、上位のロクロナデは丁寧だが、下半は凹凸が顯著で、下端付近は粘土がつぶれた痕跡がみられる。胎土はやや粗く、径2mm程度の礫がやや多く見られる。木村氏の編年〔木村2008〕のV-1期とみられる。

c. 土師器 (40)

S K365から手捏ね成形の皿が1点出土した。中世後期の京都系土師器皿である。口縁部は全周の4分の1が残り、底部は縁辺のごく一部が残る。外面の口縁部下位に横ナデによるわずかな窪みが巡る。口縁端部はやや外側に開いて丸く収まる。煤の付着は見られない。15世紀後半から16世紀前半のものとみられる。

d. 潤戸美濃 (41~44)

丸皿が2点、天目が2点出土した。丸皿は2点ともS E467から出土したものである。41は丸皿の口縁部の小片で、内外面に灰釉が施される。胎土は粗い。42も丸皿で、口縁部の3分の1程度を欠損する。口径9.9cm、底径5.3cm、器高2.5cmである。口縁部は内湾し、端部がやや肥厚する。高台は逆三角形で小さなものである。胎土は緻密で灰色を呈し、径1mmから2mm程度の白色の礫が少量混じる。全面に灰釉が施されるが、外底面には焼き台の痕跡とみられる円形の露胎部分がある。また、疊付けの大部分では使用により、釉が剥がれている。43・44は天目の口縁部破片である。43はS E334から、44はS K377の上面から出土した。口縁部下位がくびれ、端部はわずかに外反する。42は大窓3段階に位置づけられよう。41・43・44は口縁部の小破片のため明確にしがたいが、大窓2~3段階とみられる。

e. 青花 (45)

S P621の掘方埋土から出土した。端反りの口縁部を持つ皿である。外面は上から界線、牡丹唐草文、界線を描き、内面は口縁部下位に界線、見込みに十字花文を描くもので、小野氏の分類の皿B, VI類である〔小野1982〕。15世紀後半から16世紀前葉に位置づけられる。

f. 肥前 (46~55)

小破片も合わせると比較的多くが出土したが、図示したものは10点である。46・47は磁器碗の小破片である。46はS P292から、47はS K165から出土したもので、いずれも18世紀頃のものとみられる。48は波佐見焼磁器の皿である。焼成不良で胎土は明褐色に発色する。内面は、見込みに蛇の目釉剥ぎを行い、体部下位に二重圈線、体部に草花文、口縁部に圈線を描く。外面は体部下半が露胎である。波佐見編年のV-1期に位置づけられる。49~52は陶器の皿である。49は見込みを蛇の目釉剥ぎする。外面はロクロ削りが行われ、体部中位より下位は露胎である。50は口縁部の小破片で、内面から外面口縁部上位に銅緑釉が、外面体部には無色釉がかかる。51は疊付けを除く全面にやや緑がかかった灰白色の釉がかかる京焼風の碗である。52は内面に鉄釉が、外面は白色の釉がかかり、高台は露胎である。53は碗で、褐色の胎土に無色釉がかかる。50はS P262から出土したもので、肥前IV期とみる。他はいずれも旧別山川の埋め立て土から出土したもので、52が肥前II期、他は肥前IV期とみられる。54・55は陶器の擂鉢である。54は口縁部に鉄釉がかかり、内面にごく細い筋の卸目を施す。口縁端部は外側に巻き込んでおさめる。55は口縁端部が内屈するもので、口縁部に鉄釉をかける。2点とも旧別山川の埋め立て土から出土したもので、いずれも肥前II期とみられる。

3 漆器

漆器は3点出土した。いずれもSE297の下層から出土したものである。皿2点と、やや大型の底部で椀とみられるもの1点である。塗膜の分析等は行っていないが、いずれも波下地とみられる。全て横木取りである。56は口径7.9cm、底径5.5cm、器高2.0cmである。高台からその内部は黒色系漆で、他は内外とも赤色漆である。外底面の黒色系漆の上に赤色漆で文様を描く。高台は小さく、外側に開くものである。57は口径9.4cm、底径6.3cm、器高2.9cmである。塗膜の剥離が著しいが、内赤外黒色系漆とみられる。内面の赤色漆は大部分が剥落している。外面体部に赤色漆で文様が描かれているが、これも大部分が剥落しているため、模様は不明である。高台の形態は56と同様である。58は底径8.3cmと他の2点に比べて大型だが、大部分が欠損して底部のみが残存する。高台も付け根部分から欠損しており、体部は見込みの外縁部分から欠損する。見込み中央に赤色漆が残る。外面は、高台の外面と高台内側に黒色系漆が塗られる。内赤外黒色系漆の椀であったとみられる。皿2点はほぼ全形が残っていたが、この椀の欠損した部分の破片は確認できなかった。

4 木製品

用途が判別できるものは蓋、籠物結構、柱があるが、大部分は用途不明のものである。15点を図示した。59はSE279から出土した蓋で、5分の1程度を欠損する。正円とはならず、隅丸方形に近い。中央に径1cmの穴が開く。60は円形板の一部で、中央付近に径2mmの穴が2個開く。61はSE467の黒色粘土層からまとめて出土した籠物結構の部材である。籠は消失しており、各部材が分離した状態で出土したものを復元実測した。底板は3枚の板をつなげて、直径20.9cmの円形とする。側板は15枚あるが、それぞれの幅は不揃いで、長さにも若干のばらつきがある。側板の外側に籠の痕跡が巡る。62~64も籠物結構の側板である。62は上部に径3mmの穴が開けられる。63は最も幅が広いもので、6.4cmである。これらの外側にも籠の痕跡が残り、内面には底板のあたりとみられるかすかな窪みも認められる。64は上部の大部分を欠損する。全面が炭化している。65~71は用途不明の部材である。65は幅2.4cm、厚さ0.7cmの板状のもので、先端を面取りしてとがらせている。片面はほぼ全面が、その裏面は先端部分が炭化する。67は厚さ0.5cmの薄い板材で、長さ16.1cm、幅5.0cmが残る。一端が強く炭化している。68は角材の一部とみられる。69は一端を丸く成形した板状の部材である。ホゾ穴が開けられ、この部分で折損している。片面が炭化している。70は断面円形の棒状部材である。図の上部は折損しており、下部は切断されている。71は角材に長方形の穴を同一方向に向けて3カ所開けられ、この穴に割れ目を入れたホゾが挿される。またこの穴に直行する抉りを1カ所に設ける。図左側の先端は曲面に成形されて端部を尖らせる。図右側は折損している。用途は不明である。72・73は柱根である。72の断面は一辺18cmの正方形の芯持ち材である。芯は中心からはずれている。高さ27cmが残存する。底面には鋸によるとみられる切斷痕が残る。73は大部分が滅失しているが、出土時は平面正方形の緩い粘土に埋まっていた(図版28)。柱痕が腐食した部分に流れ込んだ粘土とみられ、72と同様の正方形の柱が据えられていたことを示している。

5 金属製品

74は鋸の一部である。鋸身の厚さは約3mm、長さ17.6cm、幅4.2cmが残る。刃部はわずかに弧を描いていることから、木の葉型の鋸身とみられる。素齒でアサリがある。75は棒状、76は板状の鉄製品である。76は薄い金属板を途中で折り曲げ、2枚が重なっている。77は銭貨でSK523の上面で出土した。3枚が重なり、鋸で貼りついている。上面の一枚は「元豊通寶」で初鋤は1078年である。

6 石製品

78・79は砥石である。78は圓の上部が折損している。断面は正方形で、使用面は圓の表裏2面である。79は圓の下部が折損する。上部に紐を通すためのものとみられる穴が開けられる。石材は78が頁岩、79が凝灰岩である。80・81は粉挽臼の上臼である。80は完形品で、臼面の溝は8分画である。供給穴側の側面に持ち手を設け、対面に挽木穴が付く。81は上臼の縁部の小破片である。82は石鉢の破片である。口径28cm、底径23cm、器高15cmに復元される。底部は安定した平底で、中央部が窪んでいる。口縁端部は水平で、内面は緩やかに弧を描いて見込みに至る。内面に焦げが付着する。3点とも石材は安山岩である。

7 製鉄関連遺物 (83～93)

鍛冶津が出土した。多くはSD493からのものである。92・93は碗型鍛冶津の一部である。他に焼土粒などは出土しているが、炉壁や羽口は確認できない。

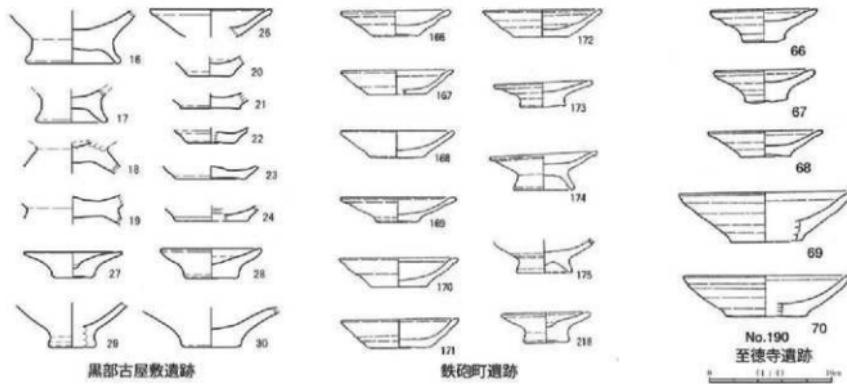
VII 総括

1 古代

黒部古屋敷遺跡の発掘調査では、SD493からまとまって古代の遺物が出土した。他の遺構からも当期の遺物が出土しているが、後世の遺構に混入したとみられる小破片のものが多く、遺構の時期を決定できる資料となり得るものはほとんどない。ここでは、SD493から出土した遺物の年代についてまとめる。

SD493から出土したもので、図示したものは須恵器1点、土師器15点である。須恵器は壺の体部破片であり、時期の比定は困難である。ただし、叩き目痕と當て具痕が特徴的なもので、周辺の9~10世紀代の集落跡では確認されていないものである。土師器は有台皿、無台皿、柱状高台皿がある。全形をうかがい知れるものは少ないが、特徴についてまとめる。有台皿は、口縁部の小破片が1点、底部破片が4点である。底部の厚さは1~1.5cmと厚く、これに外側に大きく開く長い高台が付く。無台皿は底部破片が4点である。底部径からは大小の2法量があることが想定される。柱状高台皿は、高台はそれほど発達せず、低めのものである。これらの資料の類例は上越市鉄砲町遺跡〔新潟県教育委員会他1995〕や至徳寺遺跡〔笹沢他2001・上越市史専門委員会考古部会2003〕に求めることができる。

鉄砲町遺跡では、SE31・SE54の資料があげられる。SE31では柱状高台皿が出土している。口径7.3cm、器高2.5cmで、内底面中央に指頭大の窪みを有する。内面の窪みは当遺跡の27・28でも確認できる。SE54では、小皿・柱状高台皿・有台皿がある。柱状高台皿の体部は直線的に開くもので、当遺跡のものと若干異なる。有台皿の底部は1cm以上の厚みがあり、当遺跡出土のものに似る。至徳寺遺跡で有台皿・無台皿・柱状高台皿がまとまって出土した遺構にSK107がある。有台皿の底部は厚く、柱状高台皿の高台の高さは器高の半分程度である。この他の遺構からも同様の形態の資料は多く出土している。



第6図 黒部古屋敷遺跡・至徳寺遺跡・鉄砲町遺跡の古代土師器

これらの事例と比べると、黒部古屋敷遺跡 S D 493から出土した土器群は、形態や組成において鉄砲町遺跡や至徳寺遺跡のものと同様の特徴を持っており、時期的にある程度のまとまりがあることが想定できる。鉄砲町遺跡の資料は11世紀後半に、至徳寺遺跡の資料は11世紀末葉頃の時期が想定されており、黒部古屋敷遺跡 S D 493の資料も11世紀後半から末葉に位置づけられよう。当遺跡では、この時期のまとまった資料は他に確認できず、集落の様相は不明である。S D 493からは鍛冶滓もまとまって出土しており、他の遺構などからも少量ではあるが鍛冶滓や焼土粒が出土している。この時期に鍛冶に関わる集落が周囲に存在していたことが想定される。しかし、出土した土器類が少なく、時期も限定されることから、ごく短期間の小規模なものであったと考えられる。ただし、柏崎平野北部ではこの時期の集落跡は見つかっておらず、当期の資料もほとんど見られない。資料の空白期の一部を埋める資料であり、古代から中世への集落の変遷を検討するうえで重要な資料である。今後の資料の蓄積に期待したい。

2 中世～近世

1) 遺物の時期

黒部古屋敷遺跡の発掘調査で出土した中世から近世の土器類には、珠洲・越前・土師器・瀬戸美濃・青花・肥前陶磁器がある。遺構からまとまって出土するようなものはほとんどなく、大部分は小片となったものである。それぞれの時期について再度確認する。

珠洲は、片口鉢と壺・甕の底体部破片がある。片口鉢の胎土はやや粗く、白色の蹠を多量に含んでいる。口縁部は2点あり、いずれも端部が内傾する。壺・甕の叩打痕は、37のものは原体の幅は狭く細密であるが打ち込みが浅い。36・38は粗い原体を用い、内面の当て具痕はナデにより不明瞭である。いずれもV期頃のものと想定した。

越前擂鉢は、口縁上面が水平で内側に沈線が巡り、木村氏の編年のV-1期に位置付けた。瀬戸美濃は天目と丸皿が各2点ある。42の丸皿は体部がやや膨らみ気味に立ち上がるもので、大窯第3段階に位置づけた。肥前陶磁器は肥前II期が3点、IV期が6点、同IV期とほぼ同時期の波佐見V-1期を1点確認した。

これらの各年代は、珠洲V期が14世紀後半から15世紀前半、越前V-1期が15世紀末から16世紀初頭、大窯第3段階が16世紀代、肥前II期が17世紀前葉でIV期が17世紀末から18世紀前半頃が想定される。14世紀後半から18世紀前半頃までの長期間の資料を確認できることとなる。しかし、出土遺物が少ないとから、集落が継続的に存在していたとは考えにくい。また、遺物の出土量が少ないうえに、小破片となったものが大部分を占めている。このため、遺構の時期を特定することは難しく、時期毎の遺構の変遷を検討することは困難である。

2) 遺構の時期

多くの遺構は時期の特定が困難ではあるが、ここで各時期の遺物の分布を確認し、若干ではあるが遺構の時期を確認する。

珠洲はS E 145・S K 119・S E 279・S K 304・S E 534・S P 447から出土したが、S E 145以外のものはいずれも小破片である。調査区の全域で出土している。越前はS E 87の他、S P 151から擂鉢の小破片が出土しており、東側調査区に限られる。時期的に近いとみられる瀬戸美濃はS E 334・S K 377・S E 467から、土師器皿はS E 365から出土しており、西側調査区の西半部にまとまる。肥前系陶磁器はS E 2、

S K165、S A 4の柱穴であるS P292からと、西側調査区北東部の旧別山川埋めたて土中から出土しており、東西の両調査区から出土している。

これらの中で、出土状況や共伴遺物などからいくつかの遺構の時期について検討したい。S E145は珠洲片口鉢2点が出土し、1点はほぼ全形が残るものである。両者とも、基底部上の粘土層のやや上位から出土したもので、32の残存状況が良好なことから、珠洲V期に近い遺構であるとみる。S E79では珠洲2点が出土したが、いずれも小破片である。漆器3点、木製品蓋、鉄製品鋸身も出土した。漆器は内外赤色漆と内赤外黒色系漆の皿はほぼ全形が残る。木製品蓋は全体の8割程度が残存し、鋸身は大部分が腐食して欠損している。珠洲とその他のものでは残存状況が違うことから、埋没に至る過程が異なるものと想定する。赤色漆器が16世紀後半以降に農村にまで普及するとされており、高台の形態等も考慮すると、16世紀後半以降に位置づける。S E467では、瀬戸美濃丸皿2点、籠物結桶、粉引臼、石鉢等が出土した。丸皿の1点は口縁部の3分の1ほどを欠損するが、残存状況は良好なものである。粉挽臼は完形品で、石鉢は全体の2分の1程度が残る。籠物結桶は籠が消失するが、他の部材は全て残る。これらは第5層中位のほぼ同一カ所から出土しており、一括して廃棄されたものと考える。丸皿は16世紀代に位置づけられる。周辺の遺跡では、粉引臼は16世紀以降に出土量が増加しているため、共伴関係に齟齬はないと考えられ、S E467は16世紀代のものと捉えられるだろう。S A 4の柱穴であるS P262からは肥前IV期の陶器の小破片が出土している。これに近い時期のものと想定する。S D283は、明治23年調査の土地更正図の地割にほぼ合致する。S A 4と交差するものであることから、更正図の地割の成立は、S A 4廃絶後であり、18世紀後半以後であると考えられる。

S E365・S E376・S E406では、遺物はほとんど出土していないが、掘方平面が直径2m前後の円形で、深度が1m前後、平坦な広い床面を持つもので共通した特徴を有する。S E365から16世紀代の土師器皿が、S E376を切るS K377から瀬戸美濃大窯の天目が出土している。肥前陶磁器が混入しないことから、16世紀代に位置づけておく。

以上、遺構から出土した遺物が少ないため、大部分の遺構は時期を特定することができなかった。

3) 集落の変遷

ここまで、黒部古屋敷遺跡の発掘調査で出土した中世から近世の遺物の所属時期について確認し、遺構の時期の検討を行った。しかし、出土遺物が少ないとから、大部分の遺構は所属時期が不明なまとなってしまった。最後に資料が少ないながらも、遺構の配置や遺物の分布などをもとに、中世以降の黒部古屋敷遺跡の集落の変遷を検討してみたい。

当遺跡で中世の遺物が明確に確認できるのは珠洲V期の段階で、14世紀後葉から15世紀前半である。この時期に属する遺構はS E145で、他には小破片が調査区全域で出土している。当期では珠洲以外の資料は確認できず、出土量も少ないとから、短期間の小規模な集落であったと想定する。

これに続く資料としては、時期的にやや差があるものの、16世紀代にあたる越前V-1期と瀬戸美濃大窯第3段階がある。遺物は越前播鉢、瀬戸美濃丸皿・天目、土師器皿、籠物結桶、粉挽臼、石鉢があり、当遺跡の中では最も種類が豊富である。大型の井戸が多く確認され、やや長期に渡る生活が営まれたことが想定される。その後、17世紀前葉にあたる肥前II期の陶磁器が少量出土するが、いずれも旧別山川の埋めたて土中から出土したもので、遺構の状況は不明である。17世紀後葉から18世紀代にあたる肥前IV期、波佐見V-1期の陶磁器が柱穴や旧別山川埋立土などから出土する。また、S E279から出土した漆器も17世

紀以降のものとみられ、ここでは肥前系陶磁器に伴うものと考える。今回の調査では、これより新しい時期の遺物は確認されなかった。

3 黒部古屋敷遺跡の変遷

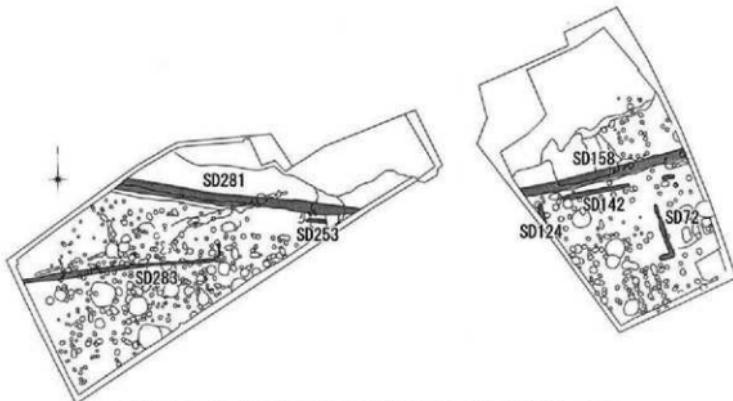
最後に黒部古屋敷遺跡の変遷を時代ごとにまとめる。

古墳時代 小破片となった土師器が少量確認できる。当期のものとみられる遺構は未確認である。調査区の南東にやや広い沖積地が続いていることから、周辺にこの時期の集落が存在していたものと考えられる。

古代 柏崎平野では9世紀頃から集落が増加するが、黒部古屋敷遺跡では集落が成立した様相は確認できない。遺物が少量出土していることから、周間に当期の集落が成立していたことは想定できる。古代末期から中世初頭にあたる11世紀後半では、須恵器・土師器と鍛冶滓が溝からまとまって出土していることから、この時期に鍛冶に関わる集落が成立したと考えられる。しかし、この溝以外に当期の遺構を確認することはできなかった。当遺跡の周辺では、この時期の資料はほとんど確認されていない。ここに鍛冶関連遺物を伴う集落が成立したことは、周辺の製鉄関連遺跡の動向と合わせて検討する必要があるだろう。

中世 遺物の出土量からみて、15世紀代から断続的に集落が存在していたとみられる。各時期の集落は小規模なもので、ごく短期間のものであったのではないだろうか。しかし、各時期に井戸が存在しており、それぞれの時期に井戸を伴う住居が営まれていたことが想定できる。そして、18世紀前半より新しい資料は出土しなかった。

「西山町誌」「4 黒部誌」には、黒部は「天保檢地書には戸数が四戸」で「もとは別山川の川岸にあったそうだ。今もそこを「ふるやしき」といっている」とある。この伝承がいつの時代のことを指し、どのような経緯で伝わったのかは明らかではなかった。しかし、今回の発掘調査で「ふるやしき」の地に集落が存在していたことが確認された。また、明治27年に調製された土地更正図の境界に合致する溝が検出された。この溝の一部が18世紀代の柵と交差していることから、この時期の集落が廃絶した後に区画の再編が行われたと考えられる。その後、この地から集落は移動していき、「ふるやしき」と呼ばれて現代に至ったものと考えられる。



第7図 明治42年調整土地更正図に合致する溝（縮尺1：400）

《引用・参考文献》

- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
柏崎市教育委員会 2001『柏崎町』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第38集)
柏崎市教育委員会 2003『柏崎市の遺跡XII』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第41集)
柏崎市教育委員会 2010『坂田遺跡群I』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第50集)
柏崎市教育委員会 2008『柏崎市の遺跡XVII』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第54集)
柏崎市教育委員会 2008『宝童寺遺跡群』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第55集)
柏崎市教育委員会 2009『坂田』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第56集)
柏崎市教育委員会 2010『坂田遺跡群III』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第58集)
柏崎市教育委員会 2012『柏崎市の遺跡21』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第66集)
柏崎市教育委員会 2013a『柏崎市の遺跡別冊I』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第70集)
柏崎市教育委員会 2013b『柏崎市の遺跡22』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第71集)
柏崎市教育委員会 2013c『下境井』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第73集)
柏崎平野団体研究グループ 1979『柏崎平野の地形発達史と下谷地遺跡周辺の地形』『北陸自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第19) 新潟県考古学委員会
春日真美 1999 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
春日真美 1999 「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年一九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会
木村孝一郎 2008 「越前焼の編年研究ノート」「吾々の考古学」と田畠吾先生追憶記念論集刊行会
小林雄輝・飯川勝彦・久保田喜常・神鷹勝明・渡辺秀文・渡辺文雄 2008『中越地域西部の地形と地質』地学団体研究会新潟支部中越地盤調査隊『柏崎・刈羽をそった地盤の被害と基盤—2007年新潟県中越沖地震』(地図研報第57号) 地学団体研究会
饭沼正史・水澤幸一 2001『伝承寺跡の遺物様相～中世前半を中心として～』『上越市史研究』第6号 上越市史専門委員会
上越市史専門委員会考古学会 2003『上越市史叢書』8
鳴海忠夫 1992「刈羽郡西山町坂田の鉢跡・地積図と遺物から把握した中世鉢跡の一例」『長岡郷土史』第29号 長岡郷土史研究会
新潟住大 1990 「築藩創の成立と変遷」『近世郷村と柏崎町の成立』市史編さん委員会編『柏崎市史』中巻 市史編さん室
新潟県教育委員会 1979『孤山塚群』国道116号線埋蔵文化財発掘調査報告書(新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第17)
新潟県教育委員会 1982『尾野内遺跡』芦ヶ崎告助(新潟県埋蔵文化財調査報告書第30)
新潟県教育委員会 1983『中越道116号線埋蔵文化財発掘調査報告書』(新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第33)
新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 1995『鉄砲町遺跡 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書V』(新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第65集)
新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2002『箕輪遺跡I 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書I』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第109集)
新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2003『下沖北遺跡 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書II』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第125集)
新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2005『東原町遺跡・下沖北遺跡II 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書III』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第140集)
西山町誌編纂委員会 1963『西山町誌』
西山町教育委員会 1991『二塚・甲斐城跡発掘調査報告書』(西山町文化財調査報告書第3集)
西山町教育委員会 2001『井ノ門遺跡発掘調査報告書』(西山町文化財調査報告書第6集)
西山町教育委員会 2003『宮ノ前遺跡発掘調査報告書』(西山町文化財調査報告書第7集)
藤澤良祐 2001 「漁戸・美濃大窯製品の生産と流通—研究の現状と課題—」『歴史・織物期の陶磁器流通と漁戸・美濃大窯製品—東アジアの視点から—』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
北陸中世考古学研究会 2007『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』
北陸中世土器研究会 1997『北陸の漆器考古学—中世とその前後—』
水澤幸一 2008 「越後の中世土器」『新潟考古』第10号 新潟県考古学会
村山教二 1990 「中世における柏崎市域」市史編さん委員会編『柏崎市史』上巻 市史編さん室
八峰 興 2001 「柱状高台考古」『中世土器研究論集—中世土器研究会20周年記念論集—』中世土器研究会編
山本隆志 2008 「高野山清津院『越後過去名譜』(厚本)」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第9号 新潟県立歴史博物館
吉岡康輔 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館
四柳嘉章 1997 「第6章第3節 北陸の中世漆器」『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会編
末沢 康 1976 「古代北陸道の伝揚制について」『信濃』第28巻5号 信濃史学会
末沢 康 1980 「大宝2年の越中国四部分割をめぐって」『信濃』第32巻6号 信濃史学会
和島村教育委員会 1994『八幡林遺跡』(和島村埋蔵文化財調査報告書第3集)

別表 1 黒部古墳群遺跡調査報告書表

番号	遺跡・場	位置	属性	尺度	覆土	切り合ひ	備考	出土遺物
SP1	SII	42-68-7	褐色・灰褐色	2-1	回頭12. SII施設的小口前庭。			
SE2	SII	42-68-7	150-120	113	灰褐色色質粘土	2-3	回頭12. 瓦の裏面下部は、一部崩落。SII施設有台帳①	
SP3	SII	42-68-7	20	14	埴地	2-4	SI2施設小口前庭。	
SP4	SII	43-68-7				2-5	SI2施設小口前庭。	
SP5	SII	43-68-7	面積中央	16	埴地			
SP6	SII	42-68-7	24	22	埴地			
SP7	SII	42-68-7	26	19	埴地・埴地ブロック			
SP8	SII	43-68-7	21	16	埴地	8-9		
SP9	SII	43-68-7	22	28	埴地	8-9		
SK10	SII	43-69-7	57	15		10-13		
SP11	SII	43-69-7	35	27	埴地	11-19		
x12		43-69-7	73	6				
SP13	SII	43-69-7	34	34	埴地			
SP14	SII	43-69-7			埴地	15-14		
SP15	SII	43-69-7	42	36	31	埴地・埴地ブロック	15-14, 16	
SP16	SII	43-68-7			埴地	15-16		
SP17	SII	43-69-7	24	23	11	埴地・2:埴地		
SP18	SII	43-69-7	28	25	35	埴地		
SP19	SII/SII	43-69-7	45	30	35	1:埴地・2:埴地		
SP21	SII	42-68-7	25	23	23	1:埴地・2:灰白色粘土		
SP23	SII	43-68-7	26	32	32			
SK24	SII	43-68-7	21	15	埴地			
SP26	SII	43-68-7	18	13	埴地			
SP28	SII/SII	43-68-7	32	19	埴地			
SP29	SII	43-68-7	20	20	埴地			
SP31	SII	43-68-7	29	13	埴地	31-32-33		
SP32	SII	43-68-7	20	30	埴地			
SK33	SII	43-68-7	52	40	40	埴地・埴地ブロック・直化物	31-32-33	
SP34	SII	43-68-7	48	30	27	埴地		
SP36	SII	43-68-7	22	10	埴地			
SP37	SII	43-69-7	31	30	埴地			
SP38	SII	43-69-7	22	1-10	埴地	265-285		
SP29	SII	43-69-7	45	22	28	1:埴地・2:埴地		
SP40	SII	43-69-7	22	22	10			
SP41	SII	43-69-7	45	31	62			
SP42	SII	43-69-7	30	28	24	埴地		
SP44	SII	43-69-7	44	20	40	埴地		
SP46	SII	43-69-7	26	25	14			
SK47	SII	43-69-7	70	39	1:埴地・2:埴地			
SP48	SII	43-68-7	30	15	埴地			
SP49	SII	43-68-7	20	12	埴地			
SP50	SII	43-68-7	42	26	26			
SK51	SII	43-68-7	35	28	30			
SP52	SII	43-68-7	23	17	埴地			
SP54	SII	43-68-7	28	33	埴地			

番号	遺物名	位置	長径	短径	厚さ	測定	写真
切合い							
SP56	SH1	43-68-2	52	43	1-民営地・莎士・2:施・黄褐色		
SP57	SH1	43-68-2	30	17	時化・黄褐色・黒色・ロング		
SP58	SH2	43-68-2	30	17	時化		
SP59		43-68-2	29	24			
SP60		43-68-2	35	20	時化	61-60	柄型
SP61		43-68-2	48	38	時化・施	61-60	柄型
SP62		43-68-2	42	30	時化・施・黒色・ロング		
SP63		43-68-2	49	24	1:民営地、2:施・時化		
SP64	SH1	43-68-2	28	62	1:時化・施、2:民営地・土		
SP65		43-68-2	27	18	時化		
SP67		43-68-2	70	69	31 民営地・施・黒色	68-67	圓盤16
SP68		43-68-2	62	68	49 時化・施・黒色	69-68-67	圓盤16
SP70		43-68-2	32	30	時化・施	68-69	
SH71	43-69-4	428	41	28	時化・施		
SP72		43-69-4	39	26	38 時化・施		更三段の地別に:一張半の施、1字施。
SP74		43-69-7	39	27	民営地・施	145-176	圓盤12
SP76		43-69-7	116	70	27 民営地・施	78-179	古代土器小片
SP78		43-69-7	184	93	17 黒色・施・黒土	78-78	木製施面59・古代土器小片・施古面
SP79	SH1	43-69-3	38	121	黒色・施・黒土	78-12	
SP84	SH1	43-68-2	39	27	1:時化、2:施・時化上		
SP85		43-68-2	21	20	時化・施・黒色・ロング		
SP87		43-68-2	32	40	40 時化・施・黒色		施前削除(39)・上部削下・施古面・施古面
SP90		43-68-2	162	157	152 民営地・施・黒色・施・黒色	99-97	焼土
SP91		43-68-2	116	110	60 民営地・施	87-90-91	
SP92		43-68-2	41	37	民営地	99-91	
SP93		43-68-2	48	12	時化		
SP94		43-68-2	60	33	時化		
SP95		43-68-2	15	8	時化		
SP96		43-68-2	45	65	45 にぶ・施・黒色	95-96	圓盤16
SP97		43-68-4	73	64	58 1:時化、2:45・施・黒色・ロング	95-96	圓盤16
SP98	S.61	43-68-2	68	78	21 時化・施	98-97	
SP100		43-68-2	35	81		98-97	
SP101		43-68-2	30	6			
SP102		43-68-2	30	37		102-101	
SP104	SH1	43-68-2	45	37	施・施・黒色・ロング	102-101	
SP105		43-68-2	33	21	時化・施・黒色・ロング	105-104	
SP106		43-68-2	22	15	時化		
SP107		43-68-2	46	38	時化		古代土器施面頭部
SP108		43-68-2	30	20	7		
SP109		43-68-2	20	9	時化		
SP110		43-68-2	24	15	時化		
SP111		43-68-2	20	16	時化		
SP112		43-68-2	51	26	18 時化・施・黒色・ロング	105-104	
SP113		2-2-2	24	16	時化・施・黒色・施		
SP114		43-68-2	23	26			ビクトル

番号	断面・種	位置	高さ	幅幅	深度	土	切り合ひ	備考	出土遺物
SP115	43-68-+	32	24						
SP116	43-68-+	29	9						
SP117	43-68-+	74	26	10					
SP118	43-68-+	19	16						
SK119	43-68-+	150	137	18					
SP120	542	43-69-+	31	9			146-1-19		回復15
SP121		43-68-+	19	19					
SP122		43-68-+	43	24					
SP123		43-68-+	30	10					
SP124		43-68-+	116	37					
SP125		43-68-+	40	21			124-125		南端上段査区外に二箇所
SP126	S41		36				124-125-126		
SP127		43-68-+	53				125-126		
SP128		43-68-+	94	13					
SP129	S42		24				13-1期地、2-灰白色粘灰砂質		
SP130	S42		38				14-海綿・泥		
SP131		43-68-+	43	14			1-海綿・灰・2-海綿・周囲フロッカ		
SK132		43-68-+	87	30	5		131-729		
SP133		43-68-+	65						
SP134	S41	43-68-+	18						
SP135		43-68-+	29	18					
SP136	S41	43-68-+	31	20					
SP137		43-68-+	30	30	12				
SP138	S41	43-68-+	26	28	12				
SP139		43-68-+	28	28	12				
SP140		43-68-+	42	22	22				
SP141		43-68-+	570	24	10				
SP142		43-68-+	20	15	15				
SP143		43-68-+	20	15	15				
SP144		44-68-+	38	33					
SP145		43-69-+	136	117	135				
SP146		43-68-+	38	52	42				
SP147		43-69-+	20	16	20				
SP148		43-69-+	30	24	24				
SP149		44-69-+	30	28	23				
SP150		43-69-+	32	20	40				
SP151	S41	43-69-+	25	45	45				
SP152		44-69-+	34	28	28				
SP153		43-69-+	33	26	18				
SP154		43-69-+	30	26	18				
SP155	S41	43-69-+	28	26	25				
SP156		44-68-+	36	28	28				
SP157		44-69-+	30	27	23				
SD158		44-68-+	1360	1090	15				
SK159		44-69-+	192	160	159				
SP160		44-69-+	46	34	35				
SP161		44-68-+	30	26	23				
SP162		44-68-+	12	10	8				

番号	測地・標	位置	高程	始点	測定	測定	切合点	標考	出土遺物
SP163		41-68-2	14	14	20			杭	
SP164		41-68-2	18	16	21			杭	
SK185		41-68-4	521	302	86	灰黄褐色、にぶい淡褐色	165—158	同前1b、別山川流域窯窓ガラス片遺物	土器断面(1・3)・肥前近畿(17)
SP167		41-68-2	30	24	8	褐色			
SP168		41-68-2	16	15	33	褐色			
SP169		41-68-2	28	26	37	褐色			
SP170		41-68-2	26	20	11	褐色			
SP171		41-68-2	28	22	15	褐色			
SK172		41-68-2	23	23	16	褐色			
SK173		41-68-4	565	49					
SP174		41-69-4	30	23	32	褐色、灰褐色			
SP175		41-69-4	23	23	25	暗褐色			
SP176		41-69-4	23	23	8	灰			
SP178		41-68-2	30	28	19	1:褐色、2:褐色			
SP179		41-68-2	30	30	12	褐色			
SP180		41-68-2	24	20	14	1:褐色、2:青褐色			
SP181		41-68-2	30	26	32	1:褐色、2:青褐色			
SP182		41-68-2	23	16	16	黑色			
SP183		41-68-2	40	31	26	1:褐色、2:褐色			
SP185		41-68-2	23	20	13	1:褐色、2:褐色			
SP186		41-68-2	21	20	8	褐色			
SP187		41-68-2	25	25	20	褐色			
SP188		41-68-2	18	16	7	褐色			
SP189		41-68-2	42	40	16	褐色			
SP191		41-68-2	10	20	30	褐色			
SP193		41-68-2	48	26			193-732	Y字型ビロード	
SP194		41-69-7	102	23	12			東北日本地圖に一致する原。	
SP195	SH1	33-69-4	30	28	20				
SK196		43-69-7	73	44	10				
SH197	SH1	43-69-2	72	70	90				11→196
SP198	SH1	43-69-2	20	20	20	褐色上に少多			
SP199		43-68-2	22	19					
SP200		43-68-2	30	40		褐色上に少多			
SP201		41-69-7	30	37		褐色、少少			
SP202		43-69-2	48	37			158→291→159		
SP207	SH2	43-69-4	33	28			76→206		
SP208	SH3	43-69-7	38	29					
SP209	SH4	43-69-4	79	40			269→296→38		
SP210		43-69-2	38	24			210→299→268		
SP211		43-69-2	53	60			269→210		
SP212	SH3	42-69-2	23	30					
SP213	SH4	42-69-7	35	25					
SP215		43-68-7	26	38					
SP216		9-9-9	24	34					
SP217		43-69-2	25	11					
SP218		43-68-2	22	12					

番号	断面・場	位置	高径	短径	深度	土	切り合ひ	備考
SP219		43-68-7	18		22			
SP220		43-69-7	15	17	17	褐色・灰白色シルト混じり		
SP221		43-69-7	21	30	褐色・灰白色シルト混じり			
SP222		43-69-7	22	17	灰黄色・灰白色		SD158に於く構成層の間に一致する層。 斜削出(75)	
SD231		43-66-7	1899	93	27			更正層の地割に一致する層。 斜削出(75)
SD233		43-66-7	217	95	6			
SK235		43-66-7	297	285	32	灰黄色・灰白色	639-255-256 回復(14)	
SP236		43-66-7	27	37		灰黄色・灰白色	236-235	更正層の地割に一致する層。
SP237		43-66-7	69	23	13	灰黄色		
SP238		43-66-7	22	13	灰黄色			
SP239		43-65-7	47	38	28	灰黄色・灰白色・灰白色 褐色地・灰白色プロック少	211-239	
SP240		43-65-7	31	26	26	灰黄色・灰白色・灰白色 褐色地・灰白色プロック少		
SP241	S.4.1	43-65-7	28	26	26	灰黄色・灰白色・灰白色 褐色地・灰白色プロック少	242-241-239	
SP242		43-65-7	27	15			213-242-211	
SP243		43-65-7	19	7	7	褐色	243-242	
SP244		43-65-7	28	12	12	褐色・灰白色		
SP245		43-65-7	28	51	51	灰黄色		
SP246		43-65-7	37	26				
SP247		43-65-7	20	35	35		219-216-218	
SP248		43-65-7	55	51	34	に近い黄褐色	218-217	
SP249		43-65-7	33	19		褐色	218-217 回復(10, 付近)	
SP250		43-65-7	96	56	56	褐色・灰白色	239-246	
SP251		43-65-7	36	36		褐色・灰白色 褐色地・灰白色プロック少	239-253	
SP252		43-65-7	48	36	41		250-251	
SP253		43-65-7	48	22				
SP254	S.4.1	43-65-7	30	30	30	灰黄色	257-254	
SP255		43-65-7	22	7			257-255	
SP257		43-65-7	21	7			254-257-255	
SP258		43-65-7	29	35	35	褐色	269-258	
SP259		43-65-7	31	8	8	に近い黄褐色・灰黄色主に55	269-259-262	
SP260		43-65-7	16	7	30	灰黄色	259-260-259	
SP261		43-65-7	40	55			262-261	
SP262	S.4.1	43-65-7	77	40	55	に近い黄褐色	259-262-261 回復(10, 付近)	回復(10, 付近)
SP263		43-65-7	72	56	41	灰黄色		
SP264		43-65-7	30	45	45	褐色	265-264	差動懸台杯(264)
SP265		43-65-7	40	36			265-264	差動懸台杯(265)
SP266		43-65-7	20	30				
SP267		43-65-7	27	29	29	褐色・灰白色・灰白色 褐色地・灰白色プロック少		
SP268	S.4.1	43-65-7	30	23	23	灰黄色・灰白色 褐色地・灰白色	23-22	不正確
SP269		43-65-7	46	24	10			
SP270		43-65-7	30	27	1	褐色柱状・2: 灰白色		柱状
SP271		43-65-7	46	30	14	灰黄色		回復(10, 付近)
SP272	S.4.1	43-65-7	53	556	53			
SP274		43-65-7	28	25				
SP275		43-65-7	29	18	18	褐色・灰白色		
SP276		43-65-7	52	35	35	褐色・灰白色柱状・灰白色 褐色柱状		

番号	種別・種	位置	高さ	幅	深度	断面	土色	切り合い	備考	出土場所
SP278	柱頭・櫛	43-65-9	153	106	脚灰黄色粘土、黒褐色粘土上				[図版]1. 前半部は濁食区外。	
SP279	柱頭・櫛	43-65-7	107	98	113	灰黄褐色、灰黄色粘土上	280-279		[図版]1	後半部は濁食区外。[図版]1. 前半部は濁食区外。[図版]2-50. 柱頭[7]
SP280	柱頭・櫛	43-65-9	19	20						
SD291	柱頭・櫛	43-65-7	62	23	6					
SP282	柱頭・櫛	43-65-3	20	30	脚灰					
SD283	柱頭・櫛	43-65-4	112	29	7					
SP284	柱頭・櫛	43-65-7	25	12						
SP285	柱頭・櫛	43-65-7	48	62	灰黄色					
SP286	柱頭・櫛	43-65-9	20	37	脚灰					
SP287	柱頭・櫛	43-65-7	28	24	脚灰					
SP288	柱頭・櫛	43-65-7	21	24	脚灰					
SP289	柱頭・櫛	43-65-7	19	21	脚灰					
SP290	柱頭・櫛	43-65-9	19	31	脚灰					
SP291	柱頭・櫛	43-65-7	27	17	脚灰～灰褐色、灰白色から多					
SP292	柱頭・櫛	43-65-7	50	55	51	灰黄褐色				
SP293	柱頭・櫛	43-65-7	21	28	灰黄褐色					
SP294	柱頭・櫛	43-65-7	31	31	灰黄褐色～黒、黒褐色生苔					[図版]4. 柱頭
SP295	柱頭・櫛	43-65-7	73	59	脚灰					
SP296	柱頭・櫛	43-65-7	50	68	29	灰黄褐色				
SP297	柱頭・櫛	43-65-7	50	68	29	灰黄褐色				
SP298	柱頭・櫛	43-65-7	25	33						
SP299	柱頭・櫛	43-65-7	29	40	灰(褐色)やや歩質					
SP300	柱頭・櫛	43-65-7	21	39	脚灰					
SP301	柱頭・櫛	43-65-7	42	24						
SP302	柱頭・櫛	43-65-7	20	21	脚灰、灰褐色					
SP303	柱頭・櫛	43-65-7	20	21	脚灰、灰褐色					
SP304	柱頭・櫛	43-65-7	60	56	67	脚灰				
SP305	柱頭・櫛	43-65-7	25	22	脚灰、脚灰褐色					
SP306	柱頭・櫛	43-65-7	20	18						
SP307	柱頭・櫛	43-65-7	25	28						
SP308	柱頭・櫛	43-65-7	16	12						
SP309	柱頭・櫛	43-65-7	29	23						
SP310	柱頭・櫛	43-65-7	37	51						
SP311	柱頭・櫛	43-65-7	14	12	脚灰					
SP312	柱頭・櫛	43-65-7	16	22	脚灰					
SC213	柱頭・櫛	43-65-7	111	96	115	脚灰、黒褐色粘土上	313-312-311			
SP313	柱頭・櫛	43-65-7	30	21	脚灰、灰褐色少					
SK316	柱頭・櫛	43-65-7	75	67	69	脚灰褐色	310-313-312			
SP317	柱頭・櫛	43-65-7	37	48						
SP318	柱頭・櫛	43-65-7	31	34	脚灰					
SP319	柱頭・櫛	43-65-7	23	10	脚灰					
SP320	柱頭・櫛	43-65-7	30	23	脚灰					
SP321	柱頭・櫛	43-65-7	25	17	1灰黄褐色、2-黄灰					
SP322	柱頭・櫛	43-65-7	35	41						
SP323	柱頭・櫛	43-65-7	33	25	脚灰					
SP324	柱頭・櫛	43-65-7	23	22	脚灰～灰、砂混じり					
SP325	柱頭・櫛	43-65-7	29	31						
SP326	柱頭・櫛	43-65-7	21	33	脚灰、灰褐色少					

番号	遺物種	位置	長径	短径	深度	土質	切り分け	備考	出土場所
SP229	S16	43-65-7	28	16	厘米			削除	
SP231		43-65-7'	18	18	厘米			尖底	
SP232		43-65-7'	22	18	厘米	灰白色泥少・黑褐色土較	335-333	圓底	
SP233	S15	43-64-4	51	42	61	灰黃褐色	335-334	圓底	須磨塗瓦台(7)塚(11)-11-1海戦長日(43)木製点(65-68)
SE234		43-65-7	127	112	厘米	灰-乳黃色・暗褐色土	335-334	圓底	
SP235	43-64-4	64	31	1-相應	2-3厘米	灰褐色	335-334	圓底	
SP236	43-65-7	48	44	37	1-相應	2-3厘米	灰褐色	335-336	
SP238	43-65-7	46	26	26	厘米	灰褐色・灰白色	338-336		
SP239	43-65-7	32	15	15	厘米	灰褐色・灰白色	338-336		
SP243		43-64-2	49	74	厘米	灰褐色・灰白色	344-345		
SP244	S16	43-64-2	76	44	52	厘米	341-343		
SP245		43-64-2	67	35	57	厘米	341-345		
SP246		43-64-2	16	10	57	厘米	341-345		
SP247		43-64-2	32	54	厘米	灰褐色少	348-347		
SP248		43-64-2	29	24	厘米	灰褐色・灰白色多	348-347		
SP249		43-64-2	23	19	厘米	灰褐色・灰白色多	348-347		
SP250		43-64-2	44	32	32	厘米	灰褐色・灰白色	348-347	
SP252		43-64-2	32	21	厘米	灰褐色・灰白色少	348-347		
SP253		43-64-2	16	15	厘米	灰褐色・上部灰褐色少	348-347		
SP255	S16	43-64-2	35	19	厘米	灰褐色・灰白色少	348-347		
SP256		43-64-2	15	8	厘米		357-356		
SP257		43-64-2	17	15	厘米		357-356		
SP258		43-64-2	18	13	厘米	灰褐色・灰白色多	357-356		
SP259		43-64-2	21	10	厘米	灰褐色・灰白色	357-356		
SP260		43-64-2	20	8	厘米		357-356		
SP261		42-65-7	31	21	厘米		357-356		
SP262	S16	42-65-7	31	21	厘米	灰褐色・灰白色少	357-356		
SP263		42-64-7	30	10	厘米		357-356		
SP264		42-64-7	30	6	厘米	灰褐色	357-356		
SK265		42-64-7	197	177	82	米褐色・灰褐色	368-365-367	圓底	須磨塗瓦台(10)・土塁塗瓦(10)
SK267		42-64-7	116	45	45	灰褐色	368-365-367	圓底	土塁塗瓦(10)・須磨塗瓦(10)
SP268	S15	42-64-7	42	71	55	米黃褐色	369-368	圓底	須磨塗瓦(10)
SP269		42-64-7	29	71	55	米黃褐色	369-368	圓底	須磨塗瓦(10)
SP270		42-64-7	43	36	48	米黃褐色	369-368	圓底	須磨塗瓦(10)
SP271	S17	43-64-2	28	67	67	米黃褐色	375-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP272	S15/S16	43-64-2	106	65	67	米黃褐色	375-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP274		42-64-2	67	47	25	米黃褐色	375-376-377	圓底	須磨塗瓦(10)
SP275	S17	42-64-2	46	46	30	米黃褐色	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP276		42-64-2	168	162	107	米黃褐色・灰褐色少	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP277		42-64-2	78	34	29	米黃褐色	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP278		42-64-2	33	29	29	米黃褐色	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP279		42-64-2	26	16	16	米黃褐色	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP280		42-64-2	23	16	16	米黃褐色	377-376	圓底	須磨塗瓦(10)
SP281	S15	42-64-2	46	40	67	米黃褐色	381-382	圓底	須磨塗瓦(10)
SP282	S15	42-64-2	40	54	54	米黃褐色	381-382	圓底	須磨塗瓦(10)

番号	遺物種	位置	長径	短径	厚さ	出土場所	
						印字	墨字
SP783	S108	42・64・3	57	59	灰黄褐色	383・2380	回旋3
SP784		(2)・64・3	17	16	褐・灰褐色少		
SP786	S107	42・64・4	74	42	43	388・387	
SP787		43・64・4	49	32	36	386・387	
SP788		43・64・5	43	48		387(?)	
SP789		43・64・2	60	35	灰黄褐色		
SP791		43・64・2	24	13		回旋3	
SP792	S108	43・64・7	34	49			
SP793		42・64・3	22	18	褐・灰褐色少		
SP794		42・64・3	48	28	1:褐・灰褐色 2:灰褐色・黃褐色		手塚塗無竹皿(24)
SP795		42・64・3	56	53	灰褐色・淡灰色多		
SP796		42・64・3	23	21	褐褐色・灰褐色多	385・396	
SP797		42・64・3	33	64			
SP798		42・64・3	25	30		回旋6	
SP799		43・64・3	65	50	褐褐色	400・399	
SP800		43・64・3	49	34	灰褐色	400・399	
SP804		43・64・3	25	28	灰黄褐色	406・405	回旋3
SP805	S108	43・64・3	47	36	灰黄褐色	406・405	
SE806		43・64・3	22	21	115 灰褐色	406・405	回旋3
SP807		43・64・3	40	45	灰黄褐色	406・407	回旋3
SP809		43・64・3	25	31			
SP910		42・64・3	55	60	灰褐色	412・410・411	回旋6,柱(?)少
SP911		42・64・3	27	13		411・410	
SP912		42・64・3	44	39		412・410	
SP913		42・64・3	35	41	灰褐色・黑褐色多		方形器物の方
SP914	S108	42・64・3	24	34	灰褐色		回旋3
SP915	S107	42・64・3	45	45	1:灰褐色 2:褐色,3:灰褐色		
SP916		42・64・3	24	32	灰褐色・褐色(?)		
SP917		42・64・3	20	16	褐・褐色(?)		
SP918	S108	42・64・3	28	30	1:灰褐色・黑色多 2:褐色灰		
SP919		42・64・3	40	30	41 1:灰褐色 2:灰褐色質 3:柱頭		柱頭少
SP920		42・64・3	20	7	褐		
SP921		42・64・3	28	13	褐・浅褐色(?)		
SP922		42・64・3	57	60	1:灰褐色 2:灰褐色	423・724	
SP923		42・64・3	22	13			
SP924		42・64・3	23	38			
SP925		42・64・3	17	18			
SP926		42・64・3	25	43			
SP927		42・64・3	19	12			
SP928		42・64・3	28	38	1:灰褐色 2:二色灰,褐色		
SP929		42・64・3	23	9			
SP930		42・64・3	22	18			
SP931		42・64・3	23	38			
SP932		42・64・3	27	21	16		
SP933		42・64・3	27	20	11		
SP934		42・64・3	15	20			
SP935		42・64・3	16	24			

番号	遺物・標	位置	長径	短径	深度	土質	切り目等	備考	出土遺物
SP426		12-64-7	39		36	灰褐色・泥炭化			436-1437
SP427		12-64-7	37		31	暗褐色・泥炭化			436-1437-138
SP428		12-64-7	36		8	灰褐色・泥炭化			437-138
SP429		12-64-7	38		32	灰褐色・泥炭化			
SP440		12-64-7	30		8	褐色・泥炭化			
SP441		12-64-7	19		15	褐色・泥炭化			
SP442		12-64-7	29		32	褐灰色			432-1433
SP443		12-64-7	24		15	褐色・泥炭化			432-1433
SP444		12-64-7	22		20	褐色・泥炭化			
SP445		12-64-7	15		14	褐色・泥炭化			
SP446		12-64-7	33		16	褐色・泥炭化			
SP447	SS8	12-64-7	43		42	褐色			436-1447
SP448		12-64-7	27		15	1:灰褐色・2:褐色			
SP449		12-64-7	31		40	灰褐色・泥炭化			
SP450		12-64-7	32		25	23	1:褐色・2:灰褐色		
SP452		12-64-7	37		13	灰褐色質土			
SP453		12-64-7	35						
SP455	SS8	12-64-7	39		34	褐色・泥炭化			436-1455
SP456		12-64-7	23		35	灰褐色・泥炭化			435-1456-1457
SP457		12-64-7	27						
SP460		12-64-7	30		35	灰褐色・泥炭化			
SP461		12-64-7	16		6	褐色			
SP462		12-64-7	19		30	褐色・泥炭化			
SP463		12-64-7	38						
SP464	SS7	12-64-7	24						436-1463
SP465		12-64-7	48		58	褐色・泥炭化			436-1465
SP466		12-64-7	44		40	灰褐色・泥炭化			436-1465
SE467		12-64-7	97		87	1:褐色・2:黄褐色・黄褐色粘土			437-1468
SP468		12-64-7	39		12				437-1468
SP469		12-64-7	24		20	褐色			437-1469
SP470		12-64-7	30		14	褐色・泥炭化			437-1470
SP471		12-64-7	53		37	1:灰褐色・2:灰褐色・3:灰褐色			
SP472		12-64-7	18		6	褐色・泥炭化			
SP473		12-64-7	28		30	褐色・泥炭化			
SP474		12-64-7	22		15	褐色・泥炭化			
SP475		12-64-7	22		9	褐色・泥炭化			
SP476		12-64-7	24		40	1:灰褐色・2:褐色・泥炭化			
SP477		12-64-7	30		53	褐色・泥炭化			
SP478	SS6	12-64-7	25		21	1:灰褐色・2:褐色・3:灰白色			
SP479	SS5	12-64-7	50		46	77			
SP480		12-64-7	15						
SP481		12-64-7	35		29	1:褐色・2:褐色多・3:灰褐色			438-1481
SP482		12-64-7	50		21				
SP483	SS7	12-64-7	40		50				438-1482
SP484	SS8	12-65-4	24		6	灰褐色			436-1482
SP485		12-65-4	28		29	褐色・泥炭化			

番号	位置	長径	短径	深度	土質	調査	出土物
SP986	43-65-4	30	22			657→658	
SP987	43-65-5	17	17	12	灰褐色～褐色	657→658	
SP988	S35	43-65-5	37	32		659→658	
SP989	43-65-5	23	21			659→658	
SP990	43-65-5	28	35		褐色～灰褐色多	659→652	
SP991	43-65-5	105	67	25		659→652	
SP992	43-65-7					659→652	
SP993	43-65-7					659→652	
SP995	43-65-7	18	14		褐色～灰白色		
SP996	43-65-7	20	11		灰褐色～明褐色		
SP997	43-65-7	29	23		褐色～灰褐色～黃褐色	657→658	鉄製品
SP998	43-65-7	32	19		褐色～灰褐色～灰褐色	657→658	
SP999	43-65-7	17	16		褐色～灰褐色		
SP900	43-64-1	26	4		灰褐色	658→650	
SK904	43-64-1	169	7			660→621	
SP905	S15	43-64-1'	40	35	褐色～灰褐色多		
SK906	43-64-1'	18	29		褐色～灰褐色多		
SP907	43-64-1	16	4		褐色～灰白色		
SP908	43-64-1'	26	17		灰褐色～灰褐色～灰白色		
SP909	S16	43-64-1'	27	15	褐色～灰褐色多		
SP910	43-64-1'	30	19		褐色		
SP911	43-64-1	33	33		褐色～灰褐色多		
SP912	43-64-1	58	41		褐色	512→513	
SP913	43-64-1					512→513	
SP914	43-64-1	22	14		褐色～灰褐色		
SP915	43-64-1	48	31		褐色～灰褐色多		
SP916	43-64-1	20	14		褐色～灰褐色多		
SP917	43-64-1	26	13		褐色～灰褐色		
SP918	43-64-1	22	20		褐色～灰褐色		
SP919	43-64-1	19	17		所褐色～黃褐色多	620→619	
SP920	43-64-1	46	55		1.灰褐色～褐色；2.褐色粘質	620→619	
SP921	43-64-1	28	15		褐色～灰褐色	621→621	
SP922	S16	43-64-1	24	26	褐色～灰褐色多	522→521	
SK923	43-64-1	102	91	21	に51-褐色	521→523	鐵製品
SP924	S35	43-64-1	77	73	淡褐色～土褐色	521→523	鐵製品
SP925	43-64-1	36	16		褐色～灰褐色多		
SP927	S15	43-64-1	23	35	褐色～灰褐色		
SP928	43-64-1	52	46		に51-褐色		
SP929	S17	43-64-1	31	35	黃褐色～灰褐色多；褐色少		
SP930	43-64-1	41	41		黃褐色～黃褐色	521→520	鐵製品
SP931	43-64-1	18	7		褐色～黃褐色～灰褐色多	521→520	
SP932	43-64-1	34	17		褐色～灰褐色	521→520	
SP933	43-64-1	31	37		褐色～灰褐色	532→531	
SP934	43-64-1	26	7		所褐色～灰褐色		
SK935	43-64-1	147	107	139	黃褐色粘質土	532→531→535	鐵製品
SP936	43-64-1	180	40	8	褐色～米褐色；鐵製品	708→703→734	
SP937	43-64-1	32	14				

番号	遺物種	位置	長径	短径	深さ	覆土	切合	備考	出土遺物
SP538		13-64-7	16	13	炭地				
SP539		13-64-7	42	35	1:炭地・灰少・2:灰地・灰土		539-250-541		
SP540		13-64-7	34	15	1:灰地・灰少		539-140-541		
SP541		13-64-7	18	15	1:灰地・灰少		539-150-541		
SP542		13-64-7	24	18	炭地				
SP543		13-64-8	17	13	炭地・灰少・多				
SP544		13-64-7	20	24	炭地		544-255		
SP545		13-64-7	20	7	精地・灰白・ヨコシワ		544-348		
SP546		13-64-8	18	19	炭地・灰少				
SP547		13-64-7	16	25	炭地				
SP548		13-64-7	23	22	炭地・黒灰				
SP549		SP547	13-64-7	25	14	炭地・黒灰			
SP550		13-64-7	24	15	炭地				
SP551		13-64-7	75	33	13				
SP552		13-64-7	19	12	黒				瓦底(炭地小ヒラカ)
SP553		13-64-7	17	12	炭地・黒灰・灰白				丸底
SP554		13-64-7	27	37	炭地・黄・アロツキ等				
SP555		13-64-7	17	24	炭地・黒灰		555-556		
SP556		13-64-7	14	3	黒		555-556		
SP557		13-64-7	16	22	炭地		557-558		
SP558		13-64-7	20	23	炭地				
SP559		13-64-7	20	7	炭地				
SP600		13-64-7	26	13	黒				
SP601	SP57	13-64-7	24	13	黒・黒灰少				
SP602		13-64-7	10	5	炭地				
SP603		13-64-7	35	25	1:炭・黒・2:灰地・3:黄灰・4:黄褐				柱頭
SP604		13-64-7	41	22	炭地・黒灰少・灰				
SP605		13-64-7	30	33	黒				
SP606		13-64-7	16	13	黒				
SP607		13-64-7	12	5	黒				
SP608		13-64-7	16	4	黒				
SP609		13-64-7	17	9					
SP610		13-64-7	16	7					
SP611		13-64-7	16	29					
SP612		13-64-7	35	30	1:灰地・明灰・ヨコシワ				鉢裏(山形)
SP613		13-64-7	26	16					
H619		—							
SP620		13-64-8	18	11	炭地・黒・黄・灰				
SP621	SA1	13-65-4	40	23	炭灰褐色		501-421		筒内
SP622		9-9-9	23	10	炭地				
SP623		9-9-2	27	16	黒・粗面				
SP624		9-9-9	20	29	炭地・灰地				
SP625		13-64-7	37	14	炭地・灰地・ヨコシワ		656-106		
SP626		13-64-7	18	17	炭地		653-4527-629		
SP627		13-64-7	38	17	炭地		628-4527		
SP628		13-64-7	42	17	炭地				

番号	遺物・標	位置	長径	短径	厚さ	形状	参考文献		出土場所
							地質	層位	
SP629		13-64-ケ	26	22		灰質陶～陶地			
SP631		13-64-ケ	24	24		灰質陶～陶地泥引			
SP632		13-64-ケ	40	69					
SP633		13-64-ケ	28	29		灰陶・灰			
SP634	S15	12-65-ニ	58	75					
SP635		12-65-ナ	42	35					
SP640		13-64-コ	92	68	24				
SP641		13-65-カ				灰質陶色			
SP642		13-64-サ	30	17		陶地・陶灰			
SP643		13-64-ト	32	30		陶灰・黃色ブロック			
SP644		13-65-ク	78	60	78	陶灰黄色粘土質土			
SP645		13-65-ク	110	80	47				
SP646	S13	13-65-シ	21	8		陶器			
SP648	S15	13-65-ナ	28	43		灰質陶・灰白色質地			
SP649		13-64-ニ	38	25					
SP650		13-64-ニ	73	26					
SP651		13-64-ト	21	15					
SP652		13-64-サ	27	40					
SP653		13-64-コ	22	30		1-灰質陶・2-陶灰			
SP654		13-65-カ	20	9		灰質陶			
SP655		13-65-カ	26	26					
SP656		13-65-ク	47	16		灰質陶～陶灰・黄褐色			
SP657		13-65-ナ	18	28		陶灰			
SP658		13-64-コ	25	5		赤褐色砂			
SP659		13-66-チ	25	23					
SP660		13-66-ト	20	22					
SP661		13-66-ナ	27	42					
SP662		13-65-ク	37	27					
SP663		13-65-チ	21	5					
SP664		13-65-ナ	33	54					
SP665		13-65-ナ	22	24					
SP666		13-65-ト	30	5					
SP667		13-65-ト							
SP668		13-65-ナ	25	35					
SP669		13-65-ナ	27	45					
SP671		13-65-ナ	29						
SP672		13-65-ナ	16	20		陶灰やや沙質			
SP673		13-65-ナ	39	20					
SP674		13-65-ナ	20	9		陶灰			
SP676		13-65-ナ	20	11					
SP678		13-65-ナ	25	1					
SP679		13-65-ナ	72	32	18				
SP680		13-65-ナ	28	45					
SP681		13-65-ナ	24	19					
SP682		13-65-ナ	23	43					
SP683		13-65-ナ	28	27					

番号	遺物名	位置	長径	短径	厚度	質地	包含物	参考	出土場所
SH654		43-65-7	29	10					
SH665		43-61-1	31	7					685-500
SH666		43-61-1	27	9					
SH687		42-61-9							
SH688		42-61-7	31	14					
SH699		43-61-8	17						
SH690		43-61-4	16	7					
SH691		43-61-9	25	33					
SH692		43-61-7	21	24					
SH693		43-61-9	37	53					683-500
SH694		43-61-7	26	26					
SH695		43-61-7	39	19					
SH696		43-61-7							
SH697		43-61-7	16	11					
SH698	SER	43-61-9	35	46					
SH699		43-61-2	25	24					
SH700		43-61-2	39	38					
SH701		43-61-2	48	40	64				
SH702		42-61-8	29	22					
SH703		42-61-3	18	21					
SH704		42-61-7							
SH706		43-61-3	19	8					
SH707		43-61-2	27	16					
SH708		43-61-2	45	60					
SH709		43-61-7	21						
SH710		42-61-7	23	10					
SH711		43-61-4	23	21					
SH712		42-61-2	39	21					
SH713		42-61-2	23	14					
SH714	SER	42-61-2	21	10					
SH715		42-61-2	20	25					
SH716		42-64-7	25	9					
SH717		42-64-7	39	25					
SH718		42-61-2	25	26					
SH719		43-61-7	38	15					719-469
SH720		42-61-7	21	12					
SH721		42-61-7	21	15					
SH722		42-68-7	26	14					
SH723		43-68-2	26	9					
SH725		43-68-7	31	43					723-23
SH726		43-69-7	82	57					
SH727		43-69-7	43	32	37				727-78
SH728		43-69-7	22	29					197-728-78
SH729		43-68-2	26	17					729-13
SH730		44-69-2	16	29					SD158 F面のE7。
	41-69-4	23	26						

番号	遺物・器	位置	英訳	通訳	測定	出土場所
SFT32		41-68-才	33	12		2019年
SFT33		41-68-才	33	12		732-193
SFT34		41-68-才	33	12		
SFT35		41-68-才	33	12		
SFT36		41-68-才	33	12		
SFT37		41-68-才	33	12		
SFT38		43-65-才	12	5		
SFT39		43-65-才	12	5		
SFT40		43-65-才	23	5	740~748	
SFT41		43-65-才	20	24		
SFT42		42-64-才	39	45	742~743	

別表2 無部古層敷遺跡 細立柱建物・第一義表

地	主軸	垂軸	鉛軸	柱穴	柱間寸法	備考
SII	81°	8.9m	4.1m	104+*+84+195+*+19-17+20+*56+64.9m	1.38~2.18m	
SIII	75°	6.69m	58.54.48.44.19.15.*21.207.40		1.72~1.96m	
SIV	70°		29.30.39.21.2		1.63~1.83m	
SV	85°		57.26.37.21.3		1.65~2.16m	
SVI	81°	7.23m	4.6.4m	521-595-488-448-295-285-317-333-373-*382-399-*+631	2.04~2.78m	
SVII	5.54m	3.99m	522-599-481-255-391+329-355-373-*			
SVIII	86°	5.64m	3.7m	691-519-629-483-386-51-375-415-711-461	1.67~2.10m	
SIX	92°	6.94m	3.48m	615-595-606-541-*386-582-411-*455-405-*268-418-417	1.74~2.07m	
SX	90°	6.96m	3.81m	291-210-256-245-238-*+309-*	1.59~1.86m	
SX1	82°	11.47m		126-130-134-126-137-138-155-151	1.13~2.57m	
SX2	-22°	3.58m		98-129-129	1.79~1.86m	
SX3	89°	6.16m		615-268-255-241	1.94~2.14m	
SX4	91°	9.7m		621-297-295-272-262-348	1.64~2.03m	
SX5	7°	5.79m		381-457	3.59m	

備考欄は資料から東～西の角度

別表3 黒部古墳敷遺跡 土器・陶磁器・漆器調査表 ※[括弧内数字は小破片から推定した数値]

No.	出土位置	層位	種類	直径	口径	底径	高さ	施土	色調	焼成度	その他
1	SK165 下位		土器	1.95cm	素	[22]	石英		浅黄褐	やや軟質	口縁細小片、油滴状欠損。外周に薄い墨。有段口沿。肥前燒造焼。
2	SE265 中央床直上		土器	1.95cm	素	[19]	砂利少石		灰	全然軟質	口縁細小片、油滴状欠損。
3	SK165 上層		土器	1.95cm	素	[18]	小砂利や多少の砂利細かい。	擦	灰	軟質	口縁細小片、油滴状欠損。
4	SK12 上層		土器	1.95cm	有台杯	6.4	密-長い砂利多く。	灰	深元燒質	底部細小片。底部は底部砂利や砂利細かい。	小泊燒造焼。
5	SK817 上面		土器	1.95cm	有台杯	[8.2]	精良、軽い砂利の入る、良石。	灰	浅元燒質	底部細小片。高付口底部外輪付近にはぼら底。	外海燒造、油滴状や氣味。
6	SP264		無台杯	1.12cm	長石		灰		浅元燒質	口縫細小片、ガラス質跡留め跡。	
7	SE234 水槽		須恵器	無台杯	8.0	密-長石	灰		浅元燒質	口縫細小片。小泊燒造焼。	
8	SP151		須恵器	無台杯	7.8	石英	灰		浅元燒質	口縫細小片。底部斜面。破断前底形。	底部斜面。
9	SE265		須恵器	無台杯	8.0	今や細い粘土上、白色石少々	白		浅元燒質	底部から全体下部細小片。底部斜面。	底部斜面。
10	SE265 底直上		須恵器	無台杯	7.0	小石やや多々、気泡立立。	灰白		浅元燒質	底部細小片。底面・器底面。	底部斜面。
11	SE234 第3-4層		須恵器	素	密-長石		灰		浅元燒質	底部細小片。外曲線側子口向き。内曲線側子口向き。	内曲線側子口向き。
12	SE973		須恵器	素	白色繊維-長石		灰		浅元燒質	口縫細小片。外曲線側子口向き。	内曲線側子口向き。
13	SD193		須恵器	素	密-長石		灰		浅元燒質	口縫細小片。外曲線側子口向き。	内曲線側子口向き。
14	SE234 下層		須恵器	素	密-長石		灰		浅元燒質	口縫細小片。外曲線側子口向き。	内曲線側子口向き。
15	SD193		土器	1.95cm	有台皿	[11]	今や細い、小石・珪質。	擦	普通	普通	口縫細小片。小泊燒造焼。
16	SD193		土器	1.95cm	有台皿	7.6	細い沙質、赤茶色多く、當日 素	擦	浅元燒質	底部から高台の部分。底部斜面。	底部から脚部の部分。底部斜面。
17	SD193		土器	1.95cm	有台皿	6.0	繩-富士石英	擦	普通	普通	口縫細小片。外曲線側子口向き。
18	SD193		土器	1.95cm	有台皿		實心、光面。	擦	浅元燒質	底部細小片。高付口底。	底部細小片。高付口底。
19	SD193		土器	1.95cm	有台皿	4.0	今や細い、赤茶色多く。	擦	普通	普通	口縫細小片。高付口底。
20	SD193		土器	1.95cm	有台皿	4.8	今や細い、光面。	擦	浅元燒質	底部細小片。高付口底。	底部細小片。高付口底。
21	SD193		土器	1.95cm	有台皿	4.4	繩-富士石英	擦	浅元燒質	底部細小片。高付口底。	底部細小片。高付口底。
22	SD193		土器	1.95cm	有台皿	5.6	繩子形の、豊作-サマート	擦	浅元燒質	底部細小片。高付口底。	底部細小片。高付口底。
23	SD193		土器	1.95cm	有台皿	[6]	精良、砂利立立。	擦	浅元燒質	底部細小片。外曲線側子口。	底部細小片。外曲線側子口。
24	SP294		土器	1.95cm	無台皿		實心、光面。	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
25	44-46-1	地山直上	土器	1.95cm	無台皿	8.6	2.4 實心多い-砂利や砂利	外-にぶい砂利	内-にぶい砂利	やや丸み	口縫細小片。高付口底。
26	SD193		土器	1.95cm	無	[10]	繩-富士石英	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
27	SD193		土器	1.95cm	片口杯	8.2	2.0 小石、小砂利	擦	普通	普通	口縫細小片。高付口底。
28	SD193		土器	1.95cm	片口杯	8.4	2.4 小石、小砂利	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
29	SD193		土器	1.95cm	片口杯	4.0	實心、繩-富士石英	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
30	SD193		土器	1.95cm	片口杯	4.8	繩子形の、豊作-サマート	擦	浅元燒質	底部細小片。高付口底。	底部細小片。高付口底。
31	SP294		土器	1.95cm	片口杯	[25]	繩子形の、豊作-サマート	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
32	SE145 第4号		土器	1.95cm	片口杯	21.7	10.8 8.2	細-小石や砂利多く、長石-海外-青灰-内灰	外-青灰-内灰	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。
33	SE270		土器	1.95cm	片口杯	[11]	密-密多く含む。海綿骨	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
34	SE145 第1号		土器	1.95cm	片口杯	2.5	粗-気泡多々	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
35	SP294		土器	1.95cm	片口杯	4.0	密-密多く、小球多	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。
36	SP47		土器	1.95cm	片口杯		繩子形の、豊作-サマート	擦	浅元燒質	口縫細小片。高付口底。	底部斜面。

地出土地名	番号	種類	口徑	乗合	総面積	色調
37 SE511 引用	深洞	金・黄	長石吹き出し多々、	炭	2cm×14日間引出、1万袋、	透光硬度 体験断片、3cm×10日間引出、
38 SE279 上層	深洞	黄	[12]	長石・錫鉱	青灰	透光硬度 内面・外表面にナガツ。
39 SE87 起前	岩体	[34]	[13]	小石や砂多々、	に点状・塊状	透光硬度 3cm×10日間引出、断面見込みに良さず。口掛面内面
40 SE365 中層	土壠	黑	14.0	8.4	精良・長石	浅黄褐 良好
41 SE867 第2層	断面瓦礫	灰黑	[9]	一々や粗い、	に点状・塊状	透光硬度 良好
42 SE467 第6層	断面瓦礫	灰黑	9.9	5.3	2.5 細密、白色磨合等、	透光硬度 良好
43 SE334 上面	断面瓦礫	灰白	[12]	粗良・密	灰白地黒斑、塊	透光硬度 良好
44 SE327 壁面	断面瓦礫	灰白	11.0	6.0	2.5 粗良	透光硬度 黒い、外～限界、
45 SW61 壁面・54号	断面瓦礫	灰白	11.0	6.0	2.5 粗良	透光硬度 小片、上様断面に五花文。
46 SW252 壁面	断面瓦礫	灰	3.2	粗良	白	透光硬度 断片、内面断面に乳白色。
47 SW465 壁面	断面瓦礫	灰	粗良	白	透光硬度	見込みの目触感。内面断面に乳白色。
48 田別山川 44-66-7	淡化泥	黑	12.8	4.8	4.4 粗良	に点状・塊状
49 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	黑	4.8	粗良	に点状・塊状	見込みの目触感。外面部断面下半以下高強。肥前IV層。
50 SW282 斜り方	肥沃地帶	黑	[10]	粗良	口掛面波状、内面から口掛面外表面まで斜地。外全体底無色地。18.前半、肥前IV層。	
51 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	黑	4.8	粗良	白	肥付斜地、肥前IV層。
52 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	黑	5.4	粗良	1-品種判別、内底	底合以上高強。肥前IV層。
53 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	端	10.0	粗良	に点状・塊状	口掛地帶、肥前、如日、肥前II層
54 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	端	[21]	粗良	少地	口掛地帶、肥前Ⅲ層。
55 田別山川 44-66-7	肥沃地帶	端	[22]	粗良	に点状・塊状	口掛地帶、肥前Ⅲ層。
56 SE279	堆肥	黑	7.9	5.5	2.0 楊木段Ⅱ	外表面乳白色、内面に赤色斑点で文様有く。
57 SE279 堆肥	黑	9.4	6.3	2.9 楊木段Ⅱ	内面赤色斑点、外表面に赤色斑点で文様有く。	
58 SE279	堆肥	黑	8.3	楊木段Ⅱ	底合のみ残存、高含水打開から全く欠損する。	

別表4 黑部古墳群遺跡 木製品調査表

No.	出土位置	層位	器種	長径	短径	厚さ	重量	記載	その他
59	SE279	調査	漆器	16.5	[10.3]	0.9	既目	17.5厘米、側面刀形漆器。小口ツマミ付の漆器。外縁に刀形漆器。	
60	SE467	黑色漆器層	漆器	21.5	[5.6]	1.1	既目	円形容器。底、大口分欠損。身身に径2mmの穴5ヶ所。1.6cm間隔で2ヶ所あり。	
61	SE467	黑色漆器層	漆器	18.5	17.9	0.7	既目	多孔状漆器。底、大口分欠損。身身に径3mmの穴2ヶ所。側面15mm。長さセミ身。一孔2.5mm。	
62	SE467	漆器	漆器	17.9	2.7	0.7	既目	一枚半形、漆器。外縁に漆器孔5ヶ所。身身に漆器孔15mm。身身に漆器孔15mmの丸あり。	
63	SE467	漆器	漆器	6.4	6.4	0.7	既目	一枚半形、漆器。外縁に漆器孔5ヶ所。身身に漆器孔15mm。	
64	SE467	板状漆器	漆器	[5.8]	3.8	0.7	既目	側面底面。上大口、底面底面。既目。	
65	SE234	木盤	漆器(1.5cm)	[7.9]	2.4	0.7	既目	側面底面。上大口、底面底面。既目。	
66	SE234	板状漆器	漆器	[0.8]	4.4	1.1	既目	上大口、底面底面。既目。	
67	SE467	板状漆器	漆器	[6.1]	[5.0]	0.5	既目	側面底面。上大口、底面底面。既目。	
68	SE234	木盤	勺子	[14.7]	4.6	2.8	既目	上大口、底面底面。既目。	
69	SE467	漆器	勺子	[12.6]	8.7	3.2	既目	下大口、底面底面。既目。	
70	SE467	漆器	漆器	[30.6]	6.4	3.4	既目	上大口、底面底面。既目。	
71	SE234	漆器(1.5cm)	漆器	[31.7]	7.5	3.2	既目	側面底面。既目。	
72	SE281	柱頭	柱頭	[8.2]	27.1	1.1	既目	下端削り切れる。既目。	
73	SE267	柱頭	柱頭	[8.3]	[8.1]	[19.8]	既目	柱頭。木部分は削り切れた。既目。	

別表5 黒部古墳群遺跡 金属製品・石製品・製鉄関連遺物調査表

No.	出土位置	層位	器種	直径	高さ	厚さ	重量	記載	その他
74	SE279	調査	鍔形鉢	17.3	4.1	2.9	既目	大口幅分食に2ヶ所。前腹、あきあがり。万能やや筒型。	
75	SE234	陶質付近	執事器	不明	柄状	6.7	2.1	1.3	268 既目
76	SE613	陶質付近	新器品	不明	柄状	5.4	3.6	1.7	既目
77	SE233	上面	錢貨	元豊通寶	2.34	1.86	0.12	3.6g(5枚)28.1g 既目	萬葉天皇通寶(1078年)。
78	SE267	中國	石質品	砾石	[8.3]	4.1	2.9	255g 既目	既目。既目。既目。既目。既目。
79	SE236	中國	石製品	砾石	8.2	4.0	3.2	既目	既目。既目。既目。既目。既目。
80	SE467	石製品	砾石	砾石	30.9	10.6	既目	既目。既目。既目。既目。既目。	
81	SE467	石製品	砾石	砾石	25.4	15.1	既目	既目。既目。既目。既目。既目。	
82	SE467	石製品	砾石	砾石	26.2	2.1	1.7	既目	既目。既目。既目。既目。既目。
83	S2265	鉢	鉢	給合鉢	2.8	2.1	1.7	既目	既目。
84	S2193	27	鉢	給合鉢	2.0	1.5	既目	既目。	
85	S2193	28	鉢	給合鉢	2.8	1.8	1.5	既目	既目。
86	SE467	新2周	鉢	給合鉢	4.4	3.4	1.9	3.6g 既目	タルタル型。既目ややか。表面の大部分は焼成左上欠損。
87	S2193	43-64-7	鉢	給合鉢	5.9	4.5	2.3	既目	
88	S2193	20	鉢	給合鉢	5.1	4.0	2.6	既目	
89	SE288	鉢	給合鉢	4.8	3.8	2.8	76g 既目	タルタル型。既目ややか。表面に焼成・変色有り。	
90	S2193	2	鉢	給合鉢	8.3	4.9	3.9	既目	既目。
91	SE288	鉢	給合鉢	5.5	3.0	1.6	3.6g 既目	既目ややか。表面に焼成・変色有り。	
92	S2193	7	鉢	給合鉢	7.8	6.4	3.6	既目	既目。
93	S2493	4	鉢	給合鉢	9.7	7.2	2.4	既目	既目。

別表6 遺構図版土層注記

図版7

S P255

- 1 灰黄褐色土にぶい黄色土ブロック含む。炭化物粒や多い。酸化鉄混じる。
2 灰黄褐色土にぶい黄色土粒少量混じる。
3 にぶい黄褐色土。炭化物極少量混じる。

S P333

- 1 灰黄褐色土。にぶい黄色土ブロックや多い。炭化物混じる。
2 にぶい黄褐色土粘質土。炭化物多く含む。

S K523・S P524

S K523

- 1 にぶい黄褐色土。浅黄色土にぶい黄褐色土が混じる。炭化物極少量混じる。

- 2 灰黄褐色土にぶい黄色土まだらに混じる。炭化物少量混じる。

S P524

- 3 浅黄色土ブロック主体。にぶい黄褐色土が間隔に入る。
4 3層と同様。にぶい黄褐色土が多い。

- 5 灰黄褐色土。下位は粘質強い。

図版8

S P529

- 1 灰黄褐色土。しまり弱い。赤褐色擬蘿少量含む。灰黄色土少量混じる。
2 にぶい黄褐色土。やや粘質。炭化物極少量含む。

S P415

- 1 にぶい黄褐色土。褐灰色土粒少量・炭化物少量混じる。下位にぶい黄褐色土まだらに混じる。

- 2 褐灰色土にぶい黄色土ブロック多く混じる。
3 暗褐色土にぶい黄色土粒・炭化物粒混じる。

S P463

- 1 灰黄褐色土。明黄褐色土ブロック多く混じる。1cm前後の炭化物多く混じる。
2 黒褐色土。2cm前後の炭多く、粉状の炭も多く黒く混じる。
3 暗灰黄色粘土。しまり弱い。
4 にぶい黄褐色土。地山土粒少量混じる。
5 灰黄褐色土。
6 にぶい黄色粘土。しまりやや強い。
7 にぶい黄褐色土。明黄褐色土粒少量混じる。

図版9

S P405

- 1 灰黄褐色土。明黄褐色土ブロック多く混じる。
2 にぶい黄褐色土。
3 にぶい黄褐色土やや粘質土。
4 褐色土。

S P383・S P380・S P378

S P380

- 1 灰黄褐色土。浅黄色シルトブロックまだらに半分近く混じる。明黄褐色土少量混じる。

S P378

- 2 灰黄褐色土。浅黄色土まだらに大半を占める。黒褐色土粒少量混じる。
3 にぶい黄褐色粘質土。浅黄色土粒少量混じる。
4 灰黄褐色土。浅黄色土粒混じる。
5 にぶい黄褐色粘質土。浅黄色土粒少量混じる。
6 にぶい黄褐色土。浅黄色土小ブロックやや多い。
7 灰黄褐色土。にぶい黄色土粘質土ブロック半分がある。
8 灰黄褐色粘土。しまりやや弱い。

図版10

S P621

- 1 灰黄褐色土。
2 褐灰色土にぶい黄色土ブロック。
3 褐灰色土にぶい黄色土薄い層状に混じる。

S P297

- 1 にぶい黄褐色土。
2 褐灰色土。灰黄色土まだらに混じる。
3 褐灰色土。灰黄色土まだらに多く混じる。

S P292

- 1 灰黄褐色土。灰黄色土粒多く混じる。
2 褐灰色土にぶい黄色土ブロック混じる。

S P272

- 1 灰黄褐色土。下位は粘土で、しまり弱い。灰白色土小ブロック極少量混じる。
2 褐灰色土から灰黃褐色土に遷移。にぶい黄色土ブロック多く混じる。
3 にぶい黄色土粘質土ブロック層。

S P262

- 1 にぶい黄褐色土 やや粘質。しまりやや弱い。下位は粘質強い。
2 灰黄褐色土。灰白色土ブロック少量混じる。
3 褐灰色土。やや粘質。灰黄色土小ブロック多く混じる炭化物極少量混じる。しまりやや弱い。

S P248

- 1 にぶい黄褐色土。
2 にぶい黄褐色土。しまりやや弱い。
3 灰黄褐色土。半分以上はまだら状の灰白色土。
4 にぶい黄色土。褐灰色土がまだらに入る。
5 灰黄褐色土。3層の灰白色土に似る
6 にぶい黄褐色土。やや粘質。

S P381・S P382

- S P381
1a にぶい黄褐色土。灰黄褐色土少量混じる。しまり強い。炭化物極少量混じる。
1b 褐灰色粘土。
2 灰黄褐色土。酸化鉄少量混じる。にぶい黄褐色土薄くまだらに混じる。炭化物少量混じる。
3 にぶい黄褐色土ブロック層。間に2層が

入る

- 4a 灰黄色粘土。灰黄褐色土ブロック少量混じる。
4b にぶい黄色粘土。黄灰色粘土粒状に混じる。

S P382

- 5 灰黄褐色土。灰黄色土ブロック多く混じる。炭化物多く混じる。
6 5崩御質。灰黄褐色土多い。
7 黄灰色粘土。しまり強い。

S P527

- 1 にぶい黄褐色土。上面付近に微小な炭化物少量混じる。
2 灰黄褐色粘土。炭化物少量混じる。
3 にぶい黄色シルト。灰黄色シルト少量混じる。黄灰色粘土ブロック少量混じる。
4 灰黄色粘土。にぶい黄褐色土まだらに多く混じる。

図版11

S E279

- 1 にぶい黄褐色土 やや粘質。
2 黄色粘土。暗灰黄色粘土が混じる。微小な炭化物極少量混じる。
3 黄灰色粘土。炭化物ほとんど混じらず。

S E313

- 1 灰黄褐色土。にぶい黄褐色や灰黄色のブロック土混じる。炭化物有り。
2 褐色粘土ブロック層。暗灰黄色土が間にに入る。
3 暗灰黄色粘土。
4 軽かく砕けた炭層。
5 黄褐色粘土。

S E278

- 1 浅黄色粘質シルト大型ブロック層。灰灰褐色土が間隔を埋める。
2 暗灰黄色粘質土。にぶい黄色土少量混じる。
3 暗灰黄色粘質土。にぶい黄色土や多く混じる。
4 暗灰黄色土。灰黄色土ブロック約半分混じる。
5 黑褐色粘質土。しまり強い。
6 灰黄色粘質土ブロック。

S E334

- 1 灰黄褐色土。しまり強い。黑褐色土ブロックわずかに混じる。小炭化物粒混じる。
2 にぶい黄褐色土。にぶい黄色砂質シルトブロックまだらに混じる。
3 暗灰黄色粘質土。炭化物は極少ない。にぶい黄色シルトブロック混じる。
4 暗灰黄色粘土。にぶい黄色シルトブロック弱混じる。
5 暗灰黄色粘土。

S E467

- 1 褐色土。灰黄褐色土粒多く含む。小炭化物小量含む。
2 にぶい黄褐色土。灰黄褐色土粒含む。小炭化物少量含む。
3 2層に似るが、灰黄褐色土がやや多い。

- 4 2層と同様。
5 黄褐色土。しまり強い。灰黄褐色土少量含む。炭化物少ない。

S E534

- 1 黄褐色粘質土。下位にはにがい黄褐色土。
- 2 暗褐色土。炭化物や多い。赤褐色土粒混じる。褐色灰色土少量まだらに混じる。
- 3 にぶい黄褐色土。にがい黄色土ブロック混じる。块・赤褐色土粒少混じる。
- 4 灰黄褐色土。炭化物小量混じる。にがい黄色土粒混じる。
- 5 植物根跡状の炭化物層。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色粘質土。褐色土粒少量混じる。炭化物は極細かいものが少混じる。
- 7 灰黄色粘土。
- 8 7層と同様、やや干し土。

図版 12

S E79

- 1 にぶい黄褐色土。にがい黄橙色シルトブロック少含む。
- 2 にぶい黄褐色土。にがい黄橙色シルトブロックが大半を占める。
- 3 にぶい黄色砂質シルト。暗灰黄色粘土ブロック含む。
- 4 暗灰黄色粘土ブロック。
- 5 灰黄褐色粘質土。
- 6 黑褐色粘質土。灰黄色ブロック混じり。
- 7 灰黄褐色粘質土。灰黄色土ブロック混じり。
- 8 灰黄褐色粘質土。
- 9 暗灰黄色砂質シルト。
- 10 暗灰黄色砂質シルト。
- 11 浅黄色粘土ブロック層。
- 12 暗灰黄色砂質シルト。浅黄色粘土ブロック層混じり。
- 13 暗灰黄色砂質シルト。
- 14 暗灰黄色砂質シルト。浅黄色粘土ブロック層混じり。
- 15 暗灰黄色粘土。浅黄色粘土ブロック混じり。

S P 1・S E2

S P 1

- 1 暗褐色土。しまりやや弱い。
- 2 灰黄褐色粘質土。
- 3 黄褐色砂混じり粘土。

S E2

- 1 灰黄褐色粘質土。にがい黄橙色土ブロック少混じる。
- 2 灰黄褐色粘質土。にがい黄橙色土ブロックが大半を占める。
- 3 にぶい黄褐色粘質土。
- 4 灰黄褐色粘質土。にがい黄橙色土ブロック少混じる。
- 5 にぶい黄褐色粘土。
- 6 灰黄褐色粘土。明黄褐色砂混じる。
- 7 灰黄褐色粘土。

S E87・S E90

S E87

- 1 暗褐色土。地山土ブロック少混じる。炭化物・燒土粒混じる。
- 2 黄褐色粘質土。地山土ブロックやや多く

混じる。炭化物含む。

3 灰黄褐色粘土。

4 にがい黄色砂質シルト。地山土に似る。

5 黄褐色粘質土。地山土ブロックやや多く

混じる。炭化物含む。

6 にがい黄色砂質シルト。

7 灰黄褐色粘土。

8 にがい黄橙色砂質シルト。

9 灰黄色粘土。

10 灰黄色粘土。しまり弱い。

11 黑褐色腐植物層。大型の炭化物混じる。

大部分はワラなどの腐植物。

12 灰黄色粘土。

S K76・S E145

S K76

1 灰黄褐色土。しまり強い。

2 灰黄褐色土。

3 黄褐色土。

4 黄褐色土。

5 黄褐色土。地山土ブロック多い。

S E145

1 灰黄褐色土。にがい黄橙色土小ブロック

まばらに混じる。小炭化物含む。

2 暗灰黄色粘土。しまり弱い。

3 暗灰黄色粘土。しまり弱い粘土。

4 にがい黄褐色土。しまり弱い。

5 黄褐色粘土。

図版 13

S E406 南北

- 1 灰黄褐色土。にがい黄褐色土・褐灰色土がまだらに混じる。
- 2 灰黄褐色土。にがい黄色土まだらに入る。
- 3 灰黄褐色土。
- 4 にがい黄色粘質土。赤褐色土粒多く混じる。
- 5 黑褐色土。にがい黄褐色土粒・赤褐色土粒混じる。炭化物粒少混じる。
- 6 褐灰色土。浅黄色土粒・炭化物粒多く混じる。
- 7 黄灰色土。褐色土まだらに混じる。
- 8 にがい黄色土。褐色土が筋状に混じる。

S E406 東西

- 1 灰黄褐色土。褐色土ほぼ同量混じる。炭化物多い。
- 2 灰黄褐色土。1層同様の褐色土混じるが、少ない。
- 3 黄灰色土。灰黄色土少量まだらに混じる。
- 4 3層同様。砂鉄・黄褐色土粒や細い。上位に明褐色土多く、まだらに混じる。
- 5 灰黄褐色土。黄褐色土ブロック多く混じる。炭化物少ない。
- 6 にがい黄褐色土。にがい黄橙色土ブロック多い。炭化物少ない。
- 7 浅黄色土。黄褐色土や明褐色土がまだらに混じる。炭化物少ない。
- 8 灰黄褐色土。灰黄色土混じり。炭化物少ない。
- 9 明褐色土ブロック。灰黄褐色土。炭化物が多く混じる。
- 10 9層に似る。灰黄褐色土が大部分占める。
- 11 灰黄褐色土。明褐色土がまだらに混じる。
- 12 明灰黄色粘質土。灰黄色土ブロック少混じる。

13 12層同様でやや明るい。

14 12層同様で灰黄褐色土がやや多い。

15 淡黄色砂質シルトブロック。

16 にぶい黄色砂質シルト。明オーブン灰色砂質シルト混じる。

17 16層同様で軽土混じる。

18 17層に灰黄褐色土粒多く混じる。

19 暗灰黄色粘土。植物組織少量含む。

20 灰黄褐色粘土。褐灰色粘土少量含む。淡黄色砂質シルト。明暗紅色砂質シルト少量混じる。

21 灰黄色粘土。明暗紅色粘土少量混じる。

22 灰黄色粘土。明暗紅色粘土少量混じる。

23 灰黄色粘土。22層より明るい。

24 オーブン灰色年度。

25 細灰色粘土。

26 25層と同乳。

27 灰黄色粘土。

S P407

- 1 にぶい黄褐色土。明黄褐色土ブロック少混じる。
- 2 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土少量混じる。黒褐色土ブロック少量混じる。

S P404

- 1 にぶい黄褐色土。
- 2 灰黄褐色土。
- 3 暗灰黄色粘土。
- 4 灰黄褐色粘土。

S E376

- 1 灰黄褐色土。細かい炭化物が主に層に入れる。
- 2 黄灰色粘土。炭化物少ない。
- 3 黄褐色粘質土。浅黄色シルト大ブロックが大部分占める。
- 4 浅黄色やや砂質シルト。
- 5 灰黄色粘質シルト。
- 6 浅黄色粘質シルト。黑褐色粘土ブロックが大部分占める。
- 7 黄灰色粘質土。浅黄色シルト大ブロックが大部分占める。
- 8 灰黄褐色粘質土。
- 9 灰白色粘質シルト。黄灰褐色粘質シルトまだらに混じる。
- 10 9層同様。黄灰色が多い。
- 11 灰黄色シルト。
- 12 にぶい黄色シルト。炭化物混じる。
- 13 灰黄色シルト。

S P390

- 1 にぶい黄褐色土。焼土粒・微小な炭化物粒少混じる。
- 2 灰黄褐色土。灰黄色土ブロックやや多く混じる。
- 3 灰黄褐色土。灰黄色土ブロック少混じる。

S K372

- 1 灰黄褐色土。浅黄色土ブロック少量混じる。炭化物小量混じる。
- 2 にぶい黄褐色土。浅黄色土ブロックやや多く混じる。
- 3 灰黄褐色土。灰黄色土ブロック少量混じる。炭化物少量混じる。
- 4 灰黄褐色土。浅黄色土ブロック極少量混じる。炭化物少量混じる。

図版 14

S E365 • S P368 • S P369

S E365

- 暗灰黄色粘質土。灰白色粘土ブロック混じる。
- にぶい黄褐色土。にぶい黄褐色土ブロック多く混じる。
- 黄褐色土。やや大きめの灰黄色土ブロック多く混じる。
- 黄褐色土。やや大きめの灰黄色土ブロック少量混じる。
- 黄褐色土。やや大きめの灰黄色土ブロック少量混じる。
- 黄褐色土。やや大きめの灰黄色土ブロック多く混じる。
- 黄褐色土。やや大きめの灰黄色土ブロック多く混じる。
- オーリーブ褐色砂混じりシルト。
- 黄灰色粘土。灰白色シルトブロック混じる。しまり強い。
- 浅黄色シルト。

S P368

- にぶい黄褐色土。灰白色シルトブロック混じる。
- 黄褐色粘質土。灰白色シルトブロック混じる。
- S P369
- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土混じる。炭化物や多い。

S K367

- 灰黄褐色粘質土。にぶい黄色土小ブロックまだらに混じる。
- 灰黄褐色粘質土。1層に似るが粘質強いブロックの混じりはほとんど見られない。
- にぶい黄色砂質シルト。下位に同色の粘土塊混じる。
- にぶい黄色砂。
- 黄褐色粘土混じり砂。

S K235

- 褐色土。灰黄褐色土多く混じる。
- にぶい黄褐色土。
- 灰黄褐色土。褐灰色土混じる。
- 暗灰黄色土。やや粘質。
- 3 層に似る。褐灰色土や多い。明黄色土混じる。
- 5 層に似る。明黄色土粒多い。
- 黄褐色土。にぶい黄褐色土混じる。
- にぶい黄褐色土。灰黄褐色土は半分混じる。
- 8 層に似る。灰黄褐色土多い。
- にぶい黄褐色土。灰黄褐色土層少量化する。

図版 15

S K165

- にぶい黄褐色土。褐灰色土まだらに混じる。
- 黄褐色砂混じりシルト。褐灰色砂まだらに少量化する。
- 灰黄褐色砂混じりシルト。褐灰色筋状に混じる。

- 灰黄褐色砂混じり粘土。褐色砂少量化する。
- にぶい黄褐色粘質土。
- 黄灰色粘土。
- 灰褐色砂混じり粘土。
- にぶい黄褐色土。灰黄褐色土まだらに混じる。
- にぶい黄褐色土。灰黄褐色土少量化する。
- 暗灰黄色土。にぶい黄褐色土少量化する。
- 灰褐色粘質土。

S K119

- 褐褐色土。しまり強い。にぶい黄褐色砂質土ブロック。小炭化物・塊土粒混じる。
- S K644 • S K645
- 暗灰黄色粘質土。
- 灰色粘質土。
- 褐色土。明黄色土ブロック少量化する。炭化物少量混じる。

S P345 • S K641

- S P345
- 褐色土。にぶい黄褐色土勝負ロック少量化する。
- 灰黄色粘質土ブロック。褐灰色土が薄く混じる。
- 褐灰色土。にぶい黄褐色土勝負ロック少量化混じる。
- 黄灰色粘質土。明黄色土小ブロック少量化混じる。
- 黄灰色粘土。

S K641

- 灰黄褐色土。にぶい黄色土がまだらに混じる。
- 7 灰黄褐色土。細かい炭化物小量混じる

図版 16

S K67 • S K68

- S K68
- 灰黄色砂質シルト。にぶい黄褐色土まだらに混じる。
- 黄褐色砂質シルト。
- にぶい黄褐色土。浅黄色土ブロックや多く混じる。
- 浅黄色粘質土ブロック主体。にぶい黄褐色土混じる。
- 暗灰黄色粘質土。灰黄色粘質シルト小ブロックがほむけ量混じる。
- 暗灰黄色粘質土。
- 灰黄褐色砂質土。にぶい黄色粘質土ブロック混じる。

S K96 • S P95

- S K96
- 灰黄褐色土。小炭化物・にぶい黄褐色土ブロック少量化混じる。
- にぶい黄褐色土。にぶい黄褐色土ブロックや多く混じる。炭化物少量化。
- にぶい黄色粘質土ブロック主体。にぶい黄褐色土混じる。
- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土粒少量化混じる。炭化物少量化。
- 4 層に似るが、色調やや明るい。
- 灰黄褐色土。明黄色土粒少量化混じる。炭化物少量化。

S P95

- 灰黄褐色土。
- にぶい黄褐色粘質土。炭化物極少量化する。
- にぶい黄褐色粘質シルト。
- 灰黄色粘土。

S K316

- にぶい黄褐色土。炭化物極少量化。明黄色や灰白色のシルト大ブロック混じる。
- 褐色土。にぶい黄褐色粘質土まだらに混じる。
- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土が大半を占める。
- 3 層と同様だが、灰黄褐色土が多い。
- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土粒混じる。炭化物まだらに混じる。
- にぶい黄褐色土。炭化物は5層同様。
- 灰黄色粘土。地山に類似。にぶい黄色粘土・炭化物わずかに混じる。
- 7 層に似る。にぶい黄色土は混じらない。

S K132

- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土ブロック多く混じる。
- 黄灰色粘質土。

S K296

- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色や灰白色的シルトブロック多く混じる。
- 1 層と同様。シルトブロックが半分以上を占める。
- 褐色土。シルトブロック少ない。

S P399 • S P400

S P399

- 褐色土。明黄色土色・にぶい黄褐色土のブロックがまだらに混じる。
- 1 層に似る。明黄色土少ないと、にぶい黄褐色土のまだらが多い。

S P400

- 灰黄褐色粘質土。柱根。
- 灰黄褐色土。にぶい黄褐色土がまだらにやや多く混じる。
- 4 層に似る。黄褐色土多く混じる。

S P410

- 褐色土。にぶい黄色土大型のブロック。
- 灰黄褐色土。にぶい黄色土粒少量化混じる。炭化物少量化。
- 灰黄褐色土。にぶい黄色土・黒褐色土ブロック少量化混じる。
- 4 层に似るが、色調やや明るい。

S P263

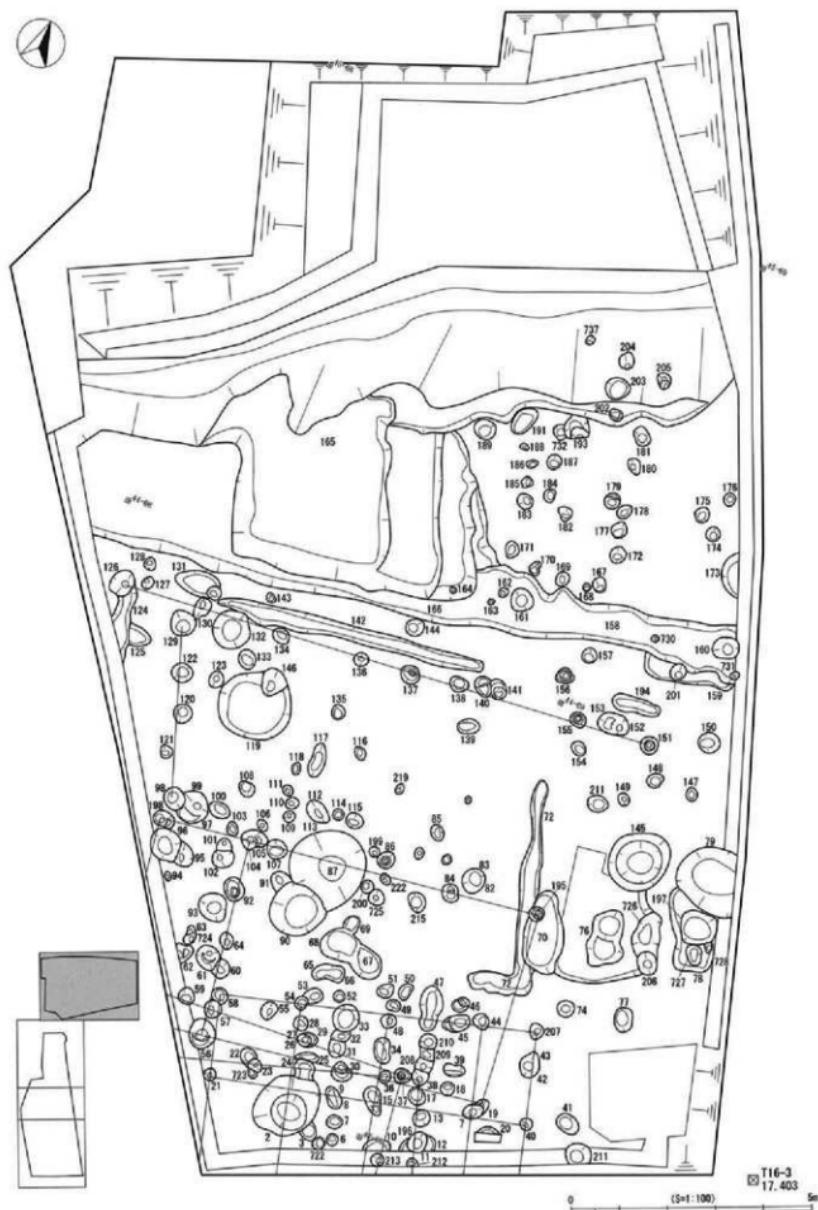
- 灰黄褐色土。にぶい黄色土粒少量化混じる。炭化物少量化。
- 灰黄褐色土。にぶい黄色土粒少量化混じる。炭化物少量化。
- にぶい黄褐色土。明黄色土粒少量化混じる。炭化物少量化。
- 褐色土。浅黄色土ブロック 1/4 程度混じる。しまり強い。
- 褐灰色土。明黄色土ブロックがまだらに混じる。

黒部古屋敷遺跡

図版 1



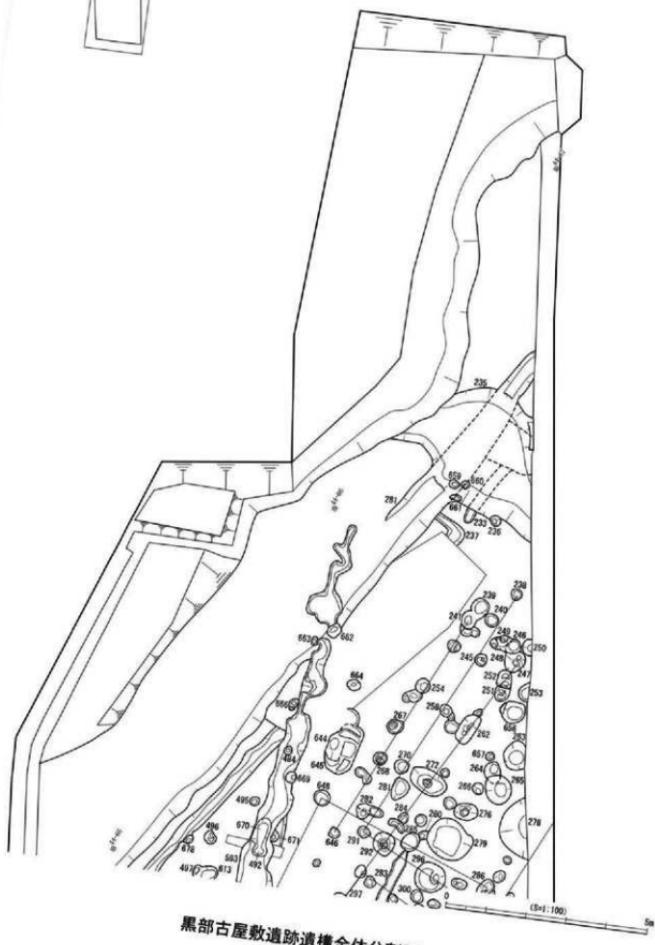
黒部古屋敷遺跡遺構全体図



黒部古屋敷遺跡遺構全体分割図 1

黒部古屋敷遺跡

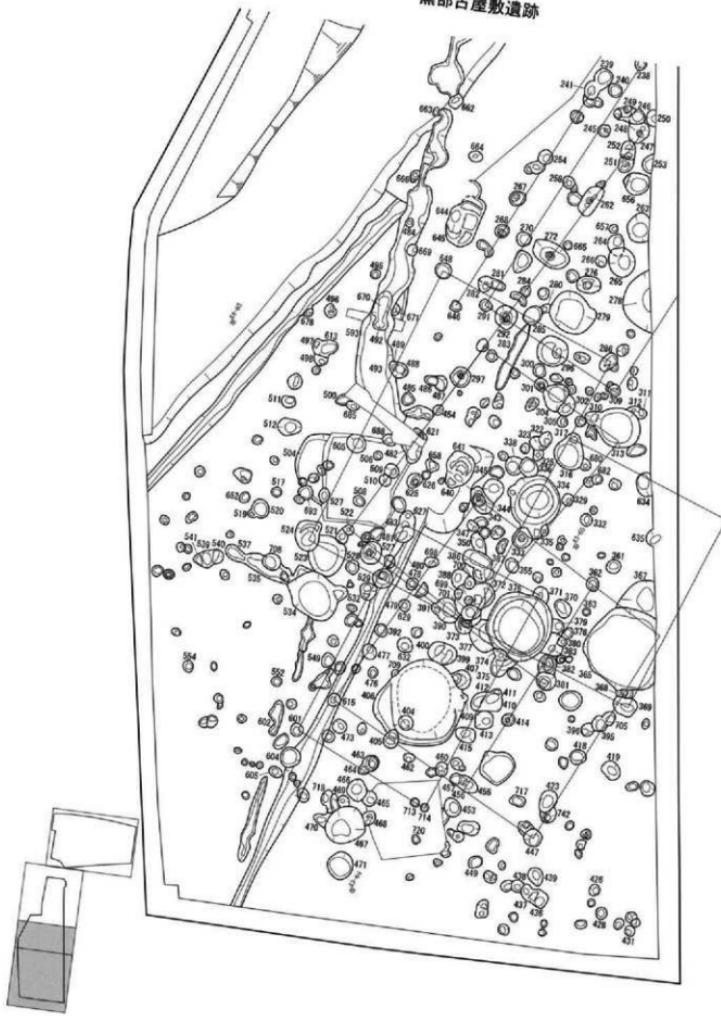
図版3



黒部古屋敷遺跡遺構全体分割図2

圖版 4

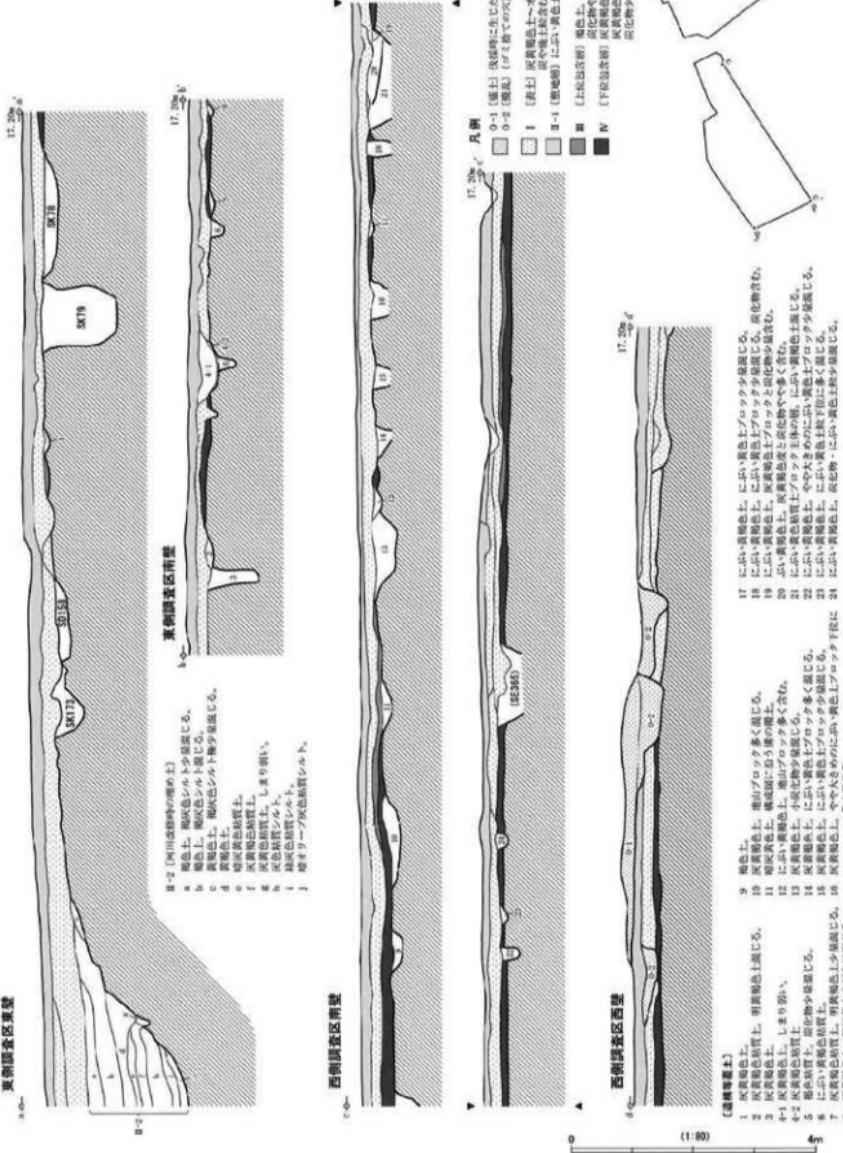
黑部古屋敷遺跡



黑部古屋敷遺跡遺構全体分割図 3

黒部古屋敷遺跡

図版 5

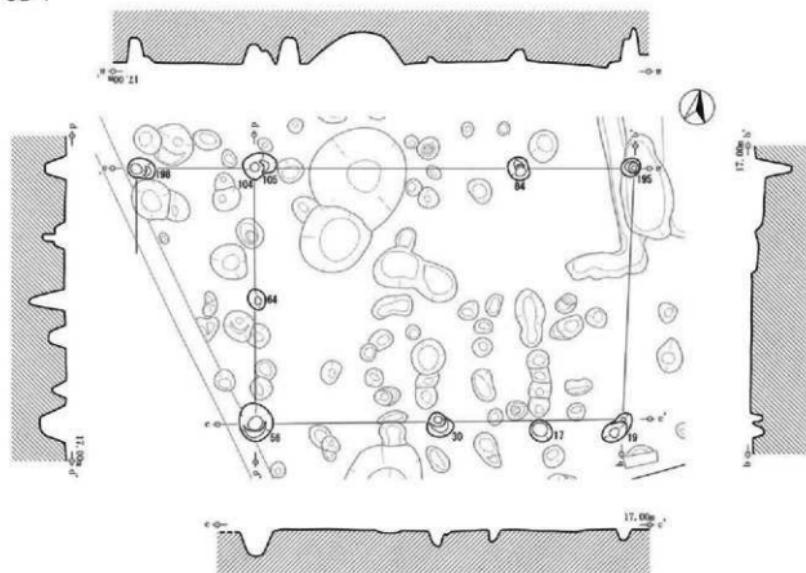


黒部古屋敷遺跡基本土層図

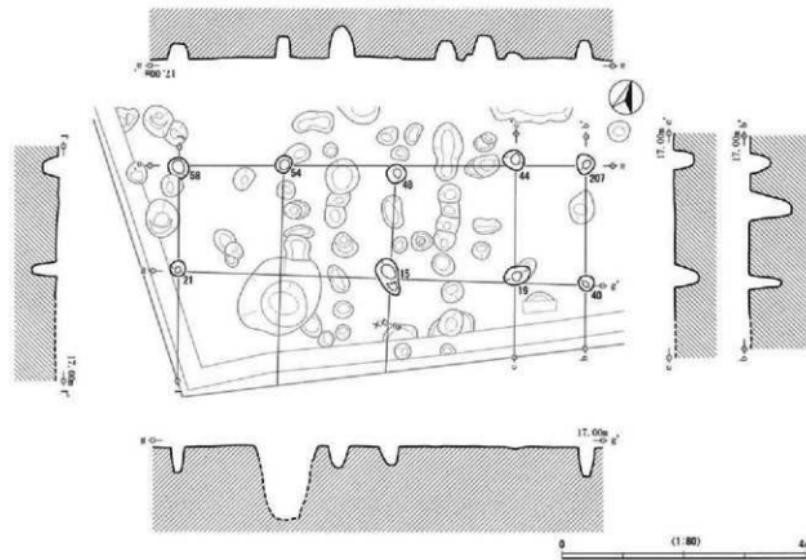
図版 6

黒部古屋敷遺跡

SB-1



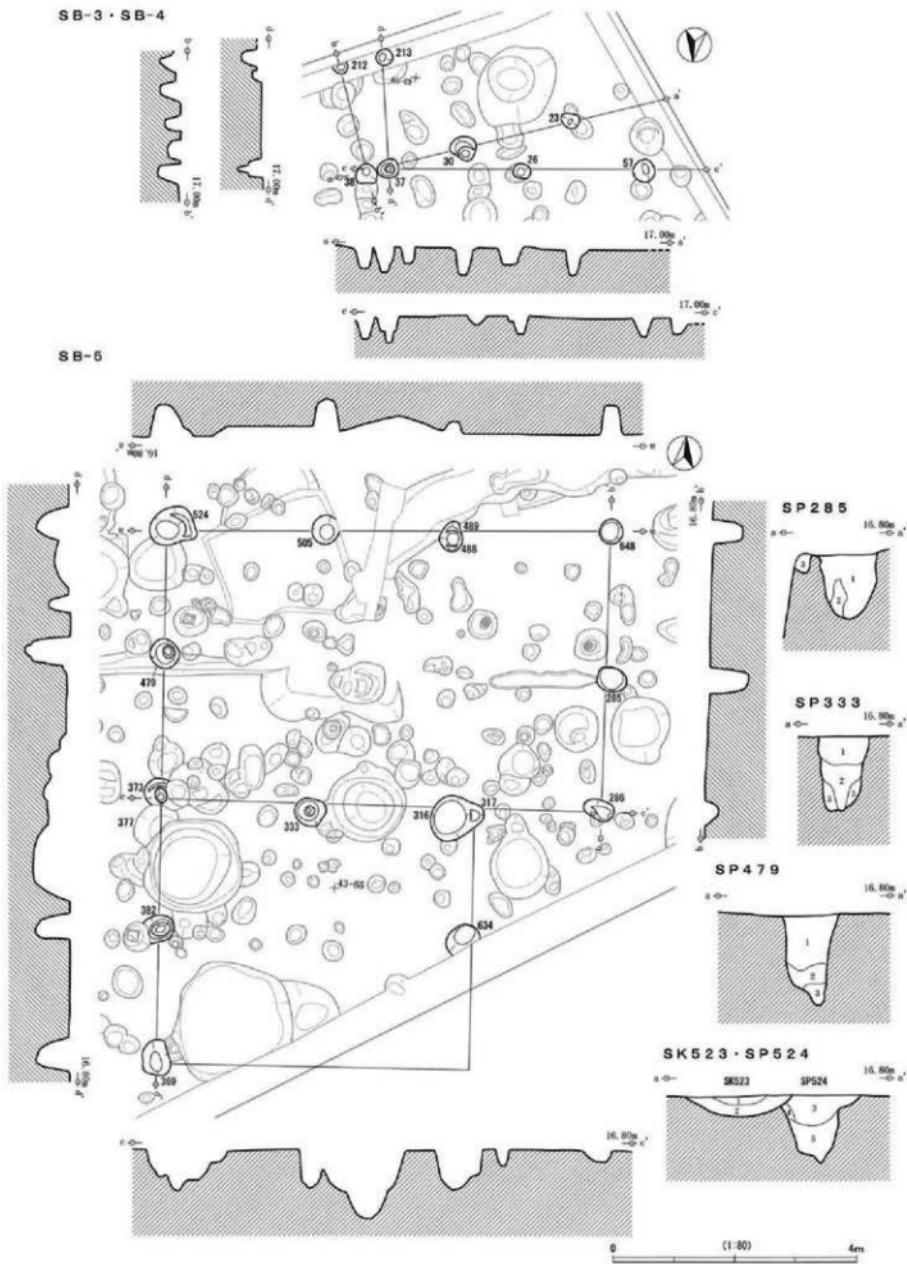
SB-2



黒部古屋敷遺跡遺構個別図 1

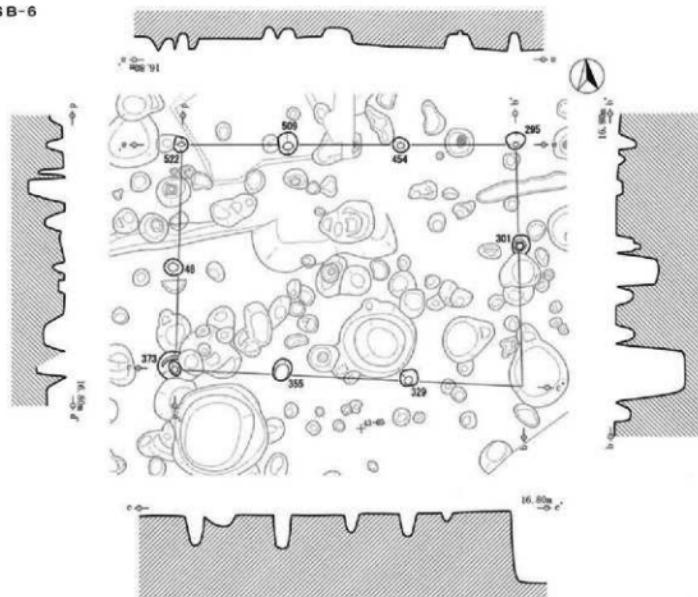
黒部古屋敷遺跡

図版7

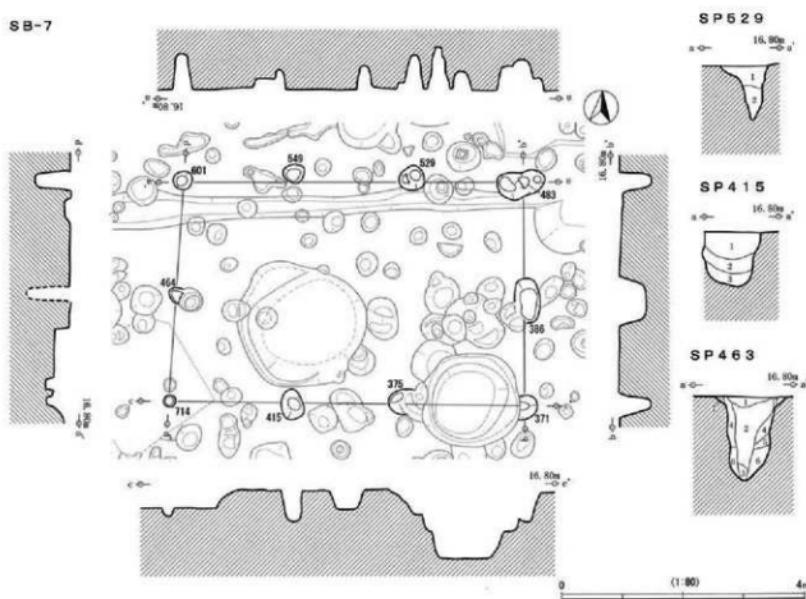


黒部古屋敷遺跡遺構個別図 2

SB-6

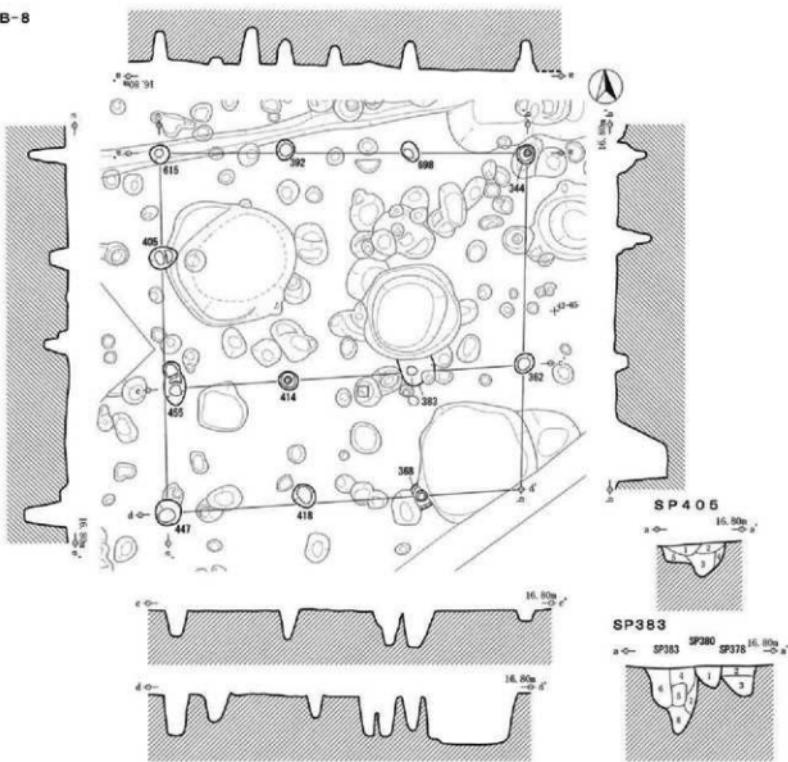


SB-7

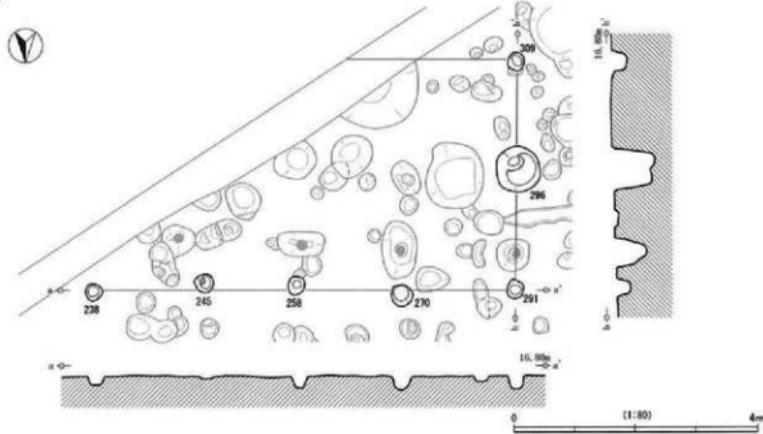


黒部古屋敷遺跡遺構個別図 3

SB-8



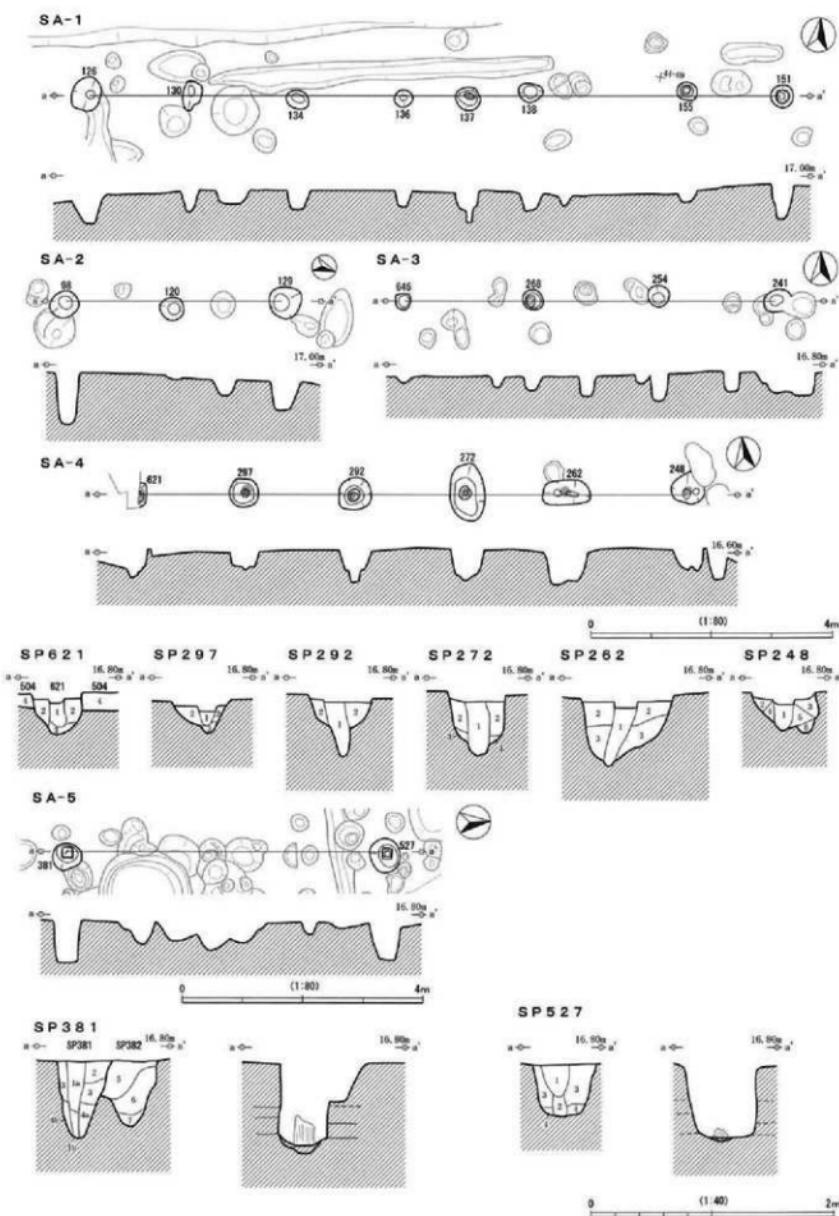
SB-9



黒部古屋敷遺跡遺構個別図 4

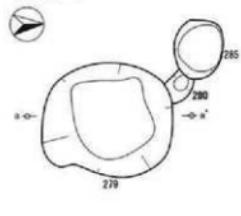
圖版10

黒部古屋敷遺跡

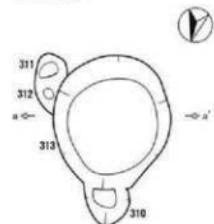


黒部古屋敷遺跡遺構個別図 5

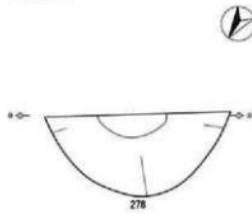
SE 279



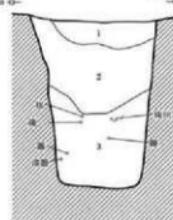
SE 313



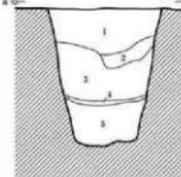
SE 278



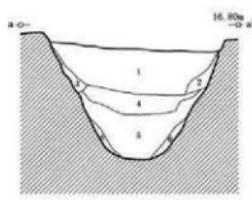
16.80m → a'



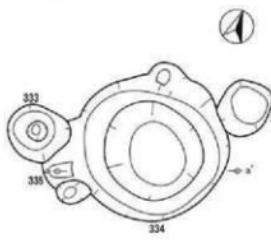
16.80m → a'



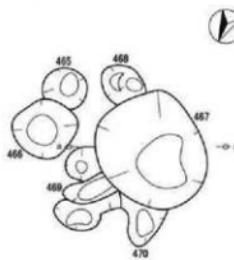
16.80m → a'



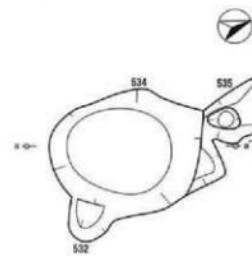
SE 334



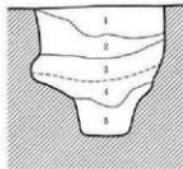
SE 467



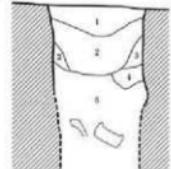
SE 534



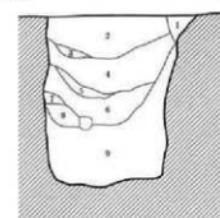
16.80m → a'



16.80m → a'



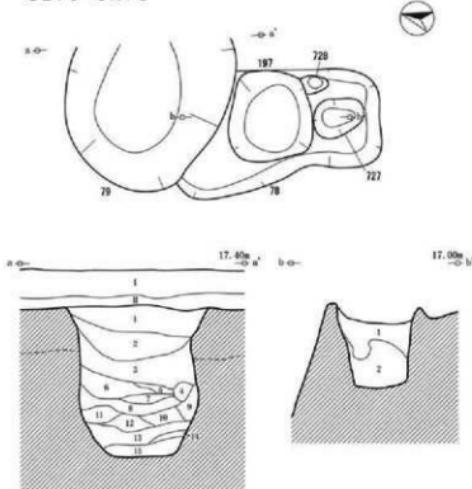
16.80m → a'



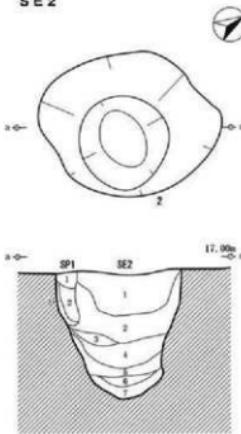
0 (1:40) 2m

黒部古屋敷遺跡遺構個別図6

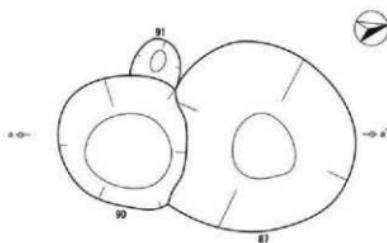
SE79・SK78



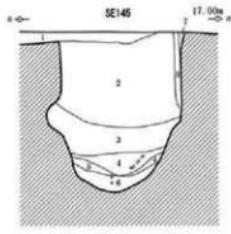
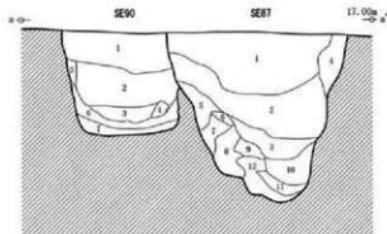
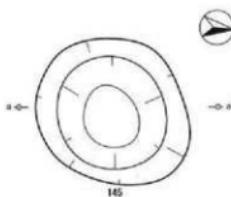
SE2



SE87・SE90

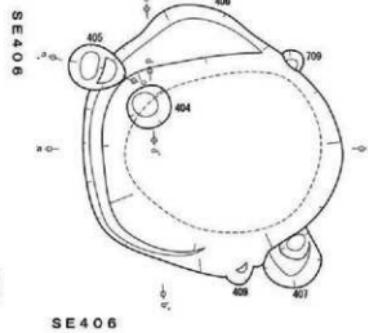
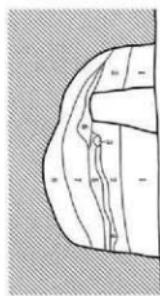


SE145



0 (1:40) 2m

SE 406

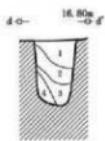


Ⓐ

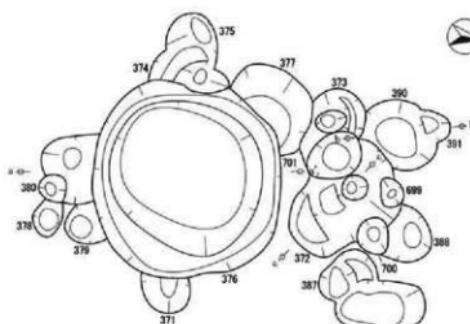
SP 405



SP 404

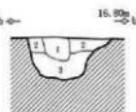


SE 376

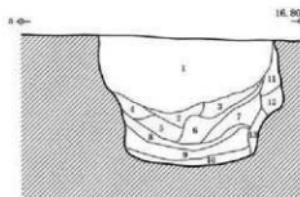


Ⓑ

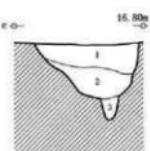
SP 390



SE 376

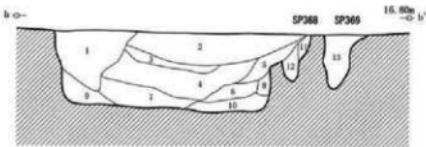
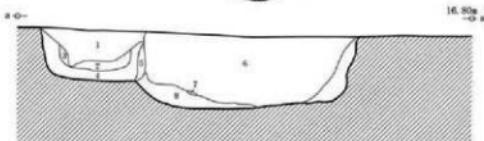
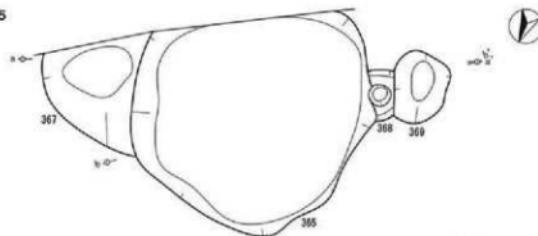


SK 372

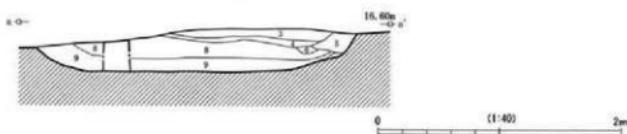
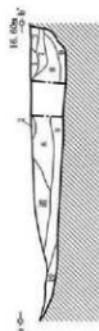
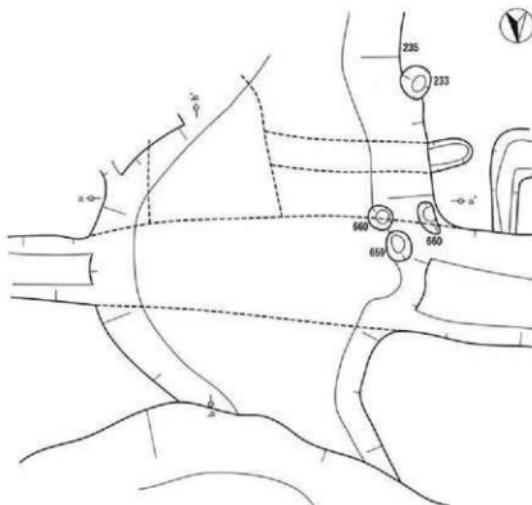


0 (1:40) 2m

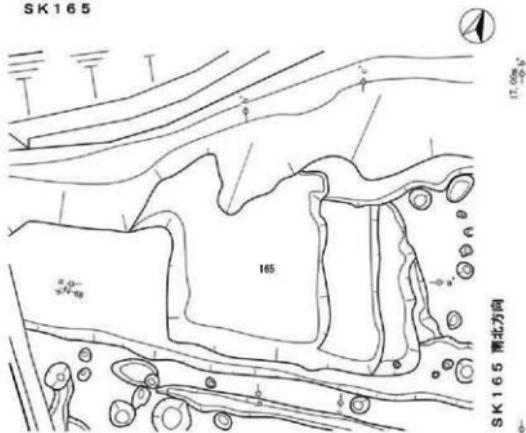
SK367・SE365



SK235



SK 165



SK 165 東西方向（南から）



SK 165 西北方向



SK 165



(平面図)

(S=1:100)

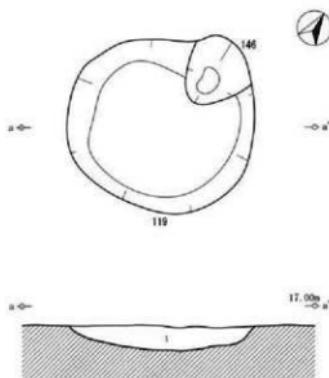
0 5m

(土層図)

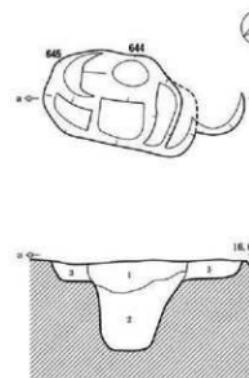
(1:80)

0 4m

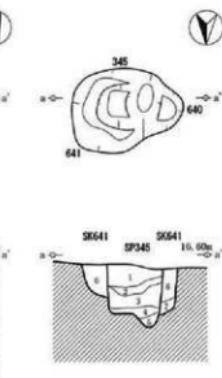
SK 119



SK 644・SK 645

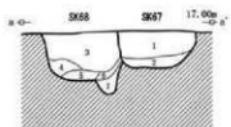
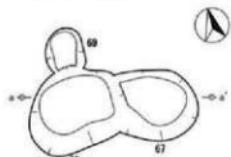


SP 345・SK 641

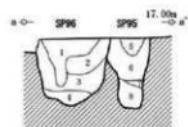
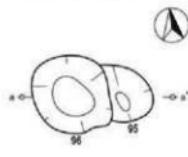


0 (1:40) 2m

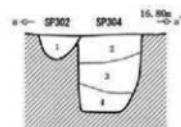
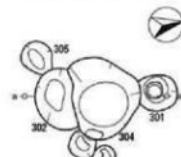
SK68・SK67



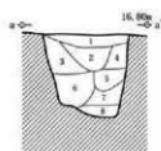
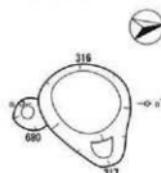
SP96・SP95



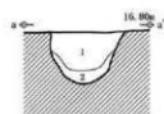
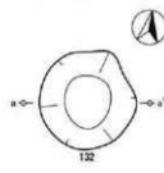
SP302・SP304



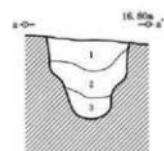
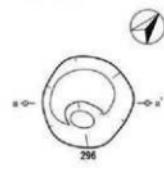
SP316



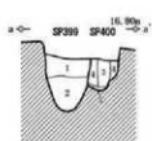
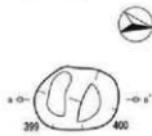
SK132



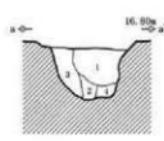
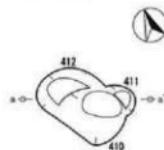
SP296



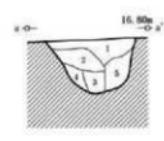
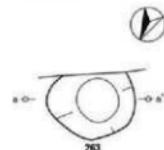
SP400



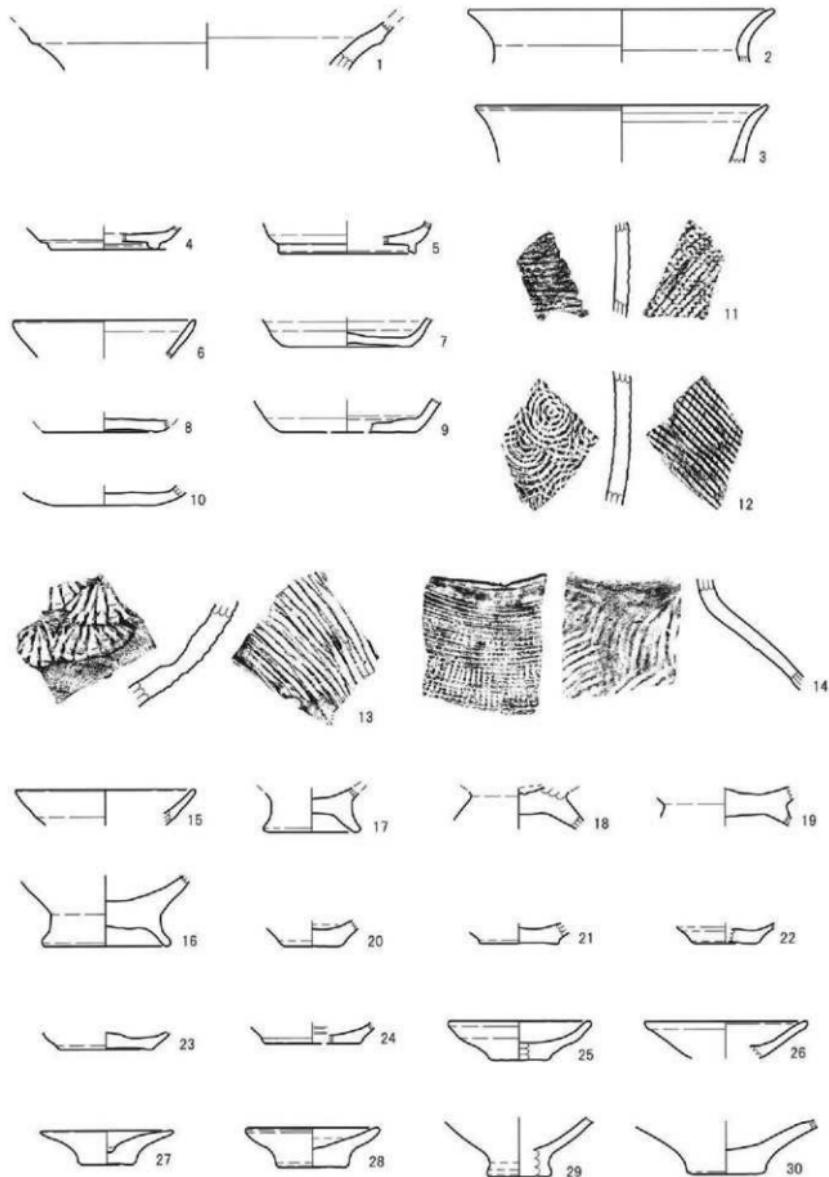
SP410



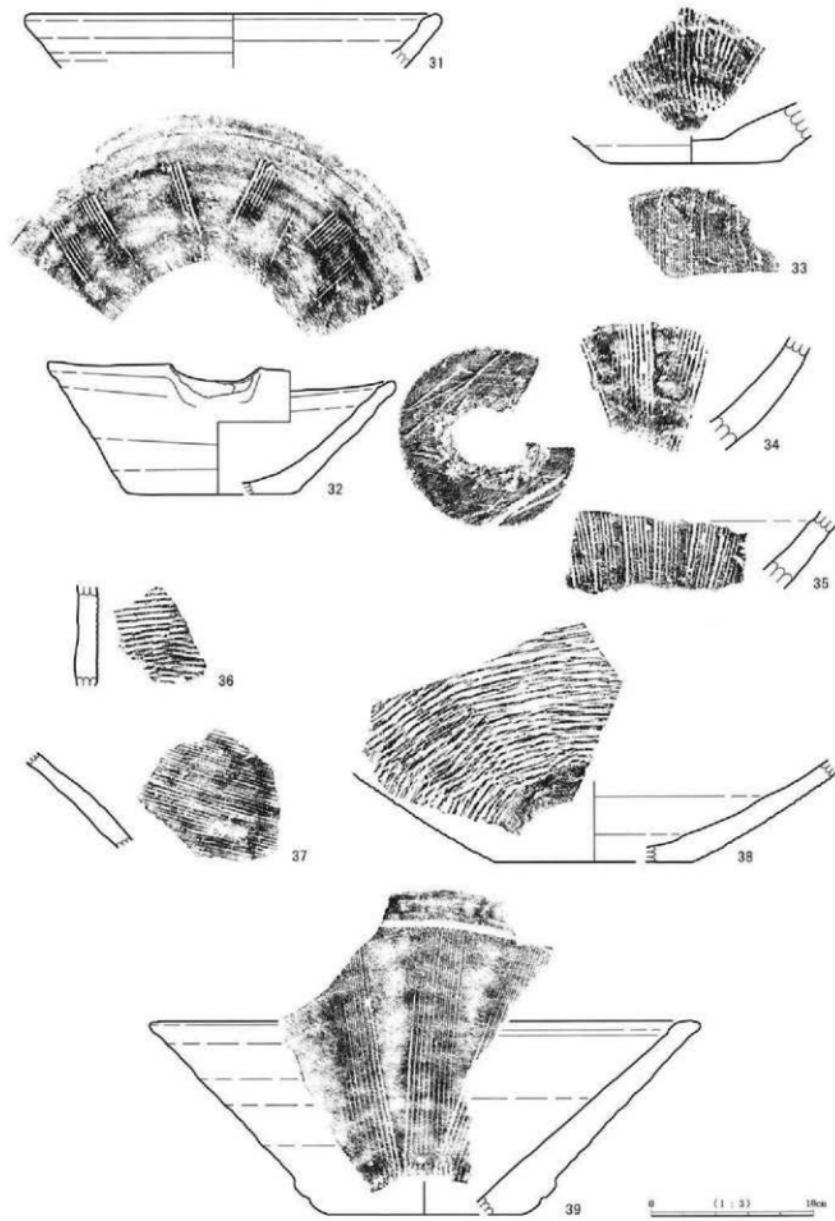
SP263

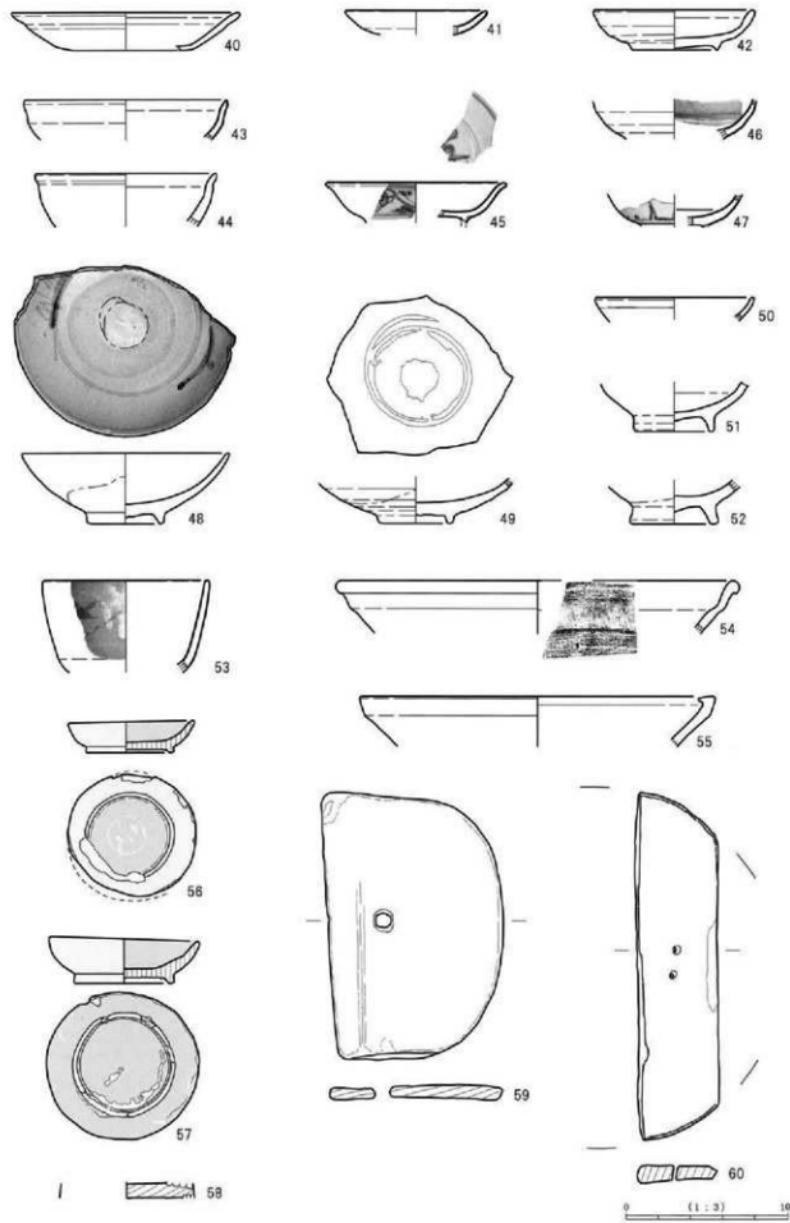


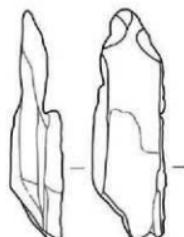
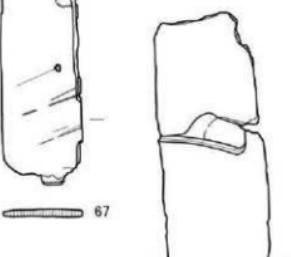
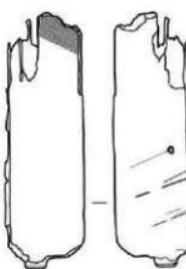
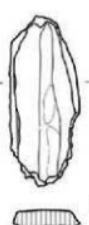
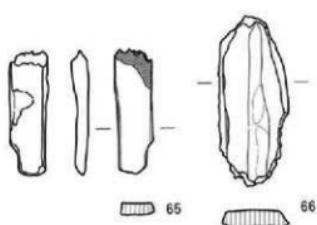
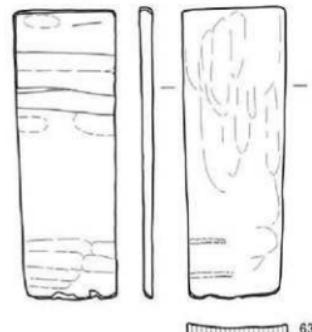
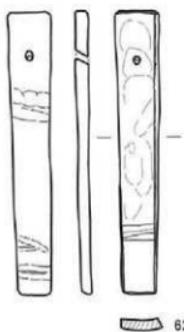
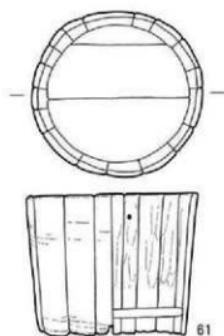
0 (1:40) 2m



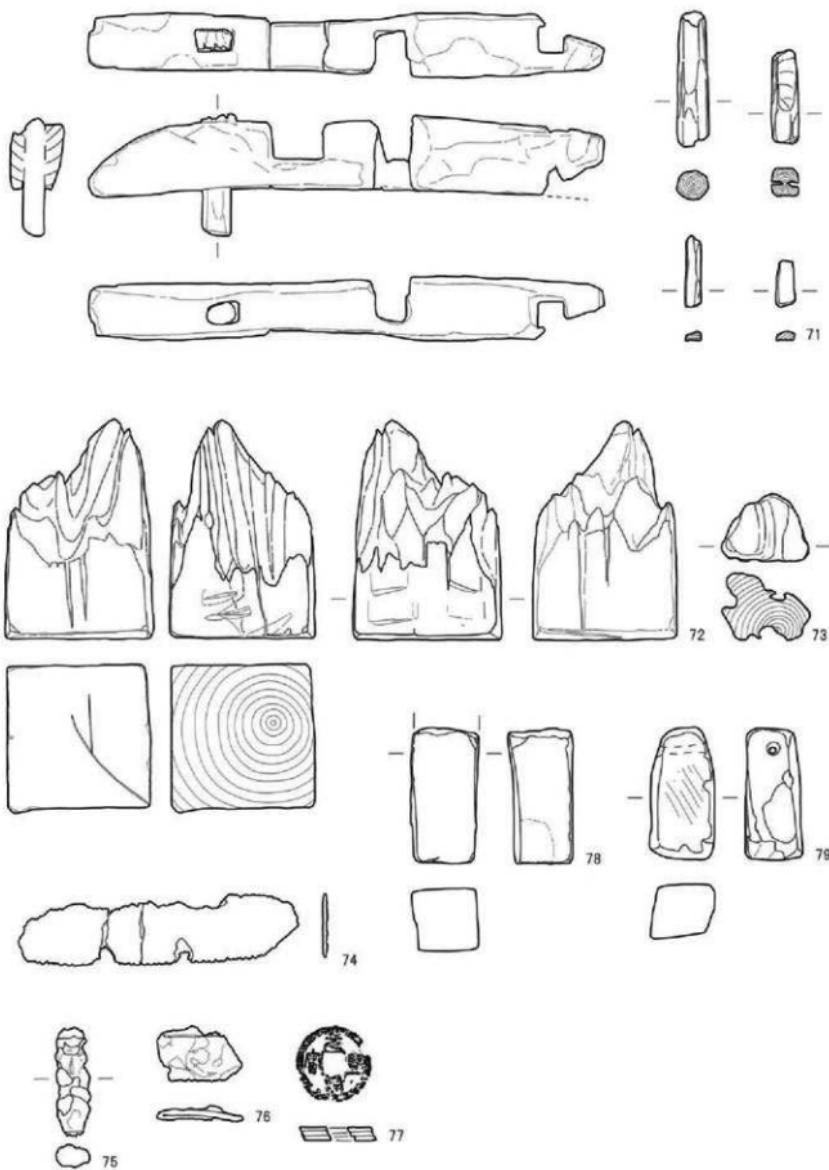
6 (1 : 3) 10cm







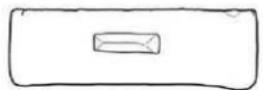
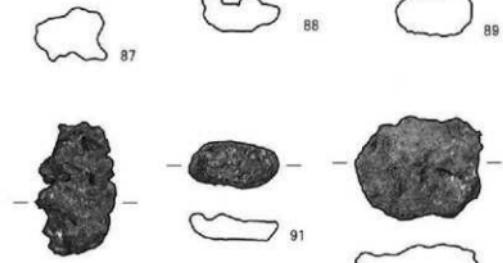
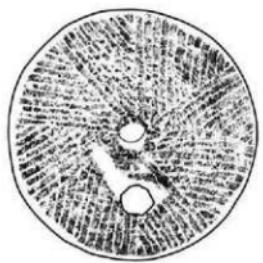
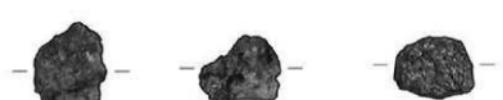
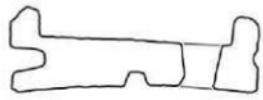
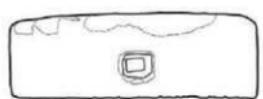
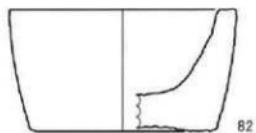
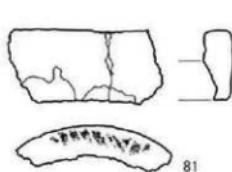
0 (1 : 3) 10cm 61 0 (1 : 6) 30cm



0 (1 : 3) 10cm

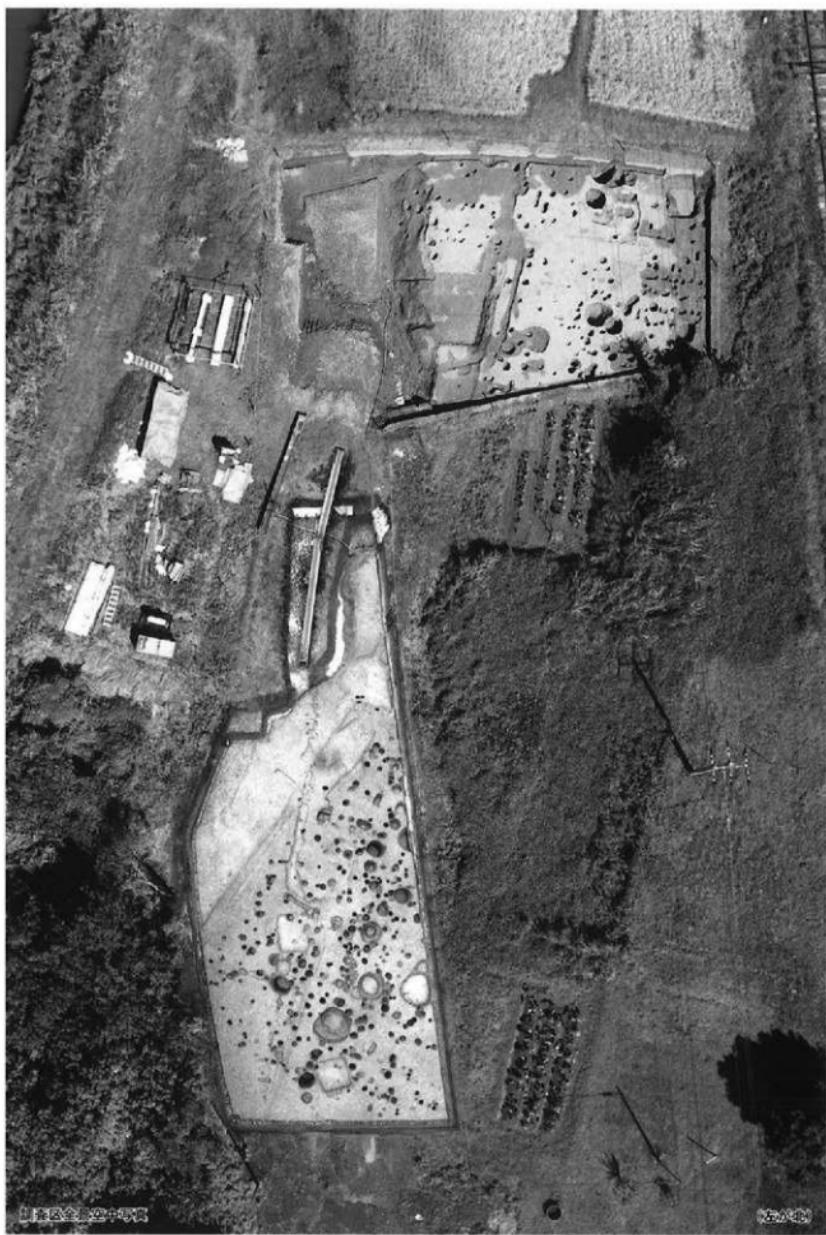
0 77 (2 : 5) 5cm

0 72 (1 : 6) 20cm



0 (1 : 3) 10cm

0 30~82 (1 : 6) 20cm



図版24



調査区南端空中写真

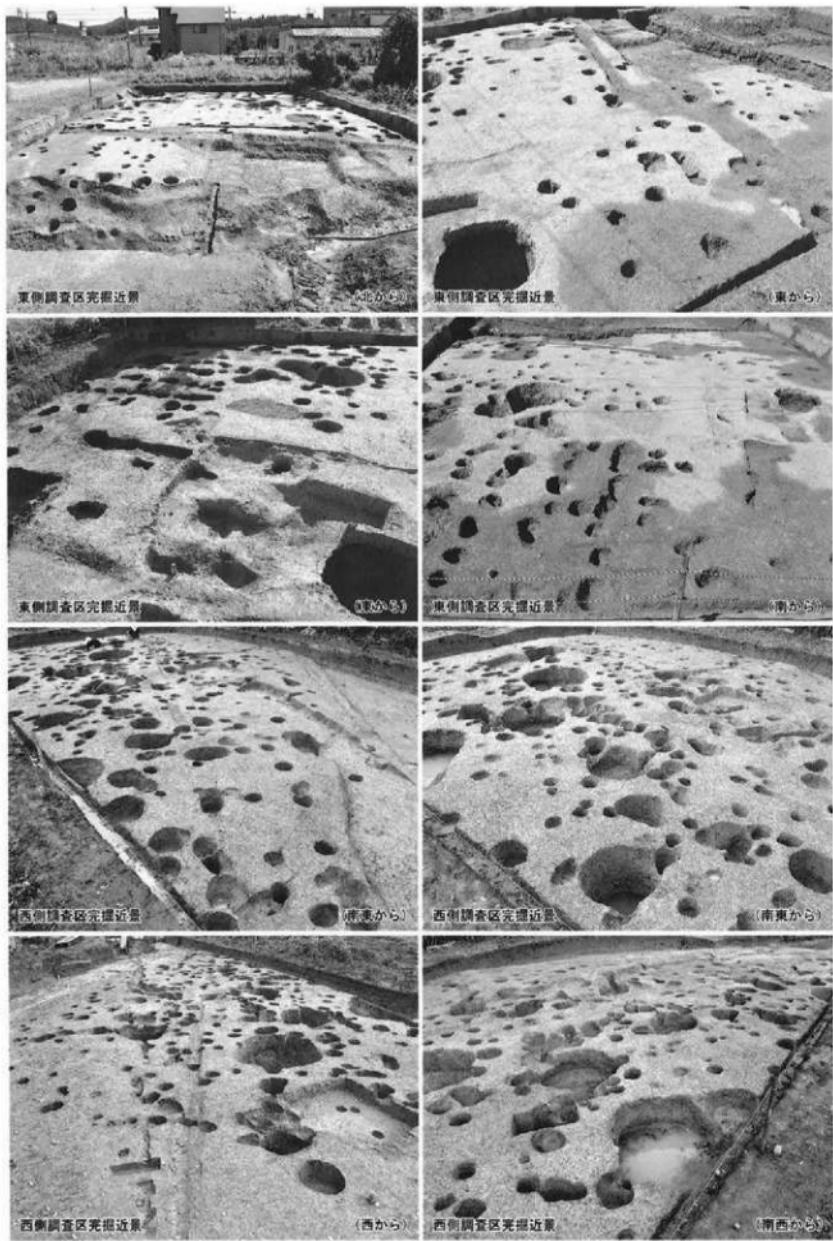
別山川



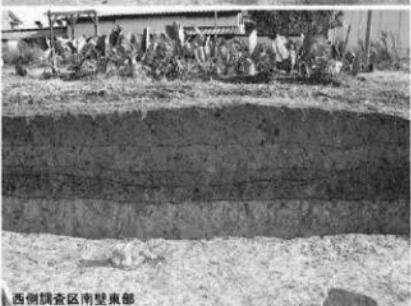
米山

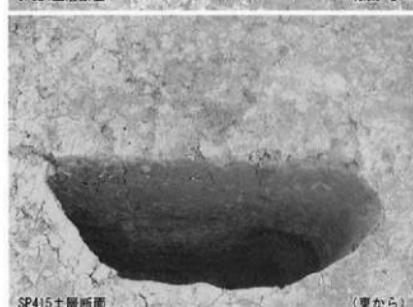
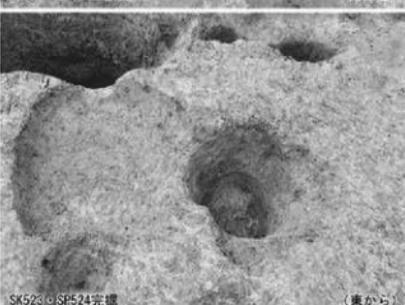
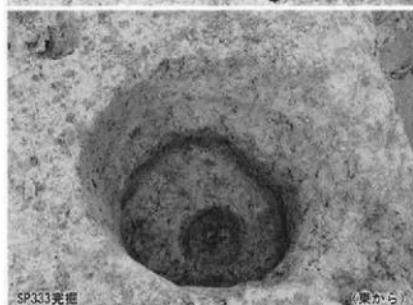
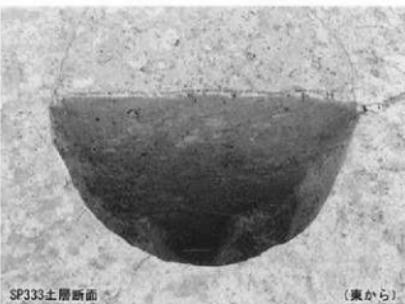
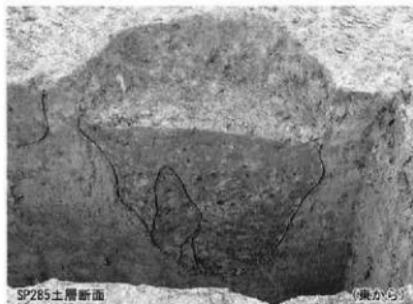
調査区北端空中写真

北端

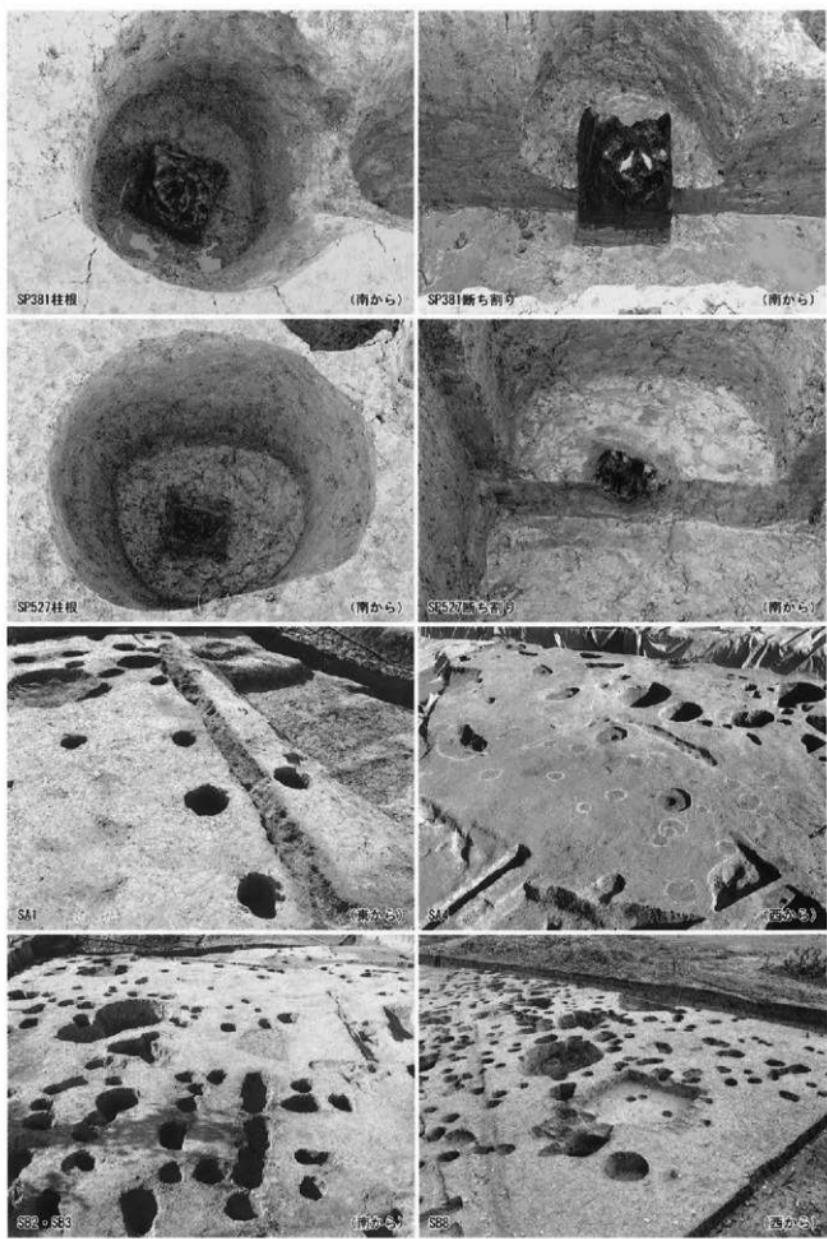


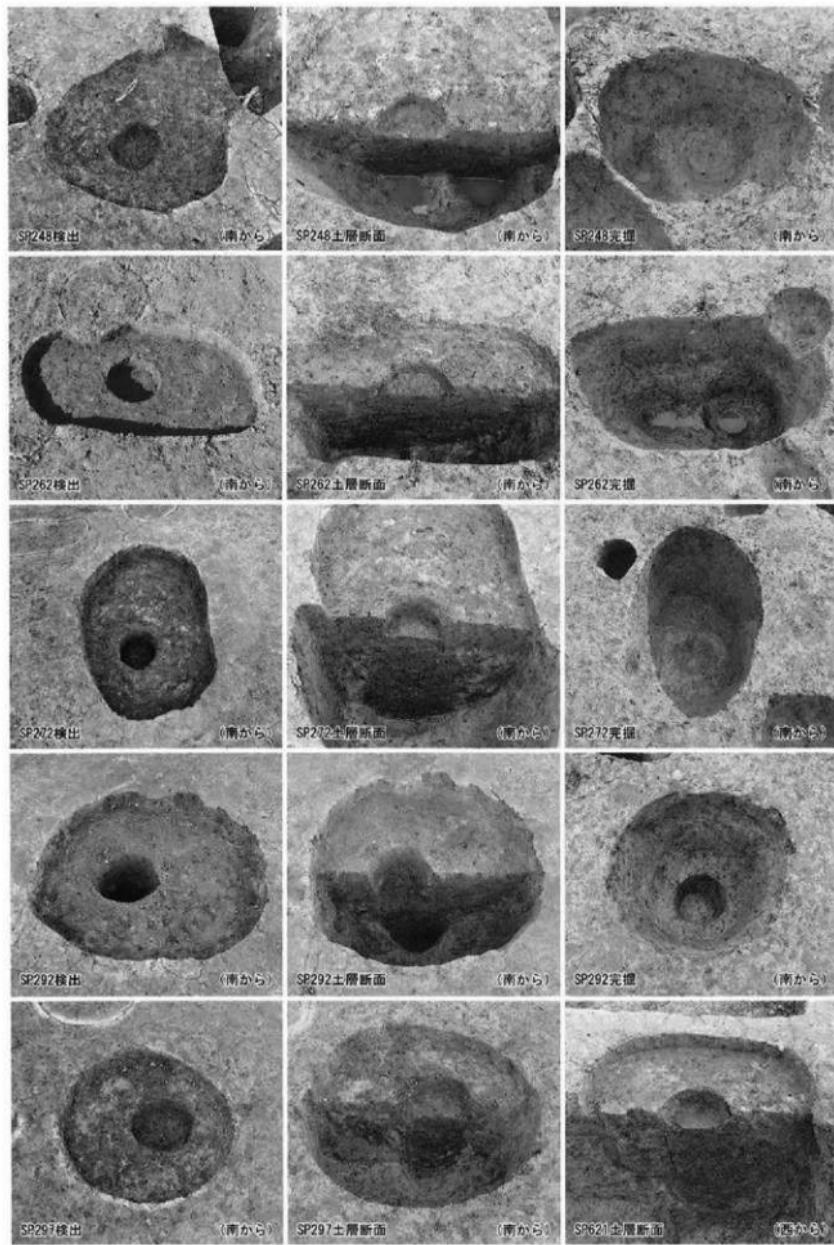
図版26



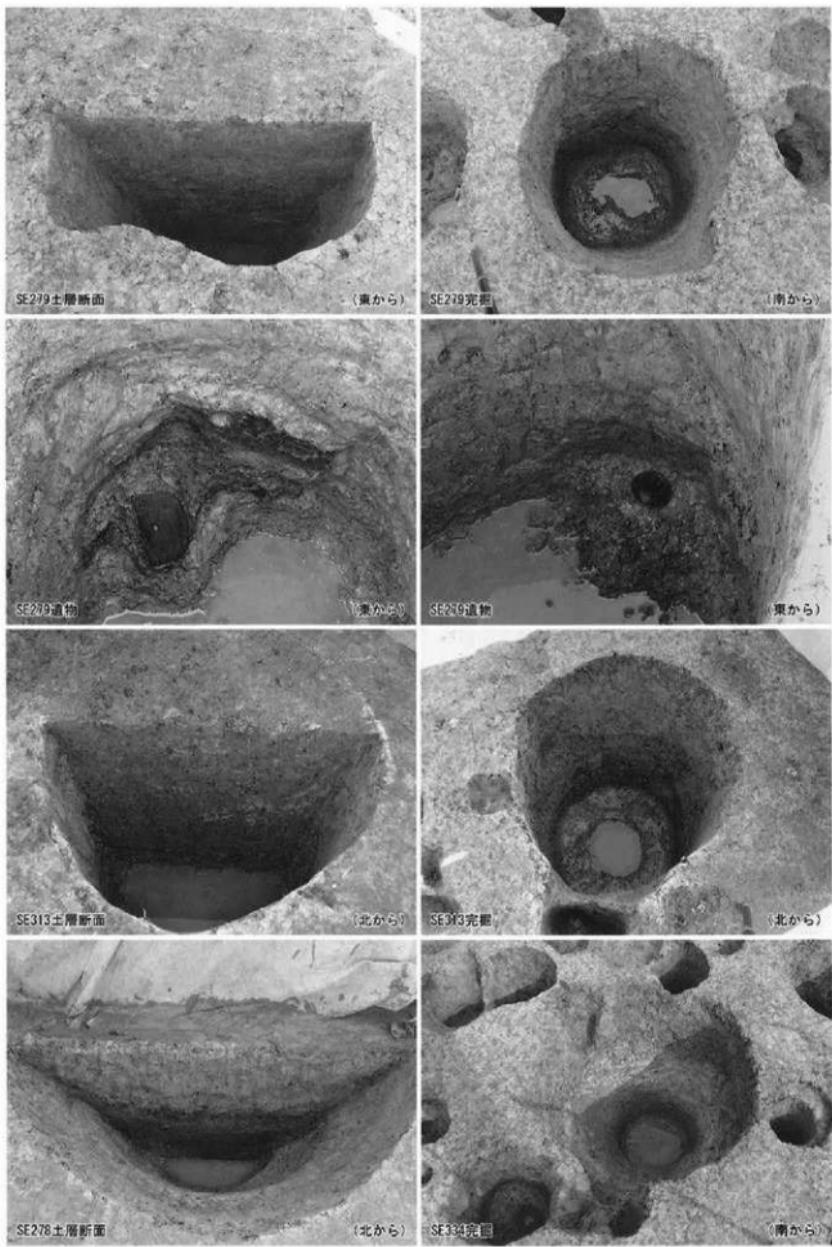


図版28



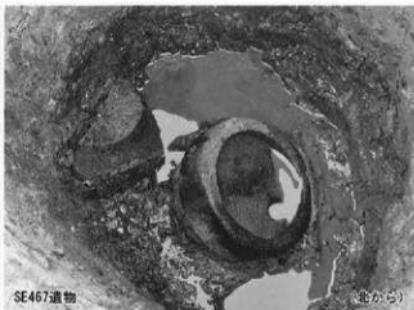


図版30

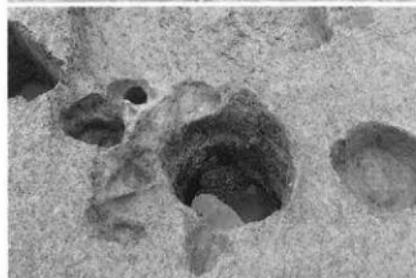




(北から)



(北から)



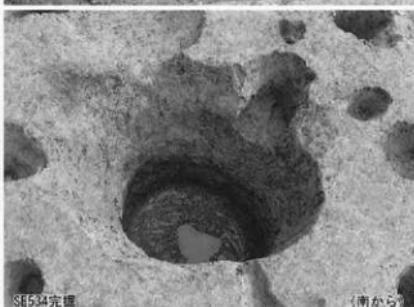
(北から)



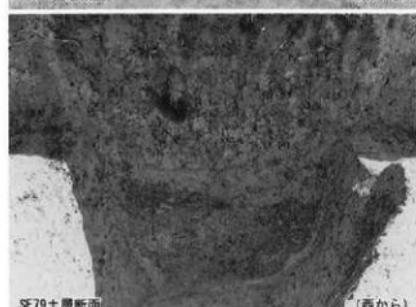
(北から)



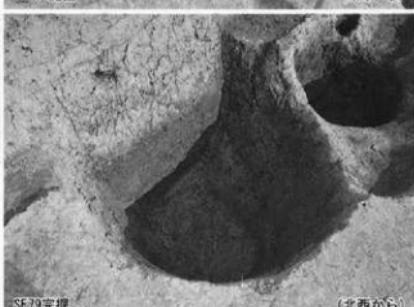
(東から)



(南から)

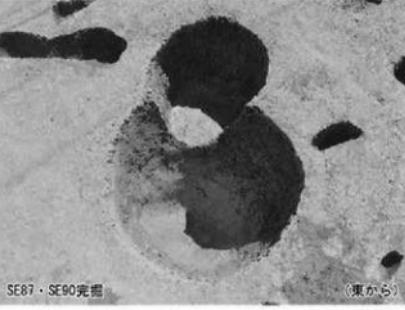
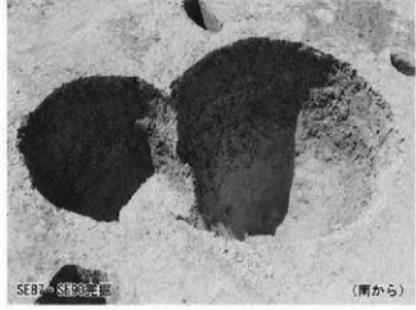
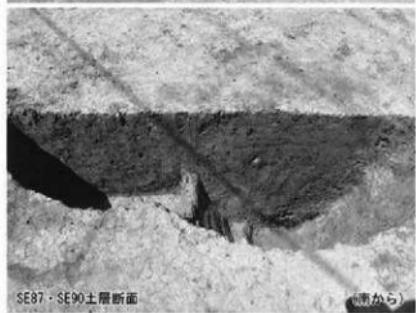
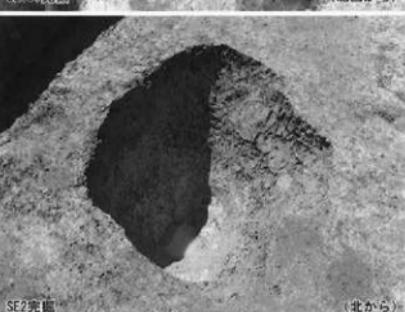
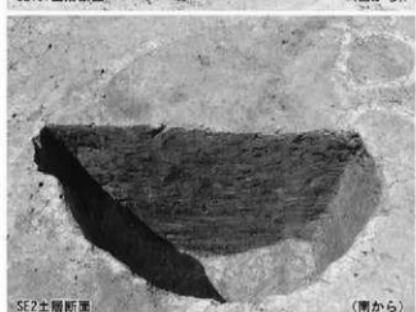


(西から)

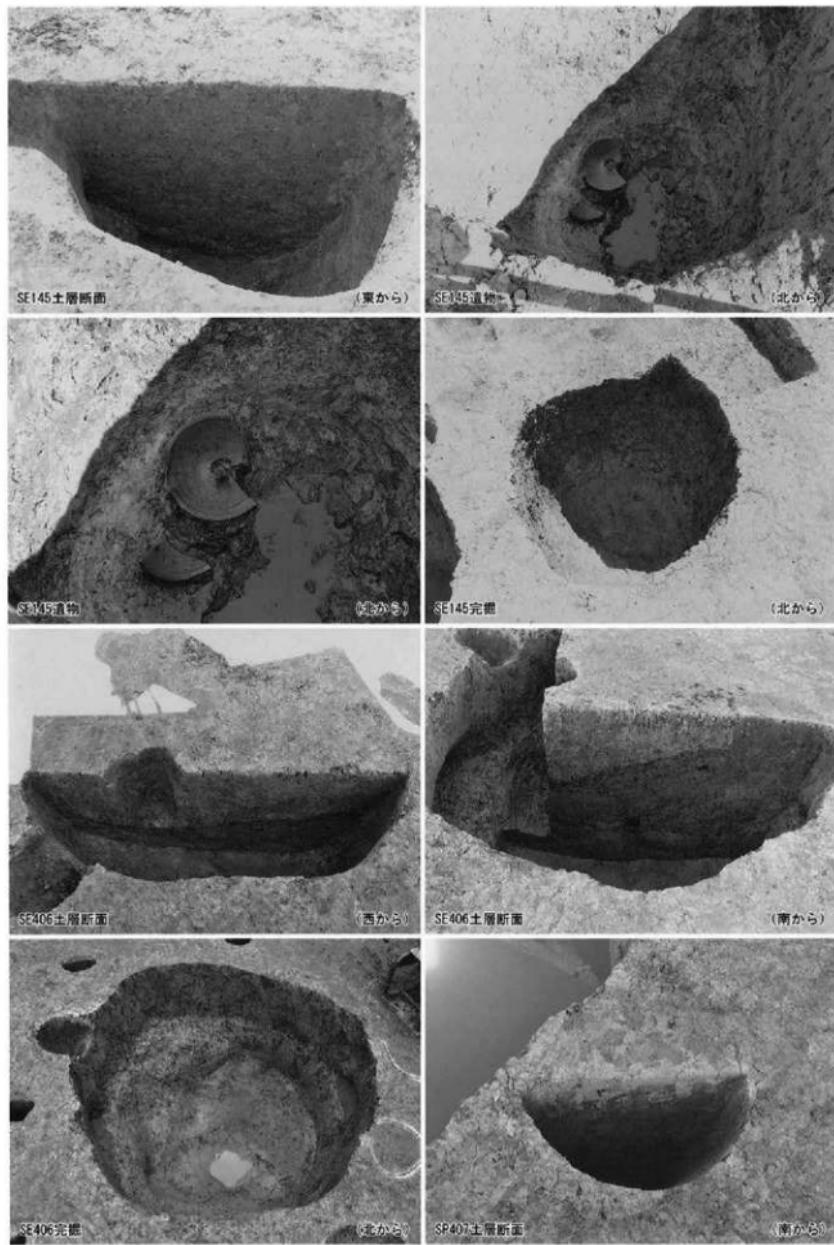


(北西から)

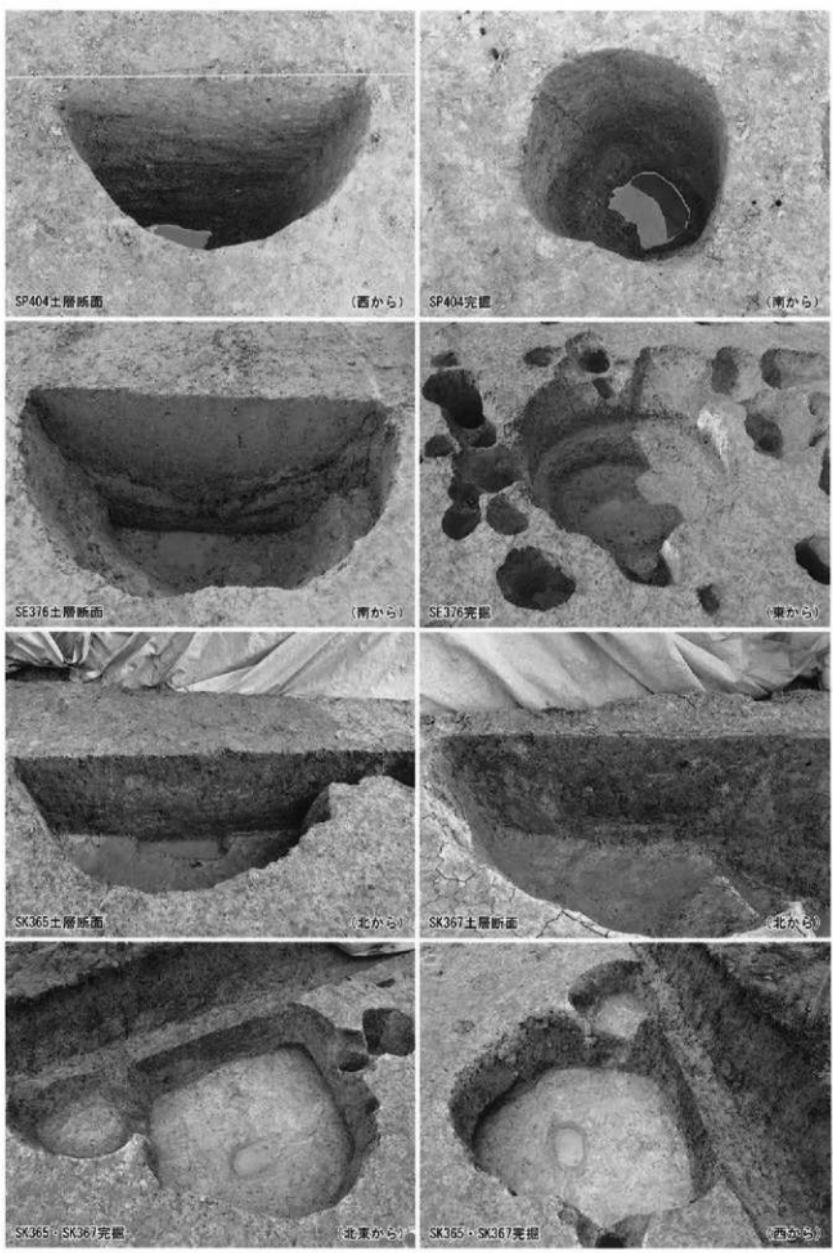
図版32

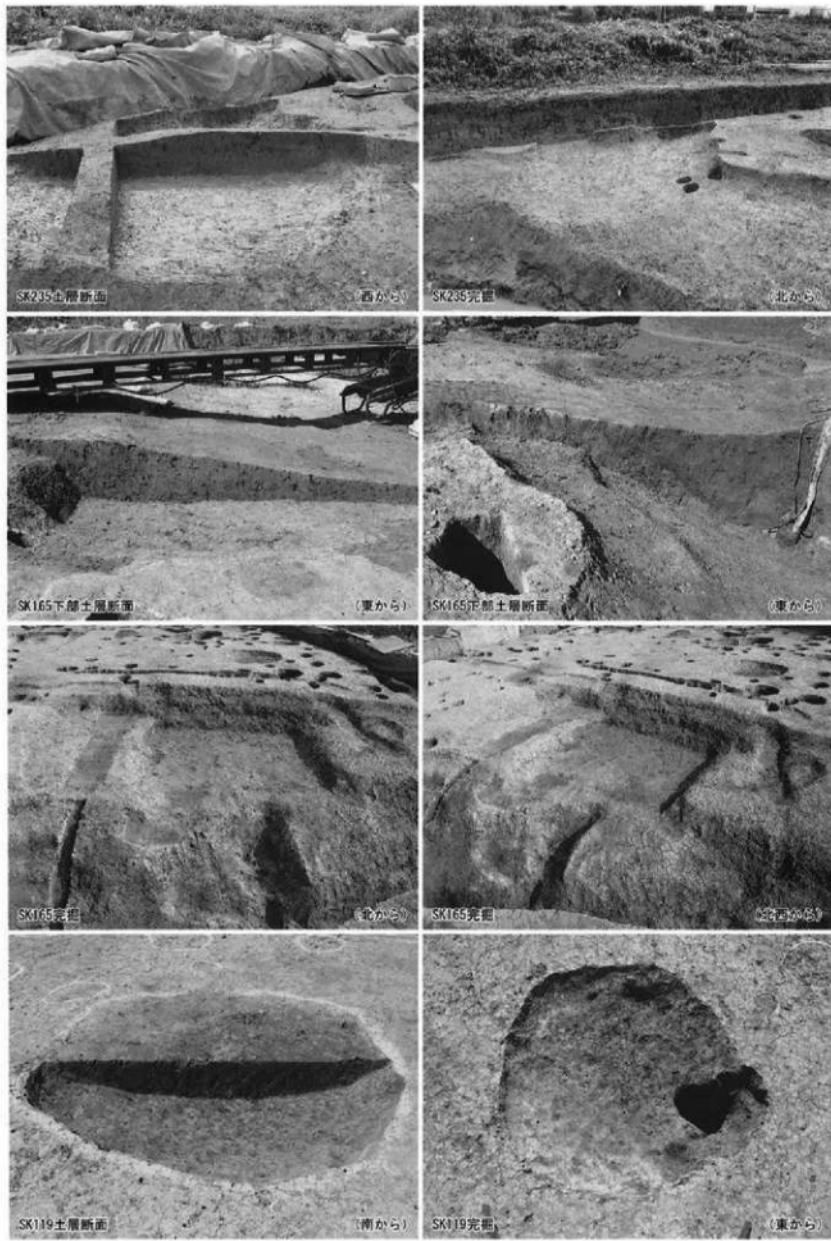


図版33

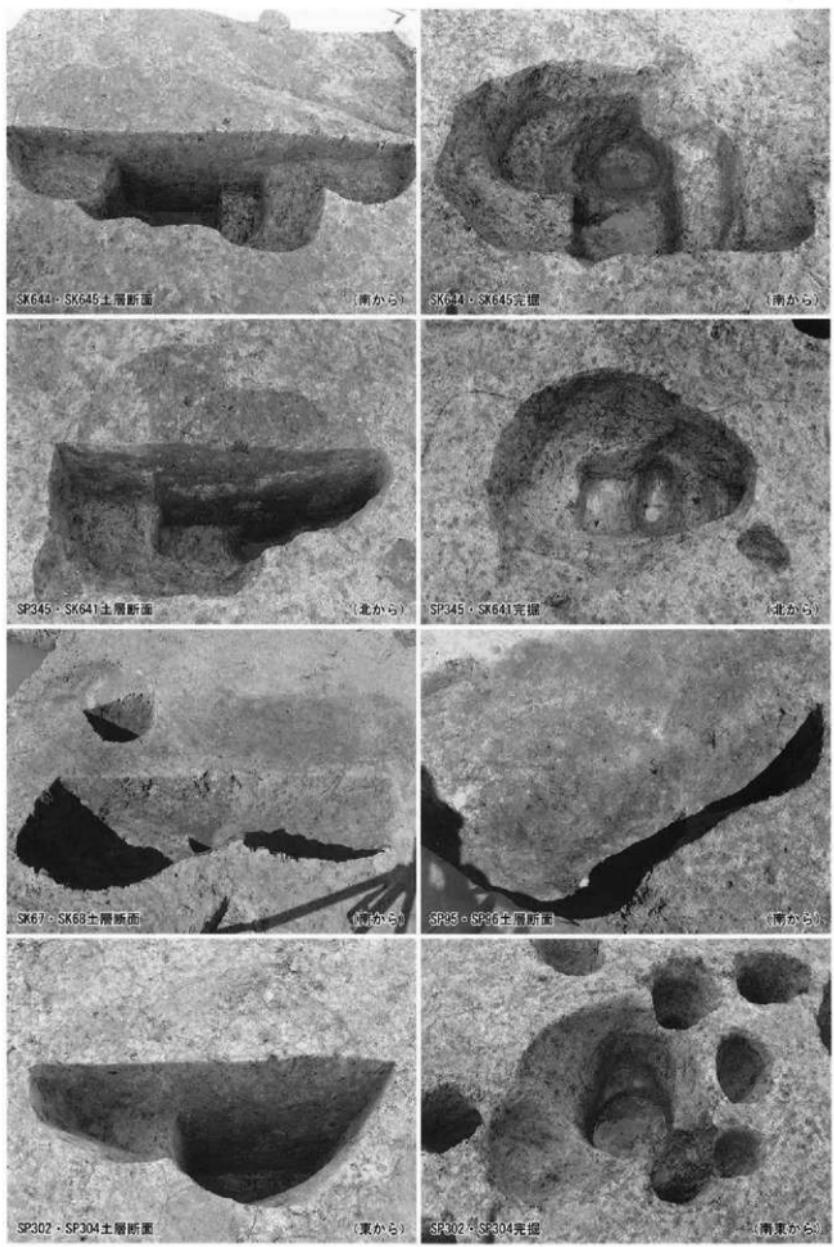


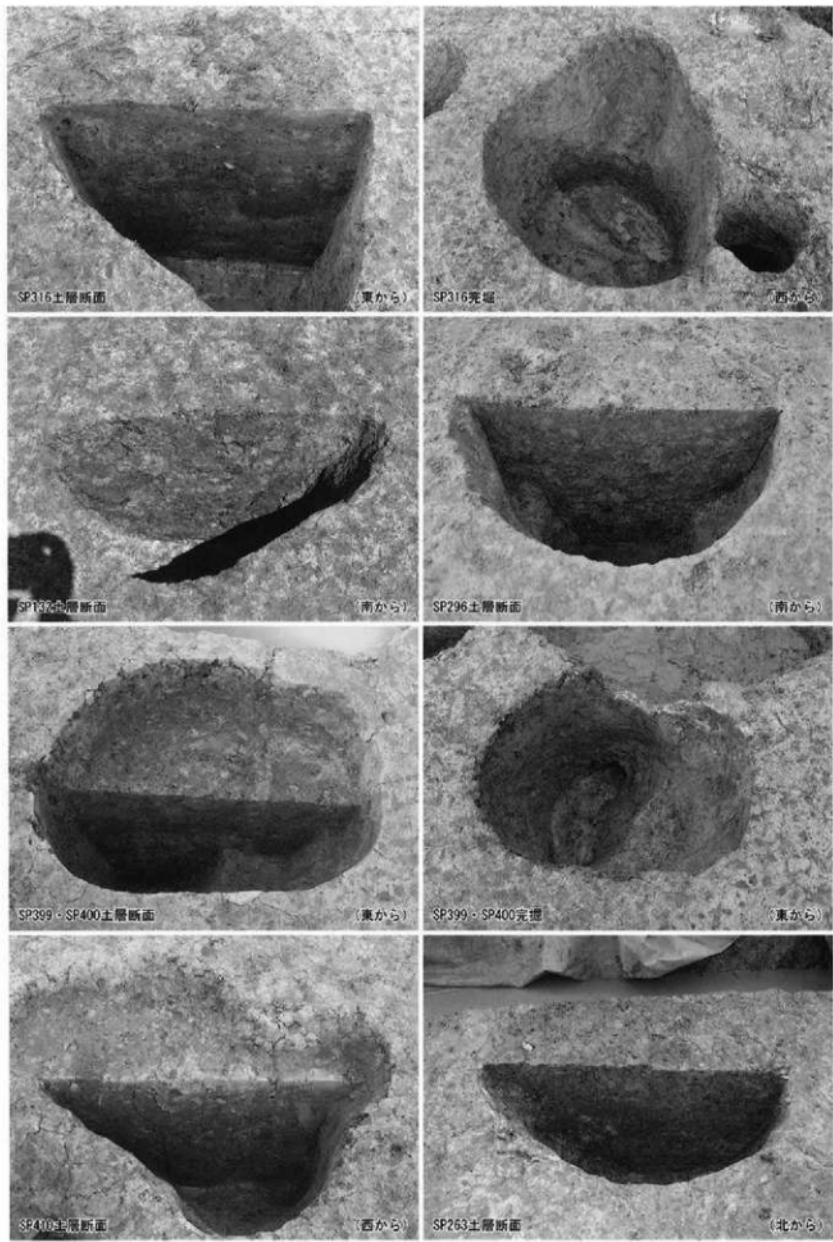
図版34



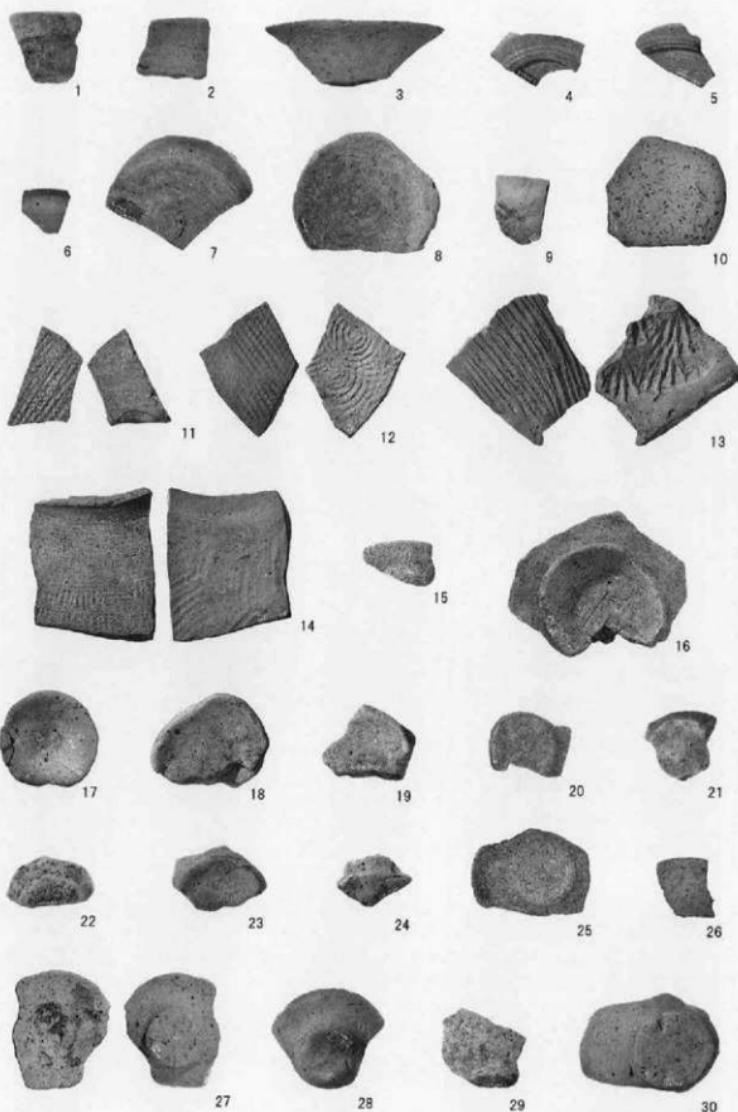


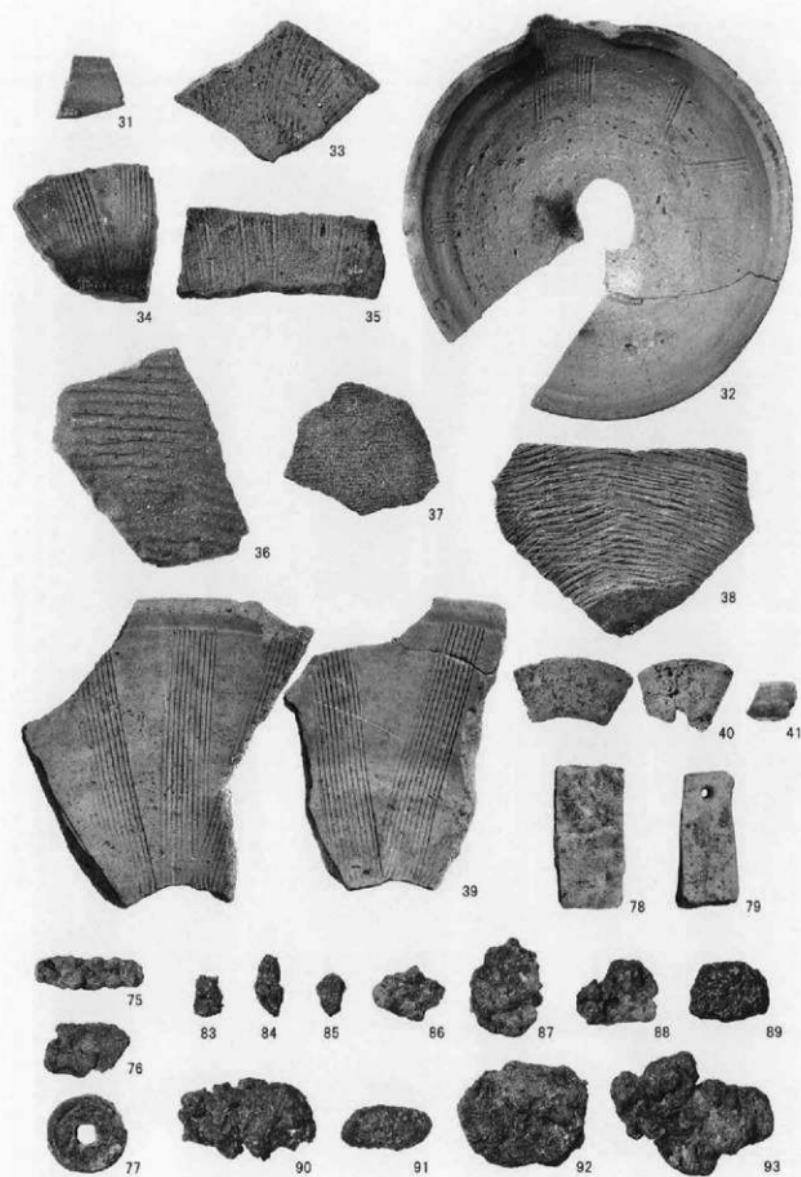
図版36



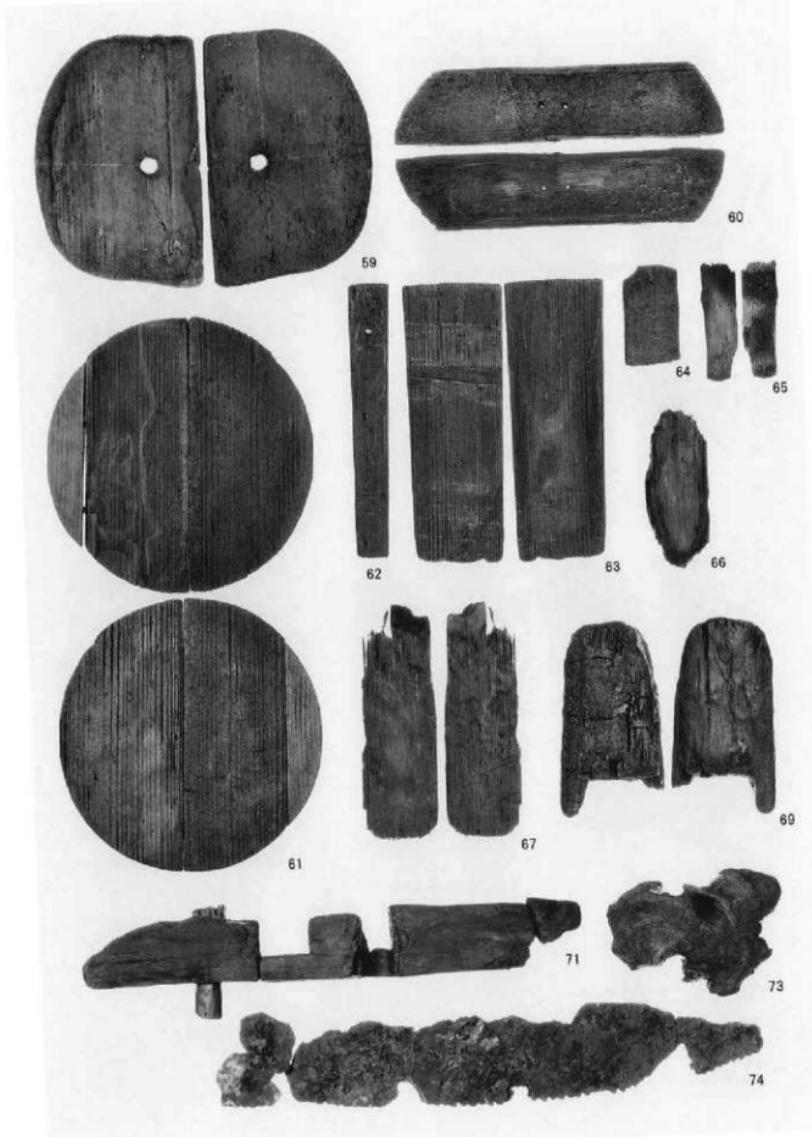


図版38





図版40





图版42



32



42



48



49



72-1



72-2



80



82

報告書抄録

ふりがな	くろべふるやしき							
書名	黒部古屋敷							
副書名	新潟県柏崎市 黒部古屋敷遺跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書第74集							
編著者名	中島義人							
編集機関	柏崎市教育委員会 教育総務課 埋蔵文化財係							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL 0257-23-5111							
発行年月日	西暦 2015年3月25日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間 西暦年月日	調査面積 m ²	調査原因
	市町村	遺跡番号						
黒部古屋敷遺跡	新潟県柏崎市 西山町黒部 字古屋敷	15205	1002	37度 27分 17秒	138度 39分 16秒	20120806 ～ 20121121	750	記録保存 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
黒部古屋敷遺跡	集落跡	古代	溝	土師器・須恵器・鍛冶 津		出土遺物は少なく、時期不明の遺構(柱穴・ピット、 土坑、溝など)が多い。集落は断続的に形成されたとみられる。		
	集落跡	中世	井戸・掘立柱建物	珠洲・越前・青花・錢 貨				
	集落跡	近世	井戸・土坑・掘立柱建 物・櫛・溝	陶磁器(肥前系・瀬戸 美濃系)・漆器・金属製 品・木製品・石製品				
要約	<p>遺跡は、鯖石川支流の別山川左岸に立地する。古代から近世の複合遺跡である。</p> <p>古代は、溝から須恵器・土師器・鍛冶津がまとまって出土した。土師器の形態から11世紀後半頃のものとみられる。周辺では同時期の資料はほとんど確認されていないことから、当時の様相を検討するための貴重な資料となる。</p> <p>中世の遺構として確認できたものは井戸1基である。出土遺物が少なく、様相は不明であるが、短期的な集落が営まれたとみられる。</p> <p>近世は、掘立柱建物・櫛・土坑・井戸・溝などが確認された。18世紀前半頃までの遺物が確認される。現在の黒部地区の住宅地は、「ふるやしき」の地から移ったものだと伝わっている。今回の調査結果からすれば、18世紀中頃まで、この地で集落が営まれていたことが確認された。</p>							

※ 緯度・経度は世界測地系に基づく。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第74集

黒部古屋敷

—新潟県柏崎市 黒部古屋敷遺跡発掘調査報告書—

平成26年3月 5日 印刷

平成26年3月25日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 株式会社 小田

〒945-1352 新潟県柏崎市安田4153番地1